

区支え合いのまち推進計画に準じた
取組状況（令和3年度）
～地域の取組み（共助の取組み）～

～この資料の見方について～

「支え合いのまち千葉推進計画」(第4期:平成30(2018)～令和2(2020)年度)は、地域福祉を推進する活動主体により、取組みの体系を「地域の取組み(共助の取組み)」と、「市の取組み(公助の取組み)」に区分していました。地域住民等が主体となって実施した「地域の取組み(共助の取組み)」は、同計画書の第5章(P46～)に掲載しており、「区支え合いのまち推進計画(区計画)」として位置づけられていました。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けて計画の策定を延期したため、地域における活動について達成状況を評価することは困難な状況ですが、第4期計画に準じた形式により各区において実施した取組みについて集計、記載しています。また、各地域の参考となるよう、各区で実践された事例も紹介しています。

施策の体系図 (第4期千葉市地域福祉計画)

進捗状況の総括表 (各区の最初のページ)

花見川区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)総括表

◆取組みテーマ別取組状況

取組みテーマ	重点取組項目数	主な取組内容
1 見守りの仕組みづくり	9	・75歳以上の高齢化率が高く、見守り活動は不可欠であるため、独居高齢者への訪問活動を毎週実施した。【花見川】 ・民生委員を中心に町内自治会と連携し、見守り活動実施した。また、運営委員会を年4回開催し、活動状況の確認を行った。【こてはし台中】 ・地区部会と町内会が協力し、要支援者への支援体制を充実を図った。【幕張武石】
2 高齢者を支える仕組みづくり	7	・できる範囲で、支え合い活動を実施した。また、広報紙を発行し、PR活動にも努めた。【花見川2】 ・ご近所たすけあい活動を継続実施した。【さつき】

各地区部会エリアの重点取組項目数の合計。(複数テーマにまたがる重点取組項目の場合は、複数回カウントしています。)

進捗状況の詳細 (2ページ目以降)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
花見川地区部会エリア 【人口・世帯数】 12,419人、6,527世帯 【町内自治会数】 5町内自治会 【高齢化率】 19.8% 【地域の特徴】 花見川神社を中心とした古い町	⑧ 地域福祉活動の担い手を育成するために居宅訪問型センターを活用し、ボランティアの育成・ボランティア活動の推進に努めるとともに、活動を周知し、幅広い分野におけるボランティア体験や地域活動への参加を促すなど、若者や企業ボランティア、高齢者ボランティアなどを活用し、人材の育成・活用を努めます。	7	・引き続きボランティア募集のための声かけ、講座開催の方向で進める。	令和3年度に計画した事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、すべて中止となった。	・各事業の休止が続いている中、ボランティアや講座を受ける方達の状況も変化(高齢化など)しており、今後の活動再開に向けた不安材料がある。	
	⑨ 日頃から地域での防災意識を高めるとともに、災害時における地域防災や、協力体制の仕組みづくりの充実を努めます。また、自然災害等による被害を軽減するための住宅の耐震化や震災などの避難防止、食品の備蓄等に努めます。	6	・避難所運営委員会に対して、地区部会として何が協力できるのかを検討の上、協力していく。	花見川小学校・花見川公民館避難所運営委員会の事業への協力を行った。	・避難所運営委員会については、歩みは遅いが、少しずつ動き出している。今後、地区部会として何をどうまで協力していくのかというのが課題である。	ふれあい食事サービス、ふれあいいきいきサロン、ボランティア講座の開催等、2年前のコロナ前の状況に戻すように努めたい。

令和3年度の取組みに当たっての方向性(令和2年度に各区が設定)

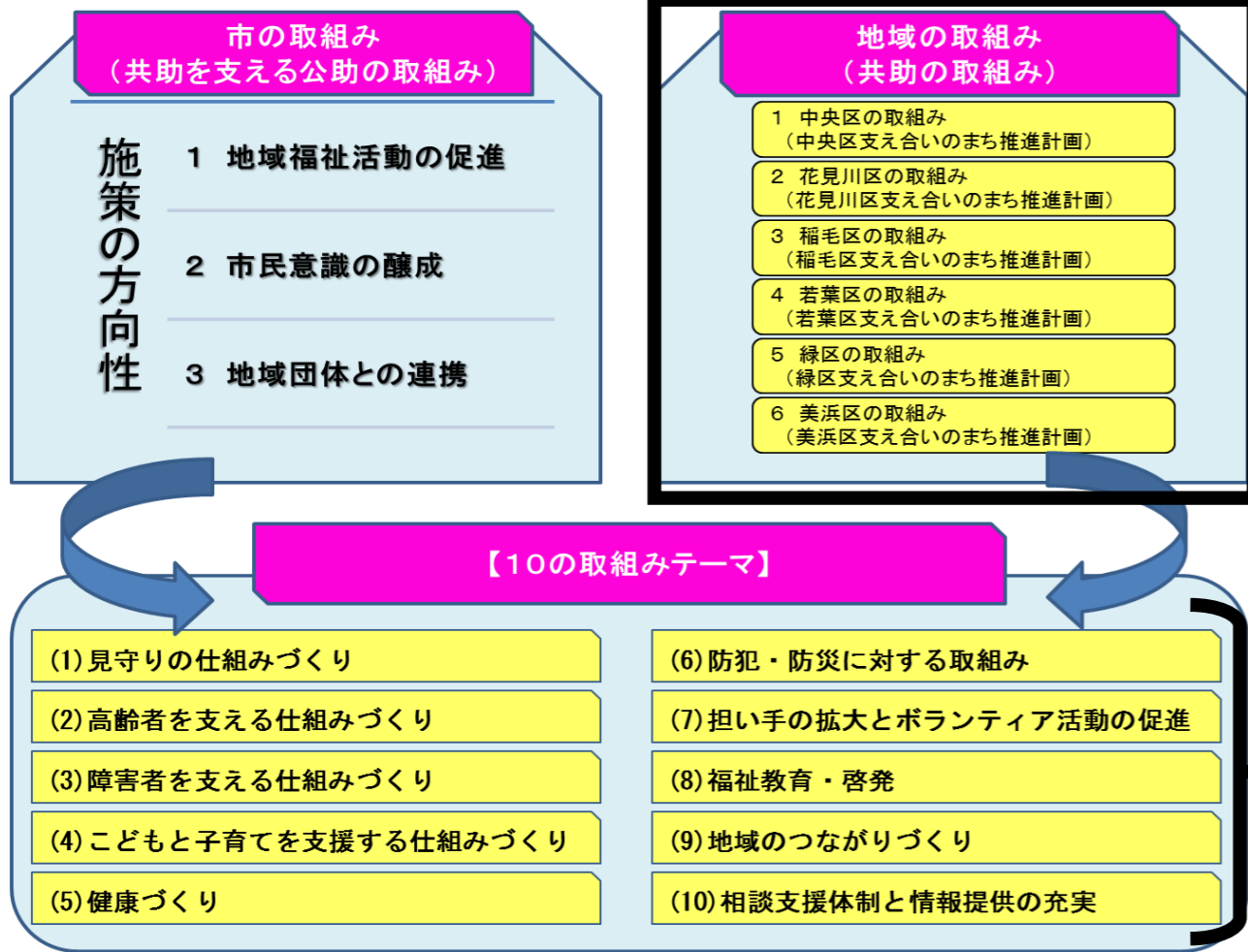
令和3年度の取組実績・課題
令和4年度の取組みの方向性

区が定める重点取組項目及びテーマ番号

市の取組みテーマ番号

地区部会エリアの概要

※計画書(第4期)の32ページを基に作成



目次

1. 中 央 区 … 1 ページ
2. 花 見 川 区 … 17 ページ
3. 稲 毛 区 … 24 ページ
4. 若 葉 区 … 37 ページ
5. 緑 区 … 47 ページ
6. 美 浜 区 … 53 ページ

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)総括表

◆取組みテーマ別取組状況

取組みテーマ	重点取組項目数	主な取組み実績
1 見守りの仕組みづくり	12	・見守り活動は、重点取組地区12地区のうち、8地区で実施(中央区全体としては13地区で実施)。なお、2地区では民生委員が見守りを行っているが、見守り体制づくりについて検討した。
2 高齢者を支える仕組みづくり	18	・いきいきサロンは、重点取組地区9地区のうち5地区で実施した。また、散歩クラブ、シニアリーダー体操、グランドゴルフ等、高齢者の健康づくりに関する取組は、重点取組地区8地区(実施地区17地区)で各地区の実情に合わせた取組を実施し、高齢者の交流や健康維持を図った。
3 障害者を支える仕組みづくり	4	・地域行事での障がい者施設の物品販売への協力、障がい者施設での作業補助や行事の手伝い、障がい者理解のための勉強会の実施等、障がい者の理解や住民との交流の機会を設ける取組は、重点取組地区4地区(実施地区16地区)であるが、コロナの影響で取組を実施できなかった地区が多かった。
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり	15	・セーフティウォッチャー等、子ども達の安全を見守る取組は重点取組地区6地区(実施地区17地区)で実施。また、子ども向けの地域行事や放課後子ども教室等、子ども達との交流を図る取組は重点取組地区2地区(実施地区17地区)実施しているが、大規模イベントや屋内の活動は実施が困難であった。子育てサロンは重点取組地区7地区(実施地区16地区)であるが、感染を考慮し中止とした地区が多かった。
5 健康づくり	8	・散歩クラブ、シニアリーダー体操、グランドゴルフ等、高齢者の健康づくりに関する取組は、重点取組地区8地区(実施地区17地区)でコロナ禍でも、実施できた地区が比較的多く、高齢者の交流や健康維持を図った。
6 防犯・防災に対する取組み	27	・避難所運営委員会は重点8地区(実施17地区)で実施。子ども達の安全を見守る取組は重点6地区(実施17地区)で実施。防犯の取組は重点5地区(実施17地区)で実施。防災訓練は重点6地区(実施17地区)で規模を縮小するなどして実施した。
7 担い手の拡大とボランティア活動の促進	7	・高齢者等の日常生活のちょっとした困りごと等をお手伝いする助け合い活動については、重点取組地区3地区(実施地区8地区)で実施した。また、地域住民の福祉力の向上や福祉活動への参加促進を図る講座等については、重点取組地区4地区(実施地区16地区)で実施し、担い手の拡大に努めた。
8 福祉教育・啓発	12	・子ども向けの地域行事等を通じて交流を図る取組は重点2地区のうち1地区(実施17地区)で実施した。障がい者と住民との交流の機会を設ける取組は重点3地区のうち、1地区で(実施16地区)で実施した。住民の福祉力向上のための講座は重点4地区(実施地区16地区)で実施した。児童に対する福祉教育は重点3地区のうち1地区で(実施地区16地区)で実施した。
9 地域のつながりづくり	14	・重点7地区で地域運営委員会や地域ケア会議等を通じて地域課題の解決に向け協議した。(区内の地域運営委員会は5地区)。高齢者等の日常生活のちょっとした困りごと等をお手伝いする助け合い活動は、重点3地区のうち2地区(実施地区8地区)で取り組んだ。地域行事等を通じて住民同士の交流を図る取組は重点4地区のうち1地区(実施地区17地区)で実施した。
10 相談支援体制と情報提供の充実	12	・重点7地区のうち5地区で、地域運営委員会や地域ケア会議等を通じて地域課題の解決に向け協議した。重点3地区のうち2地区で相談支援の環境づくりに取り組んだ。重点2地区を含む全地区部会で広報紙等で福祉情報の提供を行った。
今年度の振り返り	129	多世代交流や大規模イベント、高齢者や子供の行事など、開催を前提に準備を進めたが、コロナの感染者の増加により開催を取りやめるなど、開催可否の判断が難しい一年であった。感染状況を踏まえ、小人数の行事については、基本的な感染対策を行いながら実施することができた。

今後の課題と方針	コロナ禍で如何に活動を継続していくかが各地区の共通した課題である。また、担い手の確保、町内自治会(役員の交代)・関係団体との連携、活動拠点・活動資金の確保についても引き続きの課題である。今後は、コロナの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開していく。
----------	--

◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

開催日			主な議題等
令和3年度	第1回	8月30日(月) (書面開催)	(1)第4期中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30～令和2年度)について (2)第5期中央区支え合いのまち推進計画(令和4～8年度)の原案について
	第2回	12月13日(火) (書面開催)	(1)第5期中央区支え合いのまち推進計画(原案)の検討結果について

◆区の地域福祉に関する好事例等

【みんなの想いが新たな形に！！】 ～淑徳大学と連携した白旗台地区部会『ふれあい食事サービス』～

白旗台地区部会では、コロナ禍で中止となっていた『ふれあい食事サービス』によるお弁当の配食を、令和3年10月より、形を新たにスタートさせました。当地区部会では、地区部会設立の翌年にあたる昭和62年11月より、主に70才以上の独居の方に対し、栄養の確保、食生活全体への注意喚起、見守りや安否確認などを目的として、月1回、ボランティアが南部青少年センターで調理した手作り弁当の配食を開始。今年で35年目を迎えました。この事業の開始当初、目的の一つとなっている「栄養の確保」については、月一回のお弁当では限界があるものの、食事がおろそかになりがちの高齢の方にも食生活に気を配ってもらえるように、いろいろな食材を使うことで、バランスのとれた「食事の見本」になるようなお弁当作りを心がけてきました。しかし、新型コロナウイルス感染症収束の兆しが見えない中、調理施設の利用人数制限もあり、手作りによるお弁当の配食が困難となりました。このような状況においても、何とか続けることはできないかと模索する中で、昨年4月より数回の打ち合わせを重ね、淑徳大学と大学の食堂で食事を提供しているMKFグループの協力により、新たな仕組みによる食事サービスが始まりました。令和3年10月より、月1回の試行的実施。令和4年4月より、第1・第3木曜日、月2回の本格実施となりました。形は変わっても、事業開始当初の熱い想いを胸に、白旗台地区部会の『ふれあい食事サービス』はこれからも続いていきます。

<注目ポイント>

- Point1 「千葉市と淑徳大学との包括的な連携に関する協定」に位置づけられた取組みとして、淑徳大学、白旗台地区部会、市社会福祉協議会で覚書を取り交わし、実施。
- Point2 献立を淑徳大学栄養学科の学生が、大学のカリキュラムの一環として作成。メニューに従って、淑徳大学第二キャンパスの学食で食事を提供しているMKFグループ(株)が弁当を作成
- Point3 お弁当の配食は、主に民生委員が担当しているが、淑徳大学の学内ボランティア団体「共生(ともいき)スタッフ」や社会福祉学科の学生も同行。学生にとっても良い実習の場となり、高齢者も学生との交流を楽しみにしている。

【集わなくても繋がれる】 ～オンラインを活用した高齢者と児童との交流～

東千葉地区部会では、例年、千草台東小の授業の一環として、全学年を対象に、昔遊び(お手玉、あやとりなど)や戦争体験のお話などを通じて、高齢者と交流会する機会として、「菜の花サロン」を年6回実施していました。コロナ禍で昨年度は開催できなりましたが、令和3年度は、小学校と協議の結果、オンラインを活用することにより、12月に開催することができました。これまでは昔遊びを高齢者が教えていましたが、今回は、上級生から教わった1年生が、練習してきたお手玉・あやとりを、オンラインで披露しました。児童の一生懸命な様子に、高齢者も目も細めて見守り、また感想を伝えました。また、戦争体験は6年生を対象として、従前は、高齢者が話す戦争体験に対して、児童が意見や感想を述べたり、質問に対して高齢者が答えるといった形式でしたが、オンラインでもスムーズなやり取りができるように、前もって作成した動画を、事前に児童に見て学習してもらい、それに対する感想や意見、質問について答える形式で行われ、たくさんの質問に対して、高齢者も丁寧に答え、児童にとっても高齢者にとっても有意義な時間となりました。

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組の方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組の方向性	
都地区部会エリア	【人口・世帯数】 9, 243人、4, 623世帯 【町内自治会数】 10町内自治会 【高齢化率】 24. 4% 【地域の特徴】 ○都町、都町1～3丁目を対象としたエリア。千葉市の政令都市移行に伴い、前組織の都加曾利地区部会が、中央区の都町と若葉区を加曾利町に行政区が分かれたことに伴い、分離分割し設立に至った。	③ 見守り体制をつくる	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。 ・活動の中で最も要望が強く、リスクも少ないと思われる手芸の再開の準備をしている。	これまで、見守りの対象者は独居高齢者に特化していたが、コロナ禍でこれまでの生活が一変したことにより、新たに見守りが必要な住民の存在を知り、協力員の増員と同時に体制の再構築をすることで強化を図った。	これまで、何度となく再開に向けパンフレットの作成や、名簿の整理等準備を進めてきたが、状況の好転は見られず、ほとんどの活動を中止せざるを得なかった。そのような中で、スタッフの士気が下がるとは不安な気持ちになる。一方では、コロナ禍だからこそ、できることがあるのではと模索しながらの葛藤の一年だった。	基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多い大規模なイベントについては規模縮小するなど、すべての取組を実施する。 今年度は、少しずつだが再スタートを切ったので、規模の縮小や方式の変更などの調整を試みながら、活動を継続していきたい。	
⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実				2			いきいきサロンについては、再開への要望が強いを受け、スタッフとの会議を通し、再三対策を検討したが、時期尚早ということで開催を見送った。 70才以上の独居高齢者を対象とした年末慰問は、お手紙を同封しての配布なので、面談を避けることで例年どおり実施した。
⑨ 子育てサロンの充実				4			保護者への電話を通して近況報告を伺いながら、再開への準備を進めていたが、コロナの感染状況に鑑み、再開を断念せざるを得なかった。
⑬ 障がい者の地域社会での福祉活動の促進				3			施設訪問を予定していたが、コロナの収束の目途が立たない状況から、延期を決定した。
末広地区部会エリア	【人口・世帯数】 12, 681人、6, 787世帯 【町内自治会数】 4町内自治会 【高齢化率】 20. 8% 【地域の特徴】 ○長洲の一部、末広、千葉寺町の一部、青葉町の一部を対象としたエリア。 地区内に末広街道・大網街道の幹線道路や地区を斜めに横切る京成電鉄の千葉寺駅がある。 また、隣接地区の製鉄所跡地に大規模ショッピングセンターができ、交通量の増加など環境が徐々に変わりつつある。また、地域を斜めに横切る京成電鉄の千葉寺駅や青葉の森公園が存在しており、それらに伴う道路網の整備のため、最近では、末広街道・大網街道とも交通量の増加している。	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。	各避難所運営委員会で、避難所開設訓練の実施を予定していたが、コロナ感染が収束しないために、開催には至らなかった。	事業実施に向けて準備をしても、コロナの感染状況により、中止を余儀なくされるような状況であった。 コロナ禍でいかに活動していくかが今後の課題である。	新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。	

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
寒川地区部会エリア 【人口・世帯数】 5,670人、3,108世帯 【町内自治会数】 6町内自治会 【高齢化率】 22.6% 【地域の特徴】 ○港町、寒川町、稲荷町を対象としたエリア。JR本千葉駅と蘇我駅の間に位置している。かつては寒川神社を中心に、川崎製鉄の裏門に沿って栄えた地域で、昔からの住民が多く、かつ一戸建てが多く存在しているためか、住民の転居なども少なく、高齢化が比較的に進行しやすい環境の地域である。	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。	災害時要支援者の避難支援体制を構築するため、地区部会が、町内自治会の協力を得て、災害時要支援者の近隣の方に支援者(避難を手伝う協力者)として登録いただき、作成した「災害時要支援者及び支援者名簿」を更新した。また、災害発生時に備え、例年、地区部会が災害時要支援者の避難訓練を実施するとともに、避難所運営委員会が、6町内自治会合同の防災訓練を実施し、災害時要支援者の避難支援体制のさらなる充実を図ってきたが、令和3年度は、コロナの影響で実施には至らなかった。	事業実施に向けて準備をしても、コロナの感染状況により、中止を余儀なくされるような状況であった。コロナ禍でいかに活動していくかが今後の課題である。	新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。
ちば中央地区部会エリア 【人口・世帯数】 16,092人、9,021世帯 【町内自治会数】 27町内自治会 【高齢化率】 24.3% 【地域の特徴】 ○中央、市場町、長洲の一部、本町、東本町、道場南、鶴沢町、旭町、亀井町、亀岡町、亥鼻、葛城、青葉町の一部を対象としたエリア。 千葉市の歴史、文化、経済の中核的な役割を果たしてきた地域で、繁華街と商店街が多く、また、千葉城・青葉の森などの文化・芸術施設も多い。	③ 見守り体制をつくる	1	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。	民生委員・福祉活動推進員及び町内自治会の協力をいただきながら、個別対応ではあるが見守り活動を継続して実施している。	事業実施に向けて準備をしても、コロナの感染状況により、中止を余儀なくされるような状況であった。コロナ禍でいかに活動していくかが今後の課題である。	基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多い大規模なイベントについては規模縮小するなど、すべての取組を実施する。
④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6		例年、3か所の避難所運営委員会で、年1回、地域住民の参加を呼びかけ、消火訓練やAED訓練、ハイゼックス体験、マンホールトイレ体験等を内容とした防災訓練を実施し、防災意識の向上を図っているが、一つの避難所運営委員会で、あんしんケアセンター千葉寺、中央区基幹相談支援センターの協力のもと、在宅酸素の住民の避難を想定し、HUG(避難所運営ゲーム)の勉強会を開催し、情報の共有を図るとともに、障害を持つ方の避難について、理解を深めた。			
⑮ 相談体制・情報提供の充実	10		葛城町内会では、町内会、民生委員、あんしんケアセンター千葉寺が参加し、地域課題を話し合うとともに支え合い活動の勉強会を実施した。また、地区部会では、一昨年、住民が気軽に参加できる集いの場を提供する具体的な取り組みとして、あんしんケアセンター中央、プラチナホーム都の社なのはなと協議を重ね、近隣住民が参加できる認知症カフェをモデル的に2回実施したが、コロナ禍で実施を見合わせている。			
⑰ 地域での福祉教育の推進	8			例年、敬老会の際、小学校、中学校の児童・生徒が参加し、歌や踊りを披露するなどのボランティア体験を通じ、福祉の心を育む機会を設けるとともに、高齢者との交流を図っているが、コロナの影響により中止。		

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組の方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組の方向性
中央東地区部会エリア	① 地域支えあい連絡会の設置・推進 ③ 見守り体制をつくる ⑦ 地域での健康づくり支援の充実 ⑨ 子育てサロンの充実	9 10 1 2 5 4	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。	年2回開催予定の「地域ケア会議」は、コロナ感染症の為、1回目は書面開催となったが、2回目は12月に開催した。	高齢化が進むにつれ、亡くなられたり、施設に入所されたり、子どもの元へ引越えさせられたり、対象者が減少している。回覧を回しても申し込みがないのが現状である。 また、活動スタッフが高齢となり、若い担い手がいないことが心配。いかに担い手を確保していくかが課題である。	新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。
見守り活動については、例年どおり活動を行った。ただし、訪問型の対面は取りやめ、目配りまたは電話により確認を行った。年4回の各自治会での報告会、そして同月にリーダー報告会を行った。また、見守り活動の現状報告と、希望者・協力者募集の回覧を全町内自治会でを行った。						
「いきいきサロン」や「ふれあい散歩」のように、人の集まる活動は、対象者が不安という意見から、全て中止とした。各町内自治会で、早朝ラジオ体操、老人会では、公園にてグランドゴルフを行っている。						
「子育てサロン」についても感染症の不安から、すべて中止とした。						
東千葉地区部会エリア	② 支え合い活動の仕組みづくり ③ 見守り体制をつくる ④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	7 9 1 6	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。	地区部会が高齢者等のちょっとした困りごとを支援する「ちょっとボランティア」と、地域の助け合いのグループである東千葉ハッピータウンの会(ポイント制による会員同士の相互支援の会)を統合し、新たに「ハッピーボランティア東千葉」として支え合い活動に取り組んでいる。また、対応できないケースについては、コーディネーターが専門機関を紹介できるよう他の支援サービスの一覧を作成している。	コロナ禍で会食や多世代交流などのイベントが出来ない中で、ノウハウをいかに継承していくかが課題である。 また、コロナの影響で閉じこもりがちとなった高齢者に対し、如何にフレイルを予防していくかが課題である。	コロナの感染状況を見て、基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多い大規模なイベントについては規模縮小するなど、すべての取組を実施する。
ハッピーボランティアの会では、高齢者等、支援が必要な方を対象に、日常的な目配りによる見守り活動に取り組むとともに、住民同士が知り合える機会の提供に努めた。また、民生委員が、「安心カード」を75歳以上の高齢者に配布している。なお、一部の町内自治会では、希望者にも配布している。さらに、住民同士が気軽に声をかけ合い、認知症の方が安心して暮らせる地域を目指し、「福祉展示」を実施した。						
例年、地区部会と7町内自治会が協力し、合同の防災訓練を実施しているが、コロナの影響で中止となった。また、地域の中で防災に関心の高い方々で組織した「防災サポートの会」との協力体制の構築を図っている。						

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組の方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組の方向性
西千葉地区部会エリア						
【人口・世帯数】						
12,697人、6,686世帯	③ 見守り体制をつくる	1	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。	地区部会・第五地区町内自治会連絡協議会・108地区民児協の三者協働で、平成19年から見守り活動として、「安心カード・緊急メモ」を作成し、6町内のひとり暮らしや障害者、現在は、75才以上の高齢者に配布し、玄関、電話の場所に設置してもらっている。救急車での搬送時には、連絡先等が明記されているため大変助かったと感謝されている。 6町内自治会全てにおいて、独自の方向で見守り活動を実施。見守り対象者の更新を毎年行っている。向こう三軒両隣の目配りや声かけを実施。また、防犯パトロールにおいては、地域住民が「安心・安全」に生活できるよう不審者情報・詐欺情報・火の用心等を周知し、実施した。	地区部会の事業計画は、感染防止対策・参加者の制限を行い、集うことの困難な事業は創意工夫をして概ね計画どおり取組みを実施した。 関係団体の地域事業の取組みは、実施が難しく、中止となったものが多かった。	新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。
【町内自治会数】						
【高齢化率】						
18.8%	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6		民生委員が中心になって民生委員が把握している情報をもとに、災害時要支援者の同意を得て、名簿と対象者を地図に落とし込んだマップを作成し、町内自治会と情報を共有している。名簿とマップは今年度も更新した。 災害時には、日常的な見守り活動を行っている協力員が、避難支援を行う体制をとっている。 避難所運営委員会が、年1回会議を開催し、備蓄品の確認を行った。		
【地域の特徴】						
○登戸、春日、汐見丘町、新千葉の一部を対象としたエリア。 地区内に京成の新千葉駅及び西登戸駅、JRの西千葉駅がある。 隣接する地域に千葉大学、千葉東高校、千葉商業高校等、複数の教育施設がある文教地域。						
	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5		地区部会では、コロナ禍の中、介護教室は開催できないため、高齢者福祉委員会と障がい者福祉委員会が合同で、千葉市中央介護専門学校に協力を得て、「健康体操」の冊子を作成し、また、川柳(全国有料老人ホーム協会からの抜粋)を、支援の必要な高齢者に、「行動制限の多い日々ですが、健康を維持し、明るい気持ちで毎日を送っていただけますように」と願いをこめて、手紙と心ばかりの品を添えてお届けした。 6町内自治会中、5町内自治会において、老人クラブが組織されており、老人クラブが「グランドゴルフ大会」を開催した。 スポーツ振興会では、「ウォーキング」を定期的実施するとともに、「バレーボール大会」を開催した。 シニアリーダーが、特別養護老人ホーム新千葉一輪荘を会場に、月2回、シニアリーダー体操を行った。 登戸ラジオ体操会が、毎日、登渡神社でラジオ体操を行った。		
	⑪ 世代間交流の場の提供	9		地区部会では、今年度は、登戸1丁目公園で、福祉ふれあいミニバザーを開催した。感染対策をし、近隣の親子連れ、若者、高齢者が集まり、世代を超えた交流の場となった。 特別養護老人ホーム新千葉一輪荘では、年数回「地域交流会」を開催、地域の子供たちも参加した。 町内自治会主体で実施している清掃活動、「ごみゼロの日」「毎月の公園清掃」には、大人も子供も参加し、交流の機会となった。 町内自治会サークルが一堂に会して、「発表会」「文化祭」を開催、地域で交流の場となった。		
	⑭ 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	7 8		地区部会が、「防災教室」を年1回開催した。 「介護予防教室」が実施できなかったため、支援が必要な方等への健康体操冊子を作成し、配布した。 各町内自治会でも、老人クラブと協力して、認知症や口腔ケア等の福祉講座を開催した。		
	⑰ 防災体制の充実	6		地区部会では、年1回、地域住民や地区部会役員を対象に、防災意識の啓発や赤十字救急法等を内容とした防災講座を開催した。 6町内自治会では、すべてに自主防災会があり、各防災会が、年1回、安全確認、避難訓練、初期消火、応急手当訓練、非常食配布、発電機起動実演、AED訓練、ハイゼックス訓練、起震車、煙体験などの訓練や防災講座を実施しており、赤十字奉仕団と協力している。防災訓練には子ども達も参加している。		

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
中央地区部会エリア						
【人口・世帯数】 6,610人、3,953世帯						
【町内自治会数】 6町内自治会						
【高齢化率】 19.7%						
○弁天、栄町、富士見、本千葉町、新町の一部、新千葉の一部を対象としたエリア。 JR千葉駅周辺の地区で、駅北口側の住宅地や千葉公園、東口側の商業施設や繁華街が共存している地域。	⑤ すべての子どもを地域で育てる	4 6	<p>・基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多い大規模なイベントを除き、少人数の取組又は人数を減らしてを実施する。</p> <p>・防水ゲート開閉訓練は、千葉市から鍵を借用できず、実施困難である。</p>	<p>当地区部会では、弁天北部方面の児童を対象に、弁天小学校への毎朝の集団登校に付き添うとともに、弁天小学校の1～2年生を対象に、毎週金曜日の下校時、校門から自宅まで送り届ける「こどもみまもり隊」パトロールを実施した。また、児童の健全育成を図るため、地区部会と生涯学習センターが共催し、「夏休み親子お楽しみ会」を開催し、児童向けの映画鑑賞、歌や踊りを通して、児童の情操を養うとともに地域の連携を深めた(コロナ禍で規模を縮小して開催。参加者79名)。</p> <p>例年、弁天小学校の「わくわくキャンパス」(毎週木曜日、15:00～16:00)に地区部会も協力しており、ソフトボール、バスケット、マット遊び等、児童と一緒に遊び、かつ児童の見守りを年間25回程度行っているが、令和3年度はコロナの影響で中止。</p> <p>地域住民が、セーフティウォッチャーに協力し児童の安全を見守った。</p>	<p>団体として活動をするため、やはり感染が怖く、サロン活動は半分くらいしか出来なかった。</p> <p>コロナ禍でいかに活動していくかが今後の課題である。</p> <p>また、継続して取り組みを実施していくための担い手の確保については、引き続き課題である。</p>	<p>新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。</p>
	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2		<p>例年、地区部会(高齢者福祉委員会)が、いきいきサロンを3会場で実施。中央区健康課の介護予防体操や、あんしんケアセンター中央の健康講話を取り入れる等、内容の充実に努め、高齢者の健康維持や仲間づくりに取り組んでいるが、令和3年度はコロナの影響で5回の実施となった。</p>		
	⑩ 防犯対策の推進	6		<p>地区部会では、弁天小学校の1年生とその保護者を対象に、NPO「体験型安全教育支援機構」を講師に迎え、「児童向けの安全教室」を実施し、不審者に捕まりそうになった時の逃げ方等を訓練した。</p> <p>町内自治会では、防犯に対する意識の向上を図るため、防犯パトロールを実施した。</p>		
	⑱ 防災体制の充実	6		<p>弁天町会では、千葉公園の綿打池が過去の大雨で氾濫した経験を踏まえ、防水ゲートの開閉訓練を計画していたが、ゲートの開閉は市の委託業者がやることとなり、住民で行う必要が無くなった。</p>		

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
新宿地区部会エリア 【人口・世帯数】 12,456人、6,747世帯 【町内自治会数】 5町内自治会 【高齢化率】 16.4% 【地域の特徴】 ○新宿、神明町、新田町、出洲港を対象としたエリア。千葉市のほぼ中心に位置し、近くにはJR千葉駅や京成千葉中央駅等がある。学区及び周辺は、デパート等の大型店舗が軒を並べる市内有数の商業地域がある。新興集合住宅が多く建設され、ファミリー層が流入してきている。	③ 見守り体制をつくる	1	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。	民生委員が主体となり、あんしんケアセンターと連携しながら見守りを行っている。また、マンションについては管理人に見守りをお願いしている。 町内自治会や老人会では、諸行事を通じて顔見知りになる機会を設け、緊密な人間関係の構築に努めている。 地区部会では、あんしんカードをすべての75歳以上の方へ、令和5年に配布できるよう、準備を進めている。また、見守り活動に協力いただける方に、セーフティウォッチャーや近所のさりげない見守り活動に協力いただいている。	コロナの感染拡大により、活動を継続することが困難であった。 地域団体の基盤となる町内自治会役員のなり手の減少、1年で交代となるところが町内自治会に加入する人が少ない、地域行事の担い手不足など、は継続した問題。 安定した事業運営のための担い手や継続した活動資金の確保が必要である。	基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多い大規模なイベントを除き、少人数の取組みに絞って又は人数を減らして活動を実施する。
	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6		新宿小学校の避難所運営委員会が設立され、隔月で会議を開いている。避難所運営委員会では、避難所に避難してきた人々に対してスムーズな受け入れが出来るよう、住民参加による避難訓練を実施し、例年、100人強が参加しているが、令和3年度はコロナの影響により、規模を縮小して実施した。		
	⑤ すべての子どもを地域で育てる	4 6		例年、町内自治会や子ども会では、餅つき、お祭り、お花見、盆踊り、新年会、敬老会の余興など、地域の行事に子どもたちが参加し、住民と交流しているが、令和3年度はコロナの影響により中止。 地区部会では、幼少期の子どもを持つ親の負担を軽減するため、新宿公民館で「ベビーマッサージ」を年2回開催し、子育て中の親の育児相談を行うとともに、新宿保育所内の地域子育て支援センター「にこにこルーム」にボランティアとして参加しているが、令和3年度はコロナの影響により中止。 地域住民が、新宿小学校の「放課後子ども教室」や1年生を対象に年1回実施している「昔遊び等の体験活動」に参加し協力している。また、「こども110番のいえ」に協力するとともに、セーフティウォッチャーとして学校に30名登録して登下校時の子ども達の安全を見守った。		
	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2		例年、地区部会では、高齢者の仲間づくりの場を提供するため「ふれあい・いきいきサロン」を年2回実施しているが、コロナの影響により令和3年度は中止。 町内自治会や老人クラブでは、誕生会、ランドゴルフ、カラオケ等を実施し、月1回程度は高齢者が交流する機会を設けているが、同様に中止。		
	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5		地区部会では、高齢者の健康増進を図るため「歩こう会」を年2回実施しているが、コロナの影響で中止となった。高齢者を対象に認知症をテーマにした健康セミナーについては、例年どおり開催した。 スポーツ振興会では、ランドゴルフ大会を年2回開催した。 新宿公民館では、週1回、シニアリーダー体操が行われている。		
	⑩ 障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	3 8		例年、地区部会の障がい者福祉委員会が、千葉県聴覚障害協会の就労継続支援施設「らいおん工房」で、月1回、手作り販売品の作成等を手伝うボランティア活動を行い、障がい者との交流を図っていたが、コロナの影響により、販売品の材料の寄付や販売品の購入を通じて交流を図った。		
	⑭ 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	7 8		地区部会が、中央区健康課と連携し、住民の福祉力向上を図るため、「認知症について」の講演会を年1回実施した。		
	⑱ 防犯対策の推進	6		町内自治会では、月2回、防犯パトロールを実施するとともに、年2回、地域交番(京成交番)と連携し、地域の防犯意識の向上に取り組んだ。		
	⑲ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6		新宿小学校の避難所運営委員会が設立され、隔月で会議を開いている。避難所運営委員会では、避難所に避難してきた人々に対してスムーズな受け入れが出来るよう、住民参加による避難訓練を実施し、例年、100人強が参加しているが、令和3年度はコロナの影響により、規模を縮小して実施した。		

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
蘇我地区部会エリア	⑫ 高齢者の地域社会での福祉活動の促進	2		例年、地区部会のボランティア委員会が、月1回、「セントケアホーム蘇我」「グループホームさくら」の2施設で行っている話し相手やイベント手伝い等の活動を継続して実施しているが、コロナの影響で中止。なお、今後の訪問活動内容について検討中。		
	⑮ 防犯対策の推進	6		例年、民生委員定例会や地域ケア会議、いきいきサロンで実施している、「振込詐欺の対応や防止策」等についての講座は、コロナの影響で中止。 育成委員会では、青色パトロールを各町内自治会で週割し、実施した。 第9地区連協では、49町内自治会のうち41町内自治会が防犯パトロール隊を結成し、パトロールを実施した。 移動交番が、蘇我コミュニティセンターや東武ストア蘇我店に開設されている。 昨年度、蘇我中学校区の小・中学生と一緒に作成した「子どもの目からみた安全マップ」を広報紙に掲載し、活用する予定である。 地域住民が「こども110番の家」に協力している。 PTAが学校の長期休暇に合わせ、防犯パトロールを兼ねて実施している地区内一斉点検に地区部会が協力した。		
白旗台地区部会エリア	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。	(1)コミュニティづくり懇談会では、コロナ禍においても万全な対策を取って予定通り年3回の開催を計画して準備を進めた。10/2の第1回では「風水害の対応について」特にコロナ禍における対応を含めて危機管理部長を講師に迎え実施した。(参加者75名)さらに10/30の2回目では「これからの千葉市のまちづくり」について神谷市長を講師に110名が参加して実施することができた。第3回目は1/22に都市部長を講師に実施する準備を進めたが、コロナの第6波のピークと重なり、講師側の意向もあって(中止)翌年に延期することにした。また実施した講演内容を「コミニだより」に掲載し各家庭に回覧した。 (2)避難所の立上げ訓練等は千葉市の計画日である8/29に7か所ある避難所の大半で実施した。(一部遅らせて実施した所もあり)但し多人数での実施には問題が多いため、多くの避難所では避難所運営委員のみで、備蓄品の確認や備品の試用程度の訓練となった。 (3)青色装着車によるパトロール活動については、コロナ禍にもかかわらず学校のある日には毎日3台程度でパトロールをほぼ実施できた。但不審者の押さえ込みについては、学事課からの情報提供に問題があり、対応が遅れたこともあって蘇我中学校地区で10件発生してしまった(学事課経由の連絡はそのうちの1件のみであった)。件数的には市の平均近くまで戻ってしまった結果ではあったが、蘇我中地区で発生した不審者対応は早く行える体制づくり等は行うことができた。 (4)避難所備蓄品の充実については、エアーマットとトイレキットを購入し7か所の避難所の全てに市の配布品とは別に配布することができた。 (5)地区部会補助金の統合補助金化や地域ケア会議の充実については、対応先との会議がコロナ禍で持たず特に進展はなかった。それでもフレイル対応や個別案件についてはあんしんケアセンター等と話し合いはできた。	・新型コロナウイルスの感染症が、かなり危険な状況から大分安心できるレベルまでいろいろ変化中、できる限りの対策をとって「実施」と判断したものについては、しっかり実施したが、その判断が難しかった。 ・フレイルの言葉は知っていたが、高齢者が家に引きこもり、仲間等との交流を絶たれると、こんなに多くの人が肉体的に衰弱し、認知症等も悪化するものかと、フレイルの怖さを実感した。 ・一方、高齢者の参加が中心となる事業については、どうしても安全サイドの判断にならざるを得ず、「実施」か「中止」かの判断は特に難しかった。 ・具体的な判断の指針または相談先の確保は、今後の課題としてぜひ欲しいと感じた。	・新型コロナ感染症の状況をよく見ながら、これまでの経験を生かしてしっかり判断し、対策は十二分に取ながら、できるだけ多くの事業を、無理のない範囲で、内容のある形で実施していきたい。
	② 支え合い活動の仕組みづくり	7 9		(1)令和3年度の活動に際しても、支え合いの事業内容については、コロナ禍であることを配慮して「生活必須」のものにできるだけ絞って実施することにした。 (2)それでも活動件数は毎年着実に増加し、令和3年度は461件と大幅に増加して実施することができた。これは38件/月以上で、ゴミ出しが大半となっているものの、当初予定の値をほぼ達成することができた。		
	③ 見守り体制をつくる	1		(1)コロナ禍でいろいろ苦勞があったが、防犯パトロール活動と連携した「さりげない見守り」を中心に、ほぼ計画どおり継続して実施できたところが多かった。 (2)勉強会・講演会等は開催しづらかった為、町内自治会によって、実施内容に差がついてしまい、希望者・協力者の更新が進んでいないところも認められた。 (3)それでも全体的には、概ね計画どおり取り組みを実施できた。		

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 子どもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
白旗台地区部会エリア	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6		(1)令和3年度もコロナ禍の為、一般市民をまじえた避難訓練等は実施できなかったが、多くの避難所で8/29に避難所運営委員と施設管理者、直近要員で備蓄品の確認や備品の使用方法の訓練等を行った。 (2)マニュアルの見直し等を多くの避難所で実施したが、規模は比較的小規模であった。市の基本的なマニュアルが大幅に見直されたので、令和4年度にはコミ懇でその詳しい説明会を実施(11/20)後、更に必要な見直しを行う予定。		
	⑤ すべての子どもを地域で育てる	4 6		(1)あいさつ運動やのぼり旗の更新等は、ほぼ予定どおり実施できた。 (2)子ども110番のいえ訪問・駆け込み訓練の再検討は、コロナ禍で会議が開けず実施できなかったが、青色回転灯装備車によるパトロールは1の(3)のとおり実施できた。また、パトロール車への若干の補助は本年も計画通り実施することができた。 (3)更に、蘇我中1年生全員(292名)を対象にした「子どもによる子どものための子ども権利条約」の読書感想文事業は、本年度も1年生ほぼ全員の参加が得られ、内容もかなり充実していた。		
	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2		(1)「健康」をテーマに地区部会主催で計画したいいきいきサロンは、参加者のコロナ感染症を心配して、7会場すべてで中止とした。 (2)各町内自治会主催のものは、コロナ感染予防対策を十分行いながら実施できた。(4町内自治会合計87回・1老人クラブ13回)		
	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5		(1)ふれあい散歩クラブ活動は、コロナ禍でも比較的多くの町内自治会で実施できた。(3町内自治会合計57回・1老人クラブ19回) (2)いきいきサロンでの健康体操についても継続実施ができたところもあった。 (3)スポーツ振興会主催のものでは、市民体育祭はいずれも中止となったが、代替事業としてグラウンドゴルフ大会等を開催した。体育館等室内のものはほぼ全部中止とせざるを得なかったが、屋外のグラウンドゴルフ大会等は計画より多く実施できた。 (4)あんしんケアセンター主催のWEB会議が、オーラルフレイルをテーマとして開催された。数名のメンバーが参加し、知見を高めることができた。		
	⑧ 地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	4 8		(1)「放課後子ども教室」は1小学校(大森小)で実施した。 「蘇我の歴史散歩」、スポーツ振興会の市民体育祭はいずれも中止とした。屋外実施のグラウンドゴルフ等は各地で計画以上に多目に実施することができた。 (4)屋内で計画した事業については、中止せざるを得ないケースが大半であったが、コミコンの事業や地区部会主催の研修会、スポーツ振興会等の屋外事業等は、コロナ制限下の中ではかなり良く実施ができた。		
	⑨ 子育てサロンの充実	4		(1)コロナ禍ではあったが、何度も計画し実施を試みたが、実施できたのは1回のみだった。		

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組の方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組の方向性
白旗台地区部会エリア	⑭ 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	7 8		(1)研修会については、コロナ禍でも3回実施できた。 (2)コミュニティづくり懇談会では地域福祉活動に関する部分もかなり取り入れた懇談会を万全なコロナ対策を行った上で実施し、185名の参加者を得た。また懇談会の内容を「コミ懇だより」に掲載し、各家庭に回覧した。 (3)各町内自治会で計画したものについては、大半は中止せざるを得なかった。		
	⑮ 防犯対策の推進	6		(1)各町内自治会による防犯パトロールについては、コロナ禍にも関わらず、多くでほぼ例年通り実施できた。 (2)青色回転灯装着車によるパトロール活動については、昨年度までと同様、コロナ禍にあっても学校のある日には毎日3台/日のペースで実施できたが、不審者の出没の抑え込みでは外部的問題もあり結果的にはあまりよい成績ではなかった。対応を整え次年度以降の成果に結び付けたい。		
	⑯ 防災体制の充実	6		(1)避難所の立上げ等の訓練は、8/29の市の訓練日を中心に規模を縮小して実施した。 多くの避難所では、運営委員・直近要員・施設管理者で実施した。 (2)令和3年度は実訓練がしづらい状況だったため、多くの避難所運営委員会では、マニュアルの見直し等を行った。 (3)エアーマット10、トイレキット72を市の支給品とは別にコミコンより受けとり、更に各避難所で活動支援金を活用して充実を図った。		
生浜地区部会エリア	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。	「生浜地区地域運営委員会」の4部会、「青少年部会」、「高齢者・要支援者部会」、「防災部会」、「スポーツ部会」では、一部の部会を除き、コロナ下での活動について協議を行った。	コロナ禍での事業再開に向けての協議を行ったが、その都度、感染が拡大し、再開出来なかった。 令和4年1月、地区部会の活動の担い手に寒中見舞いを送り、励ました。	新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。 「いきいきサロン」、「健康体操」等については、再開を目指し検討中。 車いす体験教室については、12月20日に行うことで準備している。
【人口・世帯数】 25,425人、11,918世帯						
【町内自治会数】 11町内自治会						
【高齢化率】 24.9%						
【地域の特徴】 ○村田町、浜野町、塩田町、生実町、南生実町を対象としたエリア。 千葉市街地の中心よりやや外れ、南は市原市に接し、西には京葉工業地域を有している。古墳や神社仏閣も多く、古くからの歴史と伝統が引き継がれている地域でもある。	② 支え合い活動の仕組みづくり	7 9		コロナ禍の中、休止。		
	③ 見守り体制をつくる	1		民生委員が中心となり活動。		
	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6		毎年3月に行っている「生浜地区合同防災訓練」は中止。		

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組テーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 子ども子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組テーマ	令和3年度の取組の方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組において困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組の方向性
生浜地区部会エリア	⑤ すべての子どもを地域で育てる	4 6		学校が主体となって実施している「セーフティウォッチャー」に地域住民が協力し、登下校時の児童の見守りに取り組んだ。 また、生浜地区地域運営委員会の「青少年部会」において、不審者情報の共有を図っている。		
	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2		地区部会の「いきいきサロン」は中止した。 老人クラブでは、グランドゴルフや輪投げ、ダーツ等の行事を開催した。		
	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5		公民館や一部の町内自治会では、シニアリーダー体操教室を実施した。		
	⑧ 地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	4 8		「生浜地区体育祭」「子どもふれあい祭り」は中止。		
	⑨ 子育てサロンの充実	4		「子育てサロン」及び幼稚園、保育所、保育園との情報交換は中止。 災害ボランティアの方々には、活動の中止を申し出ている。		
	⑩ 障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	3 8		毎年行っている生浜中学校1年生を対象に、福祉施設と協力した車いす体験は中止。		
	⑪ 世代間交流の場の提供	9		生浜地区内のイベント(体育祭・盆踊り・お祭り)が中止となったため、取り組みなかった。		
	⑮ 相談体制・情報提供の充実	10		ふれあい・いきいきサロンや子育てサロンを中止したため、取り組みなかった。		

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
生浜地区部会エリア	⑰ 地域での福祉教育の推進	8		各町内自治会で実施している「敬老会」、育成委員会が実施している「子どもふれあい祭り」が中止となったことにより、取り組めなかった。		
	⑱ 防犯対策の推進	6		地区部会で毎年行ってきた「熟年者交通安全教室」は中止。防犯パトロールを組織化している町内自治会では、定期的にパトロールを実施した。		
	⑲ 防災体制の充実	6		九都県市合同防災訓練に合わせた避難所開設訓練は中止となったが、各避難所で、備品点検、食品賞味期限チェックを実施した。あわせて避難者がどこの避難所へ避難すればよいのかを明確にした。		
松波地区部会エリア	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	・基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多いイベントを除き、すべての取組を実施する。	いきいきサロンは、グランドゴルフ(雨天及び学校の長期休暇期間は休み)を松波公園で週2回開催するとともに、松波会館で脳トレ会、ウクレレ会を月2回、卓球会を週1回開催し、高齢者の集える場を設け、仲間づくりや健康維持を図った。	概ね計画どおり取り組みを実施した。安定した事業運営の為に、関係団体との連携を円滑にする必要がある。また、担い手を確保する必要がある。	基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多い大規模なイベントについては規模縮小するなど、すべての取組を実施する。
【人口・世帯数】 4,764人、2,622世帯						
【町内自治会数】 1町内自治会						
【高齢化率】 25.1%						
【地域の特徴】 ○松波町を対象としたエリア。大規模な公務員住宅や民間のマンションなどもある閑静な住宅地域、学校の周辺には3大学、4高校及び千葉市教育センター、放射線医学研究所、東京大学生産技術研究所などの機関があり、一大文教地区をなしている。	⑨ 子育てサロンの充実	4		地区部会が、子育て中の親子を対象に、月2回、中央区健康課の保健師、栄養士、歯科衛生士による指導、工作、季節のイベント、スタッフ(助産師)による育児相談等を内容とした、子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。		
	⑰ 福祉情報誌の充実と「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」の活用	6 10		地区部会が、地域住民を対象に、地区部会活動の紹介と啓発、会員の募集状況等の報告、毎月の地区部会事業の日程の周知やボランティア募集を図るため、社協だよりを、年4回発行した。 また、千葉市松波町会のホームページのリンクより、「社協松波地区部会」、「お助けマンクラブ」ほか諸団体のページに飛ぶことが出来るようしており、地域情報発信の充実を図っている。		
	⑰ 地域での福祉教育の推進	8		例年、敬老会に、千葉商業高校の吹奏楽部が参加するとともに、赤い羽根の歳末募金に千葉商業高校青少年赤十字の生徒が協力し、活動を通じて、福祉の心を育む機会を設けている。 また、町会の夏祭りには、クラーク記念国際高校の生徒が参加し、子どもと山車を一緒にひいたり、ダンスやバンド演奏を披露している。 ※ R3年度はコロナ禍で何れも中止。		

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
松ヶ丘地区部会エリア 【人口・世帯数】 11,920人、5,687世帯 【町内自治会数】 37町内自治会 【高齢化率】 28.6% 【地域の特徴】 ○松ヶ丘町の一部、仁戸名町の一部、星久喜町の一部、大森町の一部、宮崎町の一部を対象としたエリア。 戦後、京葉臨海工業地帯造成発展に伴い、全国から人が流入し人口が急増。以前は川鉄及びその関連会社に勤める住民が中心であったが、近年はその傾向は減少。平成4年度、千葉急行(現京成電鉄)の大森台駅が開業によりJR千葉駅や東京方面への交通の便が改善され、地区の活性化に役立っている。	③ 見守り体制をつくる	1	・基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多い大規模なイベントを除き、少人数の取組又は人数を減らして実施する。 ・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。	平成27年4月から、地区部会が、ひとり暮らし高齢者や障がいのある方などの内、見守りを希望する方(手上げ方式)及び見守りが必要と思われる方、92世帯に対し、目配りや電話による安否確認を開始し、継続した見守りに取り組んだ。 また、町内自治会や協力員に対し研修会を実施し、見守り活動に対する理解を深めることができた。	概ね計画どおり取組みを実施したが、事業を継続していくために、担い手を確保する必要がある。時間をかけて、あきらめずに地域活動への参加を呼び掛けることが大切である。	基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多い大規模なイベントについては規模縮小するなど、すべての取組を実施する。 コロナ禍でも行政の指導を厳守し、活動してきた。一人のコロナ陽性者も出していないのが誇りでもある。福祉の町松ヶ丘中学校区を目指すという目標を忘れずに、積極的に活動していく。
	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	25	地区部会では、「いきいきサロン」や「ゆうあいひろば」のメニューとして淑徳大学看護栄養学部の協力を受け、介護予防や引きこもり防止の講話(相談含む)を行った。 また、「いきいき散歩クラブ(高齢者福祉委員会)」を月2回開催した。 さらに、千葉市のシニアリーダー養成講座修了者と協力し、松ヶ丘公民館(週1回)、葵幼稚園(不定期)、恵光園(週1回)、仁戸名自治会館(週1回)、都苑(不定期)、第3公園(週1回)でシニアリーダー体操を実施し、高齢者の健康維持・増進を図った。 あんしんケアセンターでは、さくら会館で健康体操を実施した。 各町内自治会では、有志によるグラウンドゴルフは盛んに行われ、大会を年3回開催している他、スポーツ振興会が年2回、大会を開催している。 「淑徳大学看護栄養学部」と「ひだまり運営委員会」が連携し、「淑徳オレンジカフェ」を月1回開催した。			
	⑮ 相談体制・情報提供の充実	10	松ヶ丘中学校区地域運営委員会が毎月開催している「円卓会議」で各団体のイベントや活動の情報収集及びPRに努め、運用するホームページにより、地域のイベントや出来事を掲載するとともに、「ひだまり」にサークル紹介や各団体のチラシを掲載、配布して情報発信に努めた。 また、「ひだまり」に役員が当番制で常駐し、問い合わせに対応し、その場で回答できないものは関係団体から回答する体制を整え、誰でも気軽に出入りでき、多世代の方が相談できる環境づくりに取り組んだ。			

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組の方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組の方向性				
川戸地区部会エリア										
【人口・世帯数】 6,935人、3,274世帯	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	・基本的な感染対策を行いながら、すべての取組を実施する。 ・令和2年度については、活動中止が多く、交流の場は全くなかったため、令和3年度には活動を開始させたいが、再始動は難しいと判断しているため、小規模であっても以前の活動を行いたい。	例年、地区部会が主催する行事や活動(バス研修旅行、敬老会、福祉バザー、見守り隊の活動、お助け隊の活動)については、コミュニティ懇談会、第21地区連絡協議会、民生委員・児童委員協議会、スポーツ振興会、PTA、子ども会と意見交流を図りながら、関係団体の協力を得て実施しているが、コロナ感染拡大に伴い、市社協の通知に従い、中止。	実施の可否の判断が困難であった。担い手の確保も難しい。手当についても検討するべきか。担い手不足で役員に負担がかかっており、安定した事業運営のための担い手の確保については、継続した課題である。	基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多い大規模なイベントについては規模縮小するなど、すべての取組を実施する。				
【町内自治会数】 13町内自治会				③ 見守り体制をつくる			1	地区部会が、高齢者や障がいのある方など支援が必要な方を対象に、日常的な目配りや声かけによる安否確認等を行い、安心して地域で暮らせるよう、継続して見守り活動に取り組んだ。例年、年3回実施している報告会は、11月のみ実施。		
【高齢化率】 33.0%				⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実			2	地区部会が、いきいきサロン「ひまわり会」を年6回開催し、高齢者の仲間づくりや健康維持を図った。また、参加者の増加を図るため、75歳以上のひとり暮らし高齢者を個別訪問し、サロンの案内を行うとともに、対象者が参加したくなるような内容を検討した。		
【地域の特徴】 ○川戸町、仁戸名町の一部、赤井町の一部、平山町(緑区)の一部を対象としたエリア。千葉市の中央台地に位置し、大網街道を境に東側は旧川戸の部落で、西側は高層住宅の立ち並ぶ地域である。周辺には、千葉南高校、千葉県がんセンター、国立千葉東病院などの公的機関が存在するが、千葉市の公的機関が少なく、川戸公民館が唯一のコミュニティの場である。また、高齢化率については、30%を超え高くなっている地域である。								⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5	スポーツ振興会が毎週日曜日にラジオ体操と散歩を実施した。また、各町内自治会がグランドゴルフを実施し、高齢者の健康維持を図った。
								⑨ 子育てサロンの充実	4	地区部会が、子育てサロン「もーもークラブ」を年4回開催し、子育て支援を図った。また、参加者の増加には至らなかったが、民生委員・児童委員と連携して対象者を個別訪問してサロンの案内状を配付し、潜在的な利用者の掘り起こしに努めた。
								⑪ 世代間交流の場の提供	9	例年、地区部会が開催する敬老会に、千葉南高校、川戸中学校、川戸小学校の児童・生徒が参加し、高齢者と交流する機会となっているが、コロナの影響で中止した。また、世代間交流の場となっている「福祉バザー」も、コロナの影響で中止した。 また、地域の団体が、例年実施している、盆踊り大会や、美化活動、スポーツ祭、餅つき大会等も中止となった。
	⑯ 福祉情報誌の充実と「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」の活用	6 10	地区部会が、地域福祉に関する情報を住民に提供するため、広報誌を年1回発行しているが、コロナの影響で諸行事が中止となっていることから、発行も見合わせた。							

中央区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
星久喜地区部会エリア 【人口・世帯数】 11,703人、5,673世帯 【町内自治会数】 24町内自治会 【高齢化率】 26.2% 【地域の特徴】 ○矢作町、星久喜町の一部、松ヶ丘町の一部、青葉町の一部を対象としたエリア。かつては純農村地帯だったが、東金有料道路の開通・宅地化の波とともに、世帯数も増加した。「千葉市都市緑化植物園」「青葉の森公園」などの公共施設を抱え、緑に囲まれ恵まれた環境にある。	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、徐々に活動を再開する。 ・基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多い大規模なイベントを除き、少人数の取組又は人数を減らして活動を実施する。	地域運営委員会では、地域団体の事業日程調整を行い、理事会を開催し、共通理解、連携強化に努めた。 地域運営委員会のホームページを随時更新し、情報発信に努めた。	コロナ禍で、大規模のイベントの開催は、安全を考慮すると、中止せざるを得なかった。 また、特に子育てサロンについて、コロナ禍ということもあるが、参加者が減少している。チラシを店内に貼ってもらったりしているが、たくさんの親子に如何に参加してもらうかが今後の課題である。	基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多い大規模なを除き、少人数の取組みに絞って又は人数を減らして活動を実施する。
	⑤ すべての子どもを地域で育てる	4 6	地区部会及び青少年育成委員会等が、子ども達の安全を守るため、毎日の登下校時にセーフティウォッチャー活動を実施した。 青少年育成委員会が、長期休暇前の学区点検を実施した。 育成委員会と地区部会が共催している書き初め練習会・書き初め展示会を実施し、子ども達との交流を図った。 育成委員会と公民館共催の「お泊りイン星久喜」は中止になったが、代替え事業として、凧作りと凧あげ大会を開催した。			
	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	地区部会が70歳以上の高齢者を対象に、青葉の森公園・都市緑化植物園の散策・クリスマスお楽しみ会などのいきいきサロンを年5回実施し、高齢者の仲間づくりや健康維持に取り組んだ。(2回は雨天中止、1回はまん延防止等重点措置期間のため中止) その他、脳トレサロンを前期10回、後期10回、わくわくサロンを10回開催し、高齢者の認知症やフレイルの予防に取り組んだ。			
	⑨ 子育てサロンの充実	4	地区部会が子育て中の親子を対象に、年7回、都市緑化植物園のお散歩、読み聞かせ、歯科衛生士さんのお話、栄養士さんのお話、クリスマスお楽しみ会等を内容とした子育てサロン「トントルルーム」を実施し、仲間づくりに取り組んだ。(3回はコロナ禍で、安全を考慮し中止。)			
	⑩ 障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	3 8	公民館文化祭が中止になったので、障がい者福祉委員会による作業所作品販売のお手伝いは中止となった。			
	⑪ 世代間交流の場の提供	9	コロナ禍、参加者、関係者の安全を守るため、敬老会をはじめ運動会、お泊り会の行事は中止となった。			
	⑭ 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	7 8	障がい者福祉委員会、ボランティア委員会による「発達障害を正しく知ろう」研修会を実施した。			
	千葉みなと地区部会エリア 【人口・世帯数】 10,225人、4,257世帯 【町内自治会数】 11町内自治会 【高齢化率】 11.4% 【地域の特徴】 ○中央港、千葉港、問屋町を対象としたエリア。ほとんどの住民がマンションに居住している。	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。		
③ 見守り体制をつくる		1	民生委員の協力にてひとり暮らしの高齢者や要介護者等の実態を把握した。また、マンションの管理人と情報交換し、各マンションの情報把握に努めた。			
⑲ 防災体制の充実		6	避難所運営委員会では、災害時の対応を協議するため、隔月で定例会議を開催するとともに、年1回、避難所開設訓練を行った。 また、各マンションでトランシーバーを導入し、災害時の支援体制を整備した。各マンションでは、年1回、消防による初期消火訓練等の防災訓練を実施した。			

花見川区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)総括表

◆取組みテーマ別取組状況

取組みテーマ	重点取組項目数	主な取組内容
1 見守りの仕組みづくり	9	・75歳以上の高齢化率が高く、見守り活動は不可欠であるため、独居高齢者への訪問活動を毎週実施した。【花見川】 ・民生委員を中心に町内自治会と連携し、見守り活動を実施した。また、運営委員会を年4回開催し、活動状況の確認を行った。【こてはし台】 ・地区部会と町内会が協力し、要支援者への支援体制の充実を図った。【幕張武石】
2 高齢者を支える仕組みづくり	7	・できる範囲で、支え合い活動を実施した。また、広報紙を発行し、PR活動にも努めた。【花見川2】 ・ご近所たすけあい活動を継続実施した。【さつき】
3 障害者を支える仕組みづくり	3	・計画していた事業を中止とした代わりに、障害者を対象とした「ふれあいコンサート」を実施して、障害者の外出する機会や歌を聴く楽しみを提供した。【朝日ヶ丘】 ・個別支援を中心に、ユニバーサルデザインの地域づくりに努力した。【さつき】
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり	2	・こども食堂が開催できなかったため、フードパントリー(無料で食品を提供)を実施した。【犢橋】 ・子どもの貧困対策として、小学校2校を通じた就学支援補助金を実施した。【花見川】 ・民生委員、主任児童委員、保健福祉推進員等と協力し子育てサロン(4地区4箇所)を実施した。【花園・犢橋・天戸・さつき】
5 健康づくり	2	・多種多様なサロンを継続実施(令和3年度末85サークル)しつつ、健康講話やウォーキング、健康体操等を取り入れた健康寿命延伸の取組みも行った。【花見川】 ・いきいきサロン(8地区78箇所)や散歩クラブ(3地区10箇所)を実施した。【(いきサロ)花園、犢橋、幕張武石、花見川、朝日ヶ丘、こてはし台、天戸、さつき、(散歩)犢橋、花見川、こてはし台】
6 防犯・防災に対する取組み	5	・新たな助成金を申請し、地域の防犯防災パトロールの強化を図った。【花見川】 ・民生委員、青少年育成委員、保護者による合同パトロールを継続実施した(令和3年度は警察と行政から表彰を受けた)。【さつき】
7 担い手の拡大とボランティアの促進	8	・担い手のステップアップを目的に、介護予防や認知症予防のための講座を開催した。【幕張武石】 ・コロナ禍においても担い手の定例会は継続実施し、サロン同士の情報共有や活動再開に向けた検討等を行った。【天戸】
8 福祉教育・啓発	12	・管理・運営している農園に園児・児童を招き収穫体験を実施した。【さつき】 ・公園の清掃・除草・整備活動が市長より「社会貢献」として表彰を受けた。【花園】
9 地域のつながりづくり	11	・健康課、あんしんケアセンター、いきいきプラザ、社協と連携し、健康講話やウォーキング、健康体操等を取り入れた健康寿命延伸の取組みを推進した。【花見川】 ・地域ケア会議に積極的に参加し、地域の意見を発信した。【こてはし台】
10 相談支援体制と情報提供の充実	2	・花見川区内の地区部会エリア別人口構成、動向やコロナの感染状況の発信を行った。【花見川】 ・ホームページを通じて、地域の情報発信を継続実施した。【こてはし台】 ・10地区において、地区部会の広報紙を発行し地区部会活動のPRを行った。【花園、犢橋、こてはし台中、幕張武石、花見川、朝日ヶ丘、こてはし台、さつき、幕張本郷、畑】
今年度の振り返り	61	超高齢社会の影響による地域の担い手不足や担い手自身の高齢化の問題は以前からの大きな課題となっていたが、コロナの影響による地域活動全体の停滞の継続が、担い手のノウハウの継承やモチベーション維持の妨げとなっており、この状況が続いていくと地域活動の衰退にも繋がること危惧される。

今後の課題と方針	地域活動の停滞が続く中、いかにしてコロナ以前の活動を取り戻すかが大きな課題である。コロナの感染対策の徹底はもちろんであるが、新しい生活様式を取り入れた活動の実施も検討していきたい。
----------	--

◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

開催日			主な議題等
令和3年度	第1回	8月11日(水)	(1)委員長・副委員長の選任について (2)「花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度～令和2年度)」について (3)「花見川区支え合いのまち推進計画の推進計画(第5期花見川区地域福祉計画原案)」について
	第2回	10月20日(水)	・「花見川区支え合いのまち推進計画(第5期花見川区地域福祉計画原案)」について

◆区の地域福祉に関する好事例等

花見川地区部会エリア			
取組内容	子どもの貧困対策	重点取組項目としての設定	なし
子ども食堂や放課後の学習支援が一部地域で実施されているが、花見川地区部会は活動エリアが広く、しかも高齢化による担い手不足の問題から子ども食堂等の活動はできる状況にない。しかし、子どもの貧困対策には取り組んでいきたいという思いから、地域差による不公平感がなく、比較的簡単に実施できる就学支援補助金を実施した(平成30年度より)。 ☆対象児童:生活保護世帯、準要保護世帯 ☆対象児童学年(令和3年度):小学3～6年生 ☆支給額:3,000円(1名) ☆令和3年度実績:柏井小13名、花見川小32名 合計45名 ☆配布方法:各小学校を通じて配布(地区部会には配布者情報なし) ※令和4年度は、対象児童学年を1～6年生に拡大予定			

花見川地区部会エリア			
取組内容	健康寿命延伸プロジェクト	重点取組項目としての設定	あり
地域の75歳以上の高齢者が急増していることから、高齢者がいつまでも自立できるよう、令和2年度より健康寿命延伸を目的としたプロジェクトを立ち上げ、ウォーキング、健康体操を取り入れながら健康寿命延伸に取り組んでいる。プロジェクトに参加している時だけでなく、日常生活における健康寿命延伸対策も呼びかけている(ウォーキング 5,000歩/1日、朝晩に健康体操を実施)。また、この活動は見守り活動の見守る側の負担軽減を図ることも目的にしている。			

朝日ヶ丘地区部会エリア			
取組内容	障害者「ふれあいコンサート」	重点取組項目としての設定	あり
毎年、障害者「ふれあいバス旅行」を実施し、障害者やそのご家族の方の楽しみの一つとなっていた。しかし、コロナの影響で令和2年度は中止、令和3年度も実施困難な状況であったため、代わりに朝日ヶ丘公民館で、障害者やそのご家族の方向けの「ふれあいコンサート」を実施し、歌を聴く新たな楽しみの機会を提供した。			

花見川区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こともと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組の方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組の方向性
検見川地区部会エリア 【人口・世帯数】 12,419人、6,527世帯 【町内自治会数】 5町内自治会 【高齢化率】 19.8% 【地域の特徴】 検見川神社を中心とした古い町。	⑥ 地域福祉活動の担い手を育成するために区ボランティアセンターを活用し、ボランティアの育成・ボランティア活動の推進に努めるとともに、活動を周知し、幅広い分野におけるボランティア体験や地域活動への参加を促すなど、若者や企業ボランティア、高齢者パワーなどを活かし、人材の育成・活用に努めます。	7	・引き続きボランティア募集のための声かけ、講座開催の方向で進める。	令和3年度に計画した事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、すべて中止となった。	・各事業の休止が続いている中、ボランティアや講座を受ける方達の状況も変化(高齢化など)しており、今後の活動再開に向けた不安材料がある。	ふれあい食事サービス、ふれあいいきいきサロン、ボランティア講座の開催等、2年前のコロナ前の状況に戻すように努めたい。
⑨ 日頃から地域での防災意識を高めるとともに、災害時における地域防災や協働体制の仕組みづくりの充実に努めます。また、自然災害等による被害を軽減するため住宅の耐震化や家具などの転倒防止、食品の備蓄等に努めます。	6	・避難所運営委員会に対して、地区部会として何が協力できるのかを検討の上、協力していく。	検見川小学校・検見川公民館避難所運営委員会の事業への協力を行った。	・避難所運営委員会については、歩みは遅いが、少しずつ動き出している。今後、地区部会として何をどこまで協力していくのかというのが課題である。		
花園地区部会エリア 【人口・世帯数】 20,959人、9,759世帯 【町内自治会数】 18町内自治会 【高齢化率】 23.1% 【地域の特徴】 JR新検見川駅北側に展開する古くからの住宅地と花見川区役所を中心とする新しい住宅地(高層マンション群を含む)からなる。東大総合グラウンドに隣接、東西に貫く桜並木は有名。西側に花見川、千本桜緑地がある。	③ 地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実に努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。	1,2,7,8,9	コロナ禍で活動再開の見通しは立てづらいが準備はしていく。「日常対応」の強化、「避難所の使用範囲と使用方法」の理解促進、訓練、イベントの再開	1 重点取組みについて 令和3年度もコロナの影響が大きく、具体的な実行が望めなかったこともあり、回復後の準備を計画を主とし、普段行ってきた活動の視点を、啓発活動を重点とした取組みにシフトした。効果の把握は難しいが、足跡の見える活動と考えている。 (1)「花園おせっかい」の継続 リーフレット、ポスター、部会だより、自治会回覧、掲示板、集会所、店舗、「おせっかいシリーズ」5回発行 (2)花園地区部会だより 年3回、各700部発行 各所に配布 (3)避難所に関する情報交換、避難所開設訓練 具体的な活動に至らなかった。 (4)健康福祉委員会が主催するグラウンドゴルフ開始前に実施するムクドリ公園の清掃・除草・整備活動が市長より「社会貢献」として表彰を受けた。 2 花園地区部会の伝統的な活動について (1)敬老会 令和3年度は中止とした。 (2)子育てサロン 人気のある活動だが、本年度は年9回実施、85組 延197名が参加 (3)親子の集い 折り紙教室1回 (4)むくどり公園の清掃とグラウンドゴルフ 年36回実施、延619人が参加 (5)いきいきサロン 年79回実施、延619人が参加 年間ボランティア 延159人 (6)広報 花園地区部会だより 年3回発行	1 重点取組みについて 見守り活動の「花園版」として「花園おせっかい」は、自治会に負うところが多いのに、コロナ禍の制約をまともに受けている状態である。 そこで、自治会の力を借りて、手段としては少々古いかもしれない回覧や掲示板によるリーフレット、ポスターによる啓発活動を行っている。 保健、福祉も、防災も取り上げて、仲間意識の向上に役立てたいというのが狙いである。 ・避難所についても主力は自治会で、社協独自の活動はないのが実情である。 ・コロナ禍が2年も続く中でも、地区部会の活動は求められていることは確かである。	1 重点項目について (1)「花園おせっかい」の継続 (2)避難所に関する情報交換 社協の持ち場・立場・対応方法・訓練参加など (3)イベントの再開対応 花園地区部会には地区部会が主催する伝統的な町ぐるみの活動として、大規模な「敬老会」や「ふれあい食事会」「春の音楽会」が、更に当会も参加する「花園ハスマつり」など、広範囲に福祉活動に通じるイベントがある。これらの行事がコロナ禍より全て長期間中止になっていて、われわれの活動に大きく影響している。 現在、制約は殆ど解除されているが、社会的な躊躇感は依然としてある。地区部会として、解除後の活動に向けて準備を進めていく。 敬老会については、再開の方向だが、会場のキャパシティにより、一堂に会することは難しい。方法として、分割、会場の分散、自治会ごとの開催等について検討中である。 高齢者福祉:敬老会など 健康福祉:パークマネジメント、グラウンドゴルフなど ボランティア:いきいきサロンなど 福祉ネットワーク:リーフレット・ポスター・見守り新鮮情報など 広報:地区部会だより など

花見川区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組の方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組の方向性
朝日ヶ丘地区部会エリア	⑤ 障がいのある人もない人も共に暮らしやすい地域を目指して、相互理解を深めるための啓発や交流の促進(障害者福祉施設等でのボランティア活動など)に努めます。	3,8	コロナウイルス感染症の拡大の状況等を勘案し、可能な範囲で事業を実施していくとともに、あんしんケアセンターとも連携を図っていく。	コロナウイルス感染症の拡大による「蔓延防止等重点措置」が適用され、飲食を伴う従来の活動は自粛せざるを得なかったため、当初の事業計画は一切実施できなかった。代わりに蔓延防止等重点措置が解除された後、障害者を対象とした「ふれあいコンサート」を実施して、外出する機会が少ない障害者の方々に、歌を聴く楽しみを提供することができた。	地区部会の専門別委員会の活動の大半は、飲食を伴う事業(ふれあい食事会、ふれあい喫茶、障害者バス旅行)や、接触等密になってしまう(子育てサロン、ボランティア)活動であるため、コロナウイルス感染拡大防止の観点から、ほとんどの活動を中止とせざるを得なかった。また、あんしんケアセンターとの綿密な連携も、今後の課題となっている。	コロナウイルス感染拡大防止策により制限されていた社会活動が徐々に緩和されてきており、地区部会としてもコロナ以前に実施していた活動を再開していきたい。しかし、実施会場(各自治会館等)によっては、未だ貸出を一切実施していない所や、参加人数を従来の定員の半分以上に制限している所もあるので、全ての活動が従来の規模で再開できるかは不明な状況である。 令和4年度は、あんしんケアセンターや行政との連携を更に深め、地域の方にとって気軽に相談できる環境づくりを実施していきたい。
【人口・世帯数】 10,873人、5,372世帯 【町内自治会数】 12町内自治会 【高齢化率】 37.6% 【地域の特徴】 戸建、団地、マンションの混じった住宅地。				⑦ 社協地区部会や町内自治会等が、地域における団体活動を充実するため、社会福祉協議会、あんしんケアセンター、行政等が連携し地域を支える様々な福祉情報等の共有と、わかりやすい情報として発信・受信するための仕組みづくり、住民相互の気軽に相談できる場を確保するとともに、団体同士の連携・協力により組織強化に努めます。		
犢橋地区部会エリア	① 日頃から隣近所との挨拶などのコミュニケーションを図るとともに、既存の施設を有効利用した居場所づくり、親しみ、ふれあう環境づくりを推進し、地域住民が地域活動に関心を持つきっかけとなるよう、地域のイベント、祭り、町内自治会行事等の周知に努めます。また、子ども・高齢者・障害者等と地域住民が相互交流できる機会を増やし、若い世代を含めた様々な世代間の交流を通して互いを理解し合うとともに、情報交換を促進します。	9	コロナの終息が見えないため、常に感染状況を勘案し、スタッフの健康面を最優先し、実施可能な事業に取り組んでいく。	コロナ禍のため、地区部会主催の行事や活動は控えざるを得なかった。各町内自治会毎に感染に留意しながら、できる範囲でサロンや散歩、子育てサロン等を行った。	感染防止の観点から、飲食を伴う行事は開催できないため、個々の自治会ごとの行事に集約せざるを得ない年だった。	飲食を伴わないでできる行事を中心にやれる事から実施していく。(例えば落語会、ゲーム、講話など)
【人口・世帯数】 10,474人、5,290世帯 【町内自治会数】 15町内自治会 【高齢化率】 30.7% 【地域の特徴】 昔からの農村地域(犢橋町)と昭和30年代に開発された新興住宅地があり、戸建て住宅の多い地域。				④ 子どもの健やかな成長のため、福祉意識を醸成(福祉教育の充実)する取組を推進するとともに、子育て世帯の孤立防止や見守り活動の推進、子どもの貧困や虐待・DVの早期発見、関係機関への連絡などに努めます。		
こてはし台中学校区地区部会エリア	③ 地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実に努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。	1,2,7 8,9	民生委員に加え、町内自治会との連携強化を図り、活動を継続実施していく。	引き続き、民生委員を中心に見守り活動を実施した。見守り活動運営委員会を兼ねた常任理事会を年4回開催し、各民生委員の活動状況の確認を行った。施設への入居などで対象者は41世帯(スタート時は43世帯)となった。コロナ禍でワクチン接種情報の提供などにも力を入れた。見守り担当者用にマスク、除菌スプレーを配布し、感染対策を行い活動を行った。	対象者を広げる活動に着手できなかった。民生委員中心の活動から町内自治会との連携に拡げていく工夫が必要である。	対象者のお隣さんをネットワークに組み込んでいく仕組みづくりと、対象者への情報発信の具体化を図っていく。
【人口・世帯数】 5,505人、2,343世帯 【町内自治会数】 10町内自治会 【高齢化率】 30.3% 【地域の特徴】 新興住宅地と旧農村。						

※ 令和4年3月末現在の千葉市住民基本台帳人口(町丁別年齢別人口・町丁別人口及び世帯数)を基に各地区部会エリアの人口・世帯数を算出しているため、実際の人口・世帯数とは必ずしも一致しません。

花見川区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
幕張・武石地区部会エリア	地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実に努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。 また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。	1,2,7 8,9	会員相互のステップアップのため、各種講座を実施し、各機関との連携を図る。	・地区部会と町内会が協力し、要支援者への支援体制を充実することができた。 ・会員のステップアップのための講座として、花見川いきいきプラザ職員の指導のもと、認知症予防のための講座を実施した。 ・いきいきサロンについては、「地区部会活動再開に向けてのガイドライン」に沿って実施できた。	コロナ禍において、地区部会活動が思うように実施できなかった。特に食事会は、飲食に伴う感染発生への懸念から、一度も開催できなかった。また、食事会のボランティア自身も食事会の開催について、とても慎重になっている。	・会員相互のステップアップのため、各種講座を実施し、各機関との連携を図る。 ・ウイズコロナのもと、地区部会の各種事業を実施することにより、高齢者の見守りや安否確認に努める。
【人口・世帯数】 4,943人、2,510世帯 【町内自治会数】 3町内自治会 【高齢化率】 24.0% 【地域の特徴】 旧住民と新住民との混合地域。高齢化が進んでいる。現在区画整理が進められている。						
花見川地区部会エリア	住民自ら健康への関心を深めるとともに、イベントや講習会、スポーツ、サークル活動など健康づくりの機会への積極的な参加や心身の健康づくりに取り組むとともに、体操・サロン等を通じた日中の居場所づくりや講演会など介護予防活動の推進に努めます。また、糖尿病対策として、標語やポスターの掲示など啓発に努めます。	5	・コロナ禍の中、いつ活動が開始できるか不透明であるが、取組みが消えないよう努めるとともに、屋外活動に誘導したい。 ・自治会は新年度に入り新しい構成で見守り活動も出発した。前年度の反省点を鑑み、活動の強化を図りたい。 ・高齢化率50%でも活動できる方策を考えたい。	多種多様なサロンを継続実施しつつ、新規サロンも開設し、健康づくり、外出機会を創出した。 令和3年度の四半期ごとの活動率は以下のとおりであった。 第1期活動率 58.6% 第2期活動率 56.3% 第3期活動率 67.1% 第4期活動率 63.5% サークル数は3増5減となり、令和3年度では2減となった(令和3年度末85サークル)。 また、令和2年度から健康寿命延伸を目的としたプロジェクトを立ち上げ、ウォーキングや健康体操を取り入れながら健康寿命の延伸に取り組んでいる。	完全に新型コロナウイルスに左右された1年であった。 高齢化と地域活動の停滞に伴う意識低下をどう立て直すかが、大きな課題である。	コロナも減少傾向にあり、社会全体が動き始めている傾向にあることから、コロナ以前の状況を取り戻すべく、取り組んでいきたい。そのためにも、感染防止対策に努めたい。その中でも、対面での活動を重視していきたい。
【人口・世帯数】 10,936人、5,658世帯 【町内自治会数】 18町内自治会 【高齢化率】 40.4% 【地域の特徴】 戸建住宅(昭和30年代後半より入居)、農林地帯、UR団地(分譲)、マンション群の混在地域。						
地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実に努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。 また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。						
日頃から地域での防災意識を高めるとともに、災害時における地域防災や、協力体制の仕組みづくりの充実に努めます。 また、自然災害等による被害を軽減するため住宅の耐震化や家具などの転倒防止、食品の備蓄等に努めます。	9	6	・各避難所の該当自治会調査を行った(避難所5ヶ所、17町内自治会)。 ・千葉県社会福祉協議会の「千葉県地域ぐるみ福祉振興基金助成金」を申請し、防犯防災パトロールの推進と避難所運営委員会の活動促進に努めた(令和3年12月より)。			

花見川区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 ことごと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組の方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組の方向性
花見川第2地区部会エリア	<p>【人口・世帯数】 10,655人、6,090世帯</p> <p>【町内自治会数】 7町内自治会</p> <p>【高齢化率】 42.5%</p> <p>【地域の特徴】 花見川団地を中心とした住宅地。地区内には図書館、市民センターなどが整備されている。</p>	③ 1,2,7 8,9	できる範囲で、支え合い活動を継続するとともに、担い手確保のための広報、講座の実施などを検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・できる範囲で、支え合い活動を引き続き実施した。また、「ハンドハンドだより」を発行し、PR活動にも努めた。 ・各町内自治会単位で、郵便ポスト等を確認するさりげない見守りを実施した。 ・コロナ禍で、会食による食事会の開催ができなかったため、対象者に弁当の配布を行った。 ・コロナの影響で、地区部会のほとんどの活動を自粛したため、新たな担い手確保に向けた活動は思うように進まなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域全体の高齢化に加え、コロナ禍における活動自粛の影響もあり、担い手不足や担い手のモチベーション確保の問題が懸念される。 ・サロンや食事会などは、参加人数がとて多し事業であるため、コロナ禍における今後の地区部会活動をどのように実施していくのか、検討を要する。 	支え合い活動や見守り活動を継続実施していくと共に、地区部会活動の再開に向けた検討を行い、担い手確保や担い手のモチベーション確保に向けた取組みも行っていきたい。
こてはし台地区部会エリア	<p>日頃から隣近所との挨拶などのコミュニケーションを図るとともに、既存の施設を有効利用した居場所づくり、親しみ、ふれあう環境づくりを推進し、地域住民が地域活動に関心を持つきっかけとなるよう、地域のイベント、祭り、町内自治会行事等の周知に努めます。また、子ども・高齢者・障害者等と地域住民が相互交流できる機会を増やし、若い世代を含めた様々な世代間の交流を通して互いを理解し合うとともに、情報交換を促進します。</p>	① 9	①居場所の開設、②地域ケア会議への参加、③ホームページについての地域への周知について、地区部会の活動方針の項目に掲げ取組みを行う。	<p>① 令和2年度に「居場所づくり」にふさわしい場所が確保されたことを前提に、開催に向けての検討を計画したが、急遽この話が取り消しとなり、振り出しに戻ってしまった。再び、場所の確保に取り組んだが、進展はみられなかった。</p> <p>② 地域包括ケアシステムの構築に向けた地域ケア会議が令和4年1月に開催され、参加した。今回の議題は、「居宅サービス訪問時における駐車の問題について」であった。迷惑駐車扱いを受けるなどして、介護事業にも影響が出るなど、課題は深刻で、地域内での問題の共有が必要である。地域ケア会議には、今後も積極的に参加し、発言を行っていきたい。</p> <p>③ 地域の公共施設などへ働きかけ、ホームページの内容充実を図る計画であったが、十分な取組みができなかった。また、若い世代向けに「住みよい環境の街」を発信するための編集を行ったが、発信までには至らなかった。</p>	<p>①居場所づくりの取り組みが振り出しの形となったことは残念だが、当地区は空き家、空き店舗などもあるため、引き続き「居場所づくり」にふさわしい場所探しに努める。</p> <p>②地域の支え合い活動を推進する当会としては、居宅介護サービスがスムーズに受けられる環境づくりに努める必要があることから、今後も地域ケア会議に参加し、積極的な発言も行っていきたい。</p> <p>③ホームページへの取組みは不十分であったことを反省し、担当者の増員も検討し、充実を図っていきたい。</p>	①居場所の開設、②地域ケア会議への参加、③ホームページの充実、この点を再度、地区部会の活動方針の重点項目として掲げ、取り組んでいく。
昭和46年に千葉県住宅供給公社が開発した戸建中心(テラスハウス25%)の住宅街。	<p>地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実に努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。</p>	③ 1,2,7 8,9	①居場所の開設、②地域ケア会議への参加、③ホームページについての地域への周知について、地区部会の活動方針の項目に掲げ取組みを行う。	<p>② 地域の公共施設などへ働きかけ、ホームページの内容充実を図る計画であったが、十分な取組みができなかった。また、若い世代向けに「住みよい環境の街」を発信するための編集を行ったが、発信までには至らなかった。</p>	<p>③ホームページへの取組みは不十分であったことを反省し、担当者の増員も検討し、充実を図っていきたい。</p>	
	<p>社協地区部会や町内自治会等が、地域における団体活動を充実するため、社会福祉協議会、あんしんケアセンター、行政等が連携し地域を支える様々な福祉情報等の共有と、わかりやすい情報として発信・受信するための仕組みづくり、住民相互の気軽に相談できる場を確保するとともに、団体同士の連携・協力により組織強化に努めます。</p>	⑦ 9,10				

※ 令和4年3月末現在の千葉市住民基本台帳人口(町丁別年齢別人口・町丁別人口及び世帯数)を基に各地区部会エリアの人口・世帯数を算出しているため、実際の人口・世帯数とは必ずしも一致しません。

花見川区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組の方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組の方向性
天戸中学校区地区部会エリア 【人口・世帯数】 17,203人、7,845世帯 【町内自治会数】 17町内自治会 【高齢化率】 33.0% 【地域の特徴】 農村地域と新興住宅地域。	住民自ら健康への関心を深めるとともに、イベントや講習会、スポーツ、サークル活動など健康づくりの機会への積極的な参加や心身の健康づくりに取り組むとともに、体操・サロン等を通じた日中の居場所づくりや講演会など介護予防活動の推進に努めます。また、糖尿病対策として、標語やポスターの掲示など啓発に努めます。	5	地域が広範なこともあり、18町内自治会全てを巻き込むことは調整等の面から難しいため、先行して数か所の自治会と連携しながら課題となっていることに引き続き取り組んでいく。	令和3年度は、コロナ禍のため、地域内の学校行事への参加、いきいきサロン・ふれあい食事サービスなど開催の他、計画していた新規事業等も含め、多くの活動が十分に行うことができなかった。 コロナ禍の中、地区部会の福祉活動推進員を中心とした「地域福祉推進員懇話会の月例会」は、10年以上、1回も休むことなく続けて開催されており、令和3年度に120回目の開催を迎えることができた。	継続的なラジオ体操の開催に向けて開催場所の選定、スタッフの選任を行っていたが、開催により発生する諸問題の検証のため、実施には至らなかった。	地域内16地縁団体の地域福祉への考え方には温度差があり、地区部会活動を理解していない地域住民も多い中で、全地縁団体が足並みをそろえることは現状では難しいため、コロナ感染症終息状況を見据えながら地域福祉活動ノウハウの継承、継続を担保するためにも、ご協力いただける何か所かの地縁団体と連携して福祉活動の取組みを民児協と共に日常を取り戻すために、再開していきたい。 民生委員による高齢者実態調査は、5月からの再開を予定している。 事業の再開にあたり、行政からも感染防止のガイドラインによる指導が必要と考えている。
障がいのある人もない人も共に暮らしやすい地域を目指して、相互理解を深めるための啓発や交流の促進(障害者福祉施設等でのボランティア活動など)に努めます。	3,8	コロナ禍の中、地域の障害者施設「栗の木」、介護施設「ぶらりっと」をはじめ、施設のイベント等への参加が制限されたため、ほとんどの行事への参加ができない状況であった。		福祉施設に対する地域住民の理解や関心を得るための状況提供として、広報紙の定期的な発行やホームページによる継続的な周知活動が必要であると考えている。		
地域での防犯意識を高め、防犯パトロールの実施や防犯マップの作成・活用など、自主防犯活動を強化・充実することで、安心・安全な町づくりに努めます。	6	地域の防犯意識の向上や活動強化を目指して、行政からの防犯カメラ貸与、購入に対する助成、資機材補助・援助制度等について、各地縁団体への周知を図るとともに、活動普及の啓蒙活動が必要と考えているが、コロナ禍のため、十分な活動には至らなかった。		地縁団体により防犯活動に対しての温度差があり、現状では調整が難しい状況もあるが、防犯意識の向上、意識の平準化への努力が必要と考えている。		
さつきが丘・宮野木台地区部会エリア 【人口・世帯数】 10,478人、5,266世帯 【町内自治会数】 15町内自治会 【高齢化率】 35.2% 【地域の特徴】 古くからある閑静な農村地域と、その後比較的新たにできた住宅地域を含む地区。	障がいのある人もない人も共に暮らしやすい地域を目指して、相互理解を深めるための啓発や交流の促進(障害者福祉施設等でのボランティア活動など)に努めます。	3,8	事業を継続実施していく。	「フォーラム(講演会)」や「おひさまクラブ」、「福祉まつり」といった事業は、コロナの影響で全て中止となってしまったが、個別支援を中心に、ユニバーサルデザインの地域づくりに努力した。	長引くコロナ禍により、イベントの中止を余儀なくされ、活動が制限される中、地域から何を求められているかを探り、地域福祉の向上に努めていきたい。	コロナの感染対策に努めたうえで、事業を継続・再開し、徐々にコロナ前の活動に戻していく。
地域での防犯意識を高め、防犯パトロールの実施や防犯マップの作成・活用など、自主防犯活動を強化・充実することで、安心・安全な町づくりに努めます。	6	地区部会を中心とした合同パトロールを継続実施した。これまでの活動や、警察・行政とも協力関係を深めてきたことも評価され、警察と行政から表彰を受けることができ、一定の成果をあげる事ができたと考えている。				

花見川区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組の方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組の方向性
幕張本郷中学校区地区部会エリア	④ 子どもの健やかな成長のため、福祉意識を醸成(福祉教育の充実)する取組を推進するとともに、子育て世帯の孤立防止や見守り活動の推進、子どもの貧困や虐待・DVの早期発見、関係機関への連絡などに努めます。	1,4,8		「赤ちゃんサークル」、「1歳児サークルノンノン」共に、令和3年度はコロナの影響で全て中止となった。なお、月1回の午前中に開催していた「1歳児サークルノンノン」については、無料サロン(月～土曜日 10:00～16:00 子育てリラックス館)ができた影響により、参加人数が極端に減少したことにより、令和3年11月付で閉鎖の決定をした。	今後は、「赤ちゃんサークル」のみの活動になるため、民生委員のボランティアスタッフの参加はなくし、児童母子福祉委員のみでの対応を検討する。	「赤ちゃんサークル」の開催場所である幕張台自治会館が現在、人数制限がかかっており、従来通りの受入(地域保健推進員による2ヶ月児訪問で皆に声掛けを行う)が難しい状況である。親子での参加にスタッフも含めて計算すると、現状では4～5組程度しか受入できないが、元々は15～20組の参加があったサークルなので、開催内容や参加募集の方法等、検討していく必要がある。
【人口・世帯数】 26,065人、13,400世帯 【町内自治会数】 4町内自治会 【高齢化率】 13.5% 【地域の特徴】 JR幕張本郷及び京成幕張本郷駅を中心に沿線を挟んで両側に広がる町。戸建も多く、マンションも比較的多い。						
畑地区部会エリア	③ 地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実に努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。	1,2,7,8,9	・事業を継続実施していく。 ・パトロールを可能な範囲で継続実施しつつ、「向こう三軒両隣」の意識した近助同士の防犯を呼びかけていく。	ゴミ出しの支え合い活動の事業は実施していたが、希望者はいなかった。	コロナ禍のため、高齢者と直接話す事が難しく、ゴミ出しや見守り活動の困難さを感じた。今後も、このような状況下で、できることを行っていきたい。	事業を継続実施していく。
【人口・世帯数】 6,151人、2,795世帯 【町内自治会数】 6町内自治会 【高齢化率】 32.5% 【地域の特徴】 古くからある閑静な農村地域と、その後比較的新たにできた住宅地域を含む地区。				地域での防犯意識を高め、防犯パトロールの実施や防犯マップの作成・活用など、自主防犯活動を強化・充実することで、安心・安全な町づくりに努めます。		

※ 令和4年3月末現在の千葉市住民基本台帳人口(町丁別年齢別人口・町丁別人口及び世帯数)を基に各地区部会エリアの人口・世帯数を算出しているため、実際の人口・世帯数とは必ずしも一致しません。

稲毛区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況（令和3年度）総括表

◆取組みテーマ別取組状況

取組みテーマ	重点取組項目数	主な取組内容
1 見守りの仕組みづくり	8	区内29の町内自治会において、訪問や防犯パトロール等を兼ねたさりげない見守り活動に取り組んだ。 また、地区部会主催のいきいきサロンやふれあい食事サービス等の活動を通じて、高齢者の見守り活動を行った。
2 高齢者を支える仕組みづくり	4	区内11地区部会において、区健康課やあんしんケアセンター、シニアリーダー等の関係団体と連携し、計90か所で行きいきサロンが開催され、地域内での交流や介護予防に取り組んだ。 また、29町内自治会での見守り活動や2か所での支え合い活動、高齢者施設と連携して買い物支援を行うなど、高齢者の生活支援に取り組んだ。
3 障害者を支える仕組みづくり	3	区内の1地区部会で例年継続的に障害児者団体との交流会を行っている。 また、2地区部会の災害時避難所開設訓練において、障害を持つ住民の避難について計画に盛り込むなど、障害者を支える仕組みづくりに取り組んだ。
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり	3	区内11地区部会において、区健康課や子育て支援団体と連携し、計17か所の子育てサロンが開催され、子育て中の親同士の交流などに取り組んだ。 また、子育てサロンの情報は、子育て支援団体の発行する冊子に掲載するなど、情報提供を行った。
5 健康づくり	6	区内11地区部会において、区健康課やあんしんケアセンター、シニアリーダー等の関係団体と連携し、90か所で行きいきサロンが開催され、健康づくりや介護予防に取り組んだ。 また、新型コロナウイルス感染症予防のため、グラウンドゴルフやラジオ体操等、屋外活動に変更するとともに、フレイル予防の講座を開催するなど、心身の健康づくりに取り組んだ。
6 防犯・防災に対する取組み	8	一部の町内自治会及び自主防災組織で防災訓練を実施したほか、避難所運営委員会が地域振興課と協力して、避難所開設訓練を実施するなど、防災意識の向上に努めた。 また、毎年更新するエリア内の危険個所のマップを作成し、地域住民へ情報提供を行った。
7 担い手の拡大とボランティアの促進	9	いきいきサロン等の地域活動や町内自治会の広報を通じて、地域活動の担い手確保に取り組んだ。 また、各地区部会が主催ボランティア講座を23回開催し、ボランティア活動の啓発と育成に取り組んだ。
8 福祉教育・啓発	2	エリア内の小・中学校の児童・生徒に対し、いきいきサロンや行事等の地域活動を通じて、福祉に対する意識の醸成を図った。 また、高齢者等に関するテーマで講座を開催し、福祉に関する普及・啓発に取り組んだ。
9 地域のつながりづくり	23	90か所のいきいきサロン活動や17か所の子育てサロンで高齢者や子育て世代のつながりを作っているほか、小・中学校登下校時の声かけ挨拶運動や、行事等を通じて住民同士の交流を図るなど、地域のつながりづくりに取り組んだ。
10 相談支援体制と情報提供の充実	8	地区部会の広報誌や町内自治会の回覧等により、地域住民に対し情報提供を行ったほか、地域の行事やサロン活動などを通じて、相談支援体制の構築に取り組んだ。
今年度の振り返り	74	新型コロナウイルス感染症の影響により、いきいきサロンや敬老会等の実施に関しては慎重にならざるを得ず、休止や中止の活動もある中、コロナ禍においても活動できるよう、人数制限や屋外の活動に変更するなど、ニーズに沿った形で再開する地区部会も多く見られた。
今後の課題と方針		(課題) ・活動に携わる人材の発掘と育成が急務となってきている。 ・新型コロナウイルス感染症の状況下において安全を確保しつつ交流と介護予防を図る方法を考える必要がある。 (方針) これまでどおり、手指消毒やマスクの着用、ソーシャルディスタンス等の感染対策を取りながら、状況に応じた形で開催していきたい。

◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

開催日		主な議題等
令和3年度	第1回 8月5日(木) (書面開催)	議題1(承認事項)委員長・副委員長・広報委員の選出について 議題2(承認事項)稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(H30~R2) 議題3(依頼事項)第5期稲毛区支え合いのまち推進計画の策定について 他 議題4(依頼事項)稲毛区支え合いのまち推進計画 他
	第2回 10月27日(水)	(報告事項)令和3年度第1回稲毛区支え合いのまち推進協議会の書面開催結果について (議 題)第5期稲毛区支え合いのまち推進計画の策定について

◆区の地域福祉に関する好事例等

<p>・コロナ禍で活動を継続するために工夫している取組事例</p> <p>(1) サロンの新規メニューとして、地区部会で「ポッチャ」の用具を購入し、地域住民の交流に取り組んだ。また、担い手の養成を目的としていきいきサロンのリーダー養成講座を実施した。 (小中台東地区部会)</p> <p>(2) コロナ禍でも交流が図れるよう地域内の公園(3か所)を会場として、ラジオ体操を実施した。 (緑・黒砂地区部会)</p> <p>(3) 「ふれあい食事サービス」が休止となったため、利用者へ絵手紙を配布し、その際に状況等を伺った。(緑・黒砂地区部会)</p>
--

稲毛区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況（令和3年度）個票

【取組みテーマ】 1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の実績	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の実績	令和4年度の実績
小中台東地区部会エリア							
【人口・世帯数】 25,496人／11,559世帯	① あいさつから始まる地域との関わり	9	地区部会が近隣の小学校（小中台小・小中台南小・園生小・柏台小）と連携して、あいさつをテーマにした標語作品を募集し、小中台公民館において、優秀作品の掲示並びに表彰を行った。 また、各小学校で民生委員と青少年育成委員会が連携・協力して登下校時のあいさつ運動に取り組んだ。	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の実績	
【町内自治会数】 34町内自治会							
【高齢化率】 28.1%							
【地域の特徴】 地区の方が「本村」と呼ぶ園生町（一部）をはじめ、小中台町、宮野木町（一部）は、昔は山と田畑が広がっていた。昭和50年代頃に宅地開発が進み、現在は村時代からの古い住民と、戸建て、マンション等に住む新しい住民が交わっている。エリア内に小中学校が存在していない。							
	④ 地域住民の参加による見守り・支え合い	1・7	民児協において独居高齢者や高齢者世帯などに対し、日常的な声かけや携帯用のあんしんカードを配布した。 また、一部の町内自治会が独自に作成したあんしんカードを配布した。				
	⑥ 地域での福祉教育の普及・啓発	8	新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、感染予防を第一にしたうえで活動を再開・拡大してゆく。 特に昨年度に関わりを持つことが困難だった高齢者の健康面に留意して取り組む。また、活動に利用する施設との再開に向けての調整について検討する。	地区部会が町内自治会と連携し、高齢者等に関するテーマ（SDGs、悪質商法、災害時のトラブル）で講座を開催し、福祉に関する普及・啓発に取り組んだ。	・新型コロナウイルス感染症の影響により、自宅に閉じこもりがちな高齢者のフレイル予防。 ・子育て関連の事業（イベント、サロン、養成講座等）が開催できなかった。		・地域で安心して活動ができるよう、従事者・参加者の安全を第一に考え、コロナ禍でも取り組める内容やその方法について地区内の福祉事業者との連携も含めて検討を重ね、実施していきたい。 また、健康づくりや介護予防に関する活動のため会場を増やすことも含めて検討し、情報の収集・共有を積極的に行い、活動に取り組んでいきたい。
	⑧ 健康づくりや介護予防の普及・啓発	5		地区部会があんしんケアセンターや区健康課等と連携・協力し、高齢者に対していきいきサロン（7/12か所 43回）を行ったほか、ポッチャの体験会を2会場で開催するなどし、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組んだ。			
	⑨ 地域の情報の収集と発信	10		地区部会が町内自治会や民生委員等、地域の活動に関する情報を共有するとともに、広報紙（3回/年発行）等で情報の発信に取り組んだ。 また、地区部会が町内自治会と連携し、高齢者等に関するテーマで情報交換会を開催するなど、情報収集などに取り組んだ。			

稲毛区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況（令和3年度）個票

【取組みテーマ】 1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の見守りの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の見守りに関する課題・今後の課題	令和4年度の見守りの方向性			
山王地区部会エリア									
【人口・世帯数】 17,007人／8,497世帯	① あいさつから始まる地域との関わり	9	令和3年度の見守りの方向性	地区部会が小学校のセーフティウォッチャーと連携し、登校時にあいさつ運動を実施し、活動を通じて地域のつながりづくりに努めた。	令和3年度の見守りに関する課題・今後の課題	令和4年度の見守りの方向性			
【町内自治会数】 11町内自治会				地区部会が町内自治会や地域の関係団体と連携・協力して、いきいきサロン（5/5か所 45回）を実施し、多くの地域住民の参加・交流の場づくりに取り組んだ。					
【高齢化率】 31.7%				地域交流・多世代交流			9	地域交流・多世代交流を目的としたイベントが新型コロナウイルス感染症の影響により中止となる中、地区部会が町内自治会や民生委員等の関係団体と問題・課題の検証を行い、今後の実施方法等について検討を行った。	・感染症対策と並行し、各事業開催の実施有無について、事前に季節への対応（寒冷・乾燥期など）を設定し中止の準備をしたが、季節・気候と必ずしも連動しなかった、そこで今後は実行前提で、中止判断は機動的に三役が下し、速やかな連絡体制の上で望むことにした。
【地域の特徴】 古くは戦時中、その広大な原野は軍の演習地として活用され、終戦後に開墾が始まり、人々が転入して成った地域である。エリアには内陸工業地帯が開発され、主に戸建てが立ち並ぶ。稲毛区の北部に位置し、四街道市が隣接している。				地域で活動している人・組織同士の連携・協力			9・10	新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、感染予防を第一にしたうえで活動を再開・拡大してゆく。 特に昨年度に関わりを持つことが困難だった高齢者の健康面に留意して取り組む。 また、高齢者の生活支援（買い物支援）で協働している施設との連携をとり、今後の進め方について検討する。	・これまでどおり、手指消毒やマスクの着用、ソーシャルディスタンス等の感染対策を取りながら、状況に応じた形で開催していきたい。
				地域住民の参加による見守り・支え合い			1・7	3町内自治会において、一人暮らし高齢者等に対し、安否確認等による地域住民主体の見守り活動に取り組んだ。	
	⑪ いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	6		地区部会が公民館との共催による地域での防災講座を企画するとともに、自主防災組織での防災・避難訓練を実施し、住民一人ひとりの防災意識の向上に取り組んだ。					

稲毛区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況（令和3年度）個票

【取組みテーマ】 1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性		
轟・穴川地区部会エリア	③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力	9	新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、感染予防を第一にしたうえで活動を再開・拡大してゆく。 特に昨年度に関わりを持つことが困難だった高齢者の健康面に留意して取り組む。	地区部会が敬老会を開催する一部の町内自治会に対し、感染症対策費用として支援を行った。	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で活動が休止となったことや、担い手の高齢化により、士気が低下し地域活動に対して消極的になっている。 ・町内自治会、民児協、あんしんケアセンター等の関係団体と連携して内容を精査し、地域に必要な活動に取り組んでいきたい。 ・これまでどおり、手指消毒やマスクの着用、ソーシャルディスタンス等の感染対策を取りながら、状況に応じた形で開催していきたい。 			
【人口・世帯数】 10,950人／5,542世帯 【町内自治会数】 20町内自治会 【高齢化率】 25.1% 【地域の特徴】 戦時中、稲毛区役所、稲毛保健福祉センター等の敷地は戦車学校が建つ軍用地であった。その後開発が進み、エリアには戸建て住宅、市営・県営住宅、マンション等が立ち並ぶ。文教のまちの呼称でも親しまれ、公共機関（教育施設、行政施設等）を内包する。				⑧ 健康づくりや介護予防の普及・啓発			2	地区部会が町内自治会や民児協、健康課などと連携して、地域の高齢者を対象としたいきいきサロン（7/12か所 42回）において健康体操や健康相談などを実施し、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組んだ。
				⑪ いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催			6	一部の町内自治会において、防災訓練を行い災害時の支援体制づくりに取り組んだ。

【取組みテーマ】 1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

稲毛区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況（令和3年度）個票

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性		
稲毛地区部会エリア								
【人口・世帯数】 12,078人／5,827世帯	② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、感染予防を第一にしたうえで活動を再開・拡大してゆく。 特に昨年度に関わりを持つことが困難だった高齢者の健康面に留意して取り組む。	新型コロナウイルス感染症の影響により地域交流・多世代交流を目的としたイベント等は中止となる中、地区部会が町内自治会や民生委員等の関係団体と今後の実施方法等について検討を行った。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワクチン未接種による参加者の選定。 ・新規の参加者を募集したが、新型コロナウイルス感染症の影響により集まらない。 ・「喋れない」「食べられない」等、サロンの内容を見直す必要がある。 ・開催の有無についてボランティアの意見も分かれ、このタイミングで辞めてしまう。 	これまでどおり、手指消毒やマスクの着用、ソーシャルディスタンス等の感染対策を取りながら、状況に応じた形で開催していきたい。		
【町内自治会数】 15町内自治会				地域交流・多世代交流を目的としたイベントが新型コロナウイルス感染症の影響により中止となる中、地区部会が町内自治会や民生委員等の関係団体と問題・課題の検証を行い、今後の実施方法等について検討を行った。				
【高齢化率】 21.8%				③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力			9	地区部会が民児協や町内自治会と協力し、いきいきサロン（2/3か所 11回）等を通じて、参加者への声かけによる見守り活動に取り組んだ。
【地域の特徴】 南北に延びる稲毛区の最南に位置し、昭和の埋め立てが始まる前は、浅間神社の下に東京湾が広がり、あさりと海苔のまちとして栄えた。エリア内にはJR線と京成線が走り、また、南部には国道も敷かれており、どこへの移動も大変便利である。				④ 地域住民の参加による見守り・支え合い			1・7	地区部会が公民館や福祉施設と連携・協力し、いきいきサロン（2/3か所 11回）、を実施し、住民同士が身近な場所で気軽に集える居場所づくりに取り組んだ。
				⑦ 公共施設や空き店舗などを活用した身近な居場所づくり			2・3 4・9	地区部会が区健康課と連携・協力して、高齢者を対象とした、いきいきサロン（2/3か所 11回）を行うなど、健康体操や健康相談を通じて、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組んだ。
	⑧ 健康づくりや介護予防の普及・啓発	5						

稲毛区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況（令和3年度）個票

【取組みテーマ】 1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組の方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組の方向性
稲毛地区部会エリア						
【人口・世帯数】 12,189人／5,664世帯	① あいさつから始まる地域との関わり ② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流 ③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力 ④ 地域住民の参加による見守り・支え合い ⑤ 福祉活動の中核となれる人材の発掘・育成 ⑥ 地域での福祉教育の普及・啓発 ⑦ 公共施設や空き店舗などを活用した身近な居場所づくり	9	令和3年度の取組の方向性 新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、感染予防を第一にしたうえで活動を再開・拡大してゆく。 特に昨年度に関りを持つことが困難だった高齢者の健康面に留意して取り組むとともに、複数の事業に関りを持っているエリア内小学校とも協調した検討をしてゆく。	町内自治会や学校、セーフティウォッチャーなどが連携・協力し、稲丘小の登校時の児童へのあいさつや、町内自治会が防犯パトロールの際に、住民への声掛けをおこなうなど、あいさつ運動に取り組んだ。 また、交通安全運動（春・夏）の期間中に青少年育成委員会が声掛け・挨拶運動に取り組んだ。	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題 ・地域の高齢化に伴い、新たな担い手の育成・確保に取り組む必要がある。 ・これまでどおり、手指消毒やマスクの着用、ソーシャルディスタンス等の感染対策を取りながら、状況に応じた形で開催していきたい。 ・町内自治会との意見交換・情報共有を積極的に行い、地域の活性化を図りたい。	
【町内自治会数】 7（1）町内自治会		9		地区部会や町内自治会、スポーツ振興会、民児協などが相互に連携・協力し、地域交流を目的としてグラウンドゴルフなど地域活動に取り組んだ。		
【高齢化率】 18.0%		9・10		地区部会や町内自治会、スポーツ振興会、民児協などが相互に連携・協力し、地域交流を目的としてグラウンドゴルフなど地域活動に取り組んだ。		
【地域の特徴】 JR稲毛駅前付近は高層大規模な集合住宅が林立し、若い世代が集中して、戸建て住民を牽引する形で地域意識が好い町作りの方向に変容しつつある。 集合住宅と戸建て住宅が混在する稲毛の台地で、快速の停車駅JR稲毛駅と、京成稲毛駅はバスの利用なしで行ける。 エリアは7つの自治会から成るが、JR稲毛駅至近に建つ1マンション区が小学校区は稲丘小、地区部会は小中台西エリアに属し、双方の地区部会活動に関わっている。		1・7		地区部会や町内自治会などが連携・協力し、一人暮らし高齢者等に対して、いきいきサロン（4/6か所 47回）を通じての声かけや町内自治会が民生委員と連携して、防犯パトロール等による住民主体の見守り活動に取り組んだ。		
		7		地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などと連携し、地域活動や町内自治会の広報等を通じて、地域活動の担い手確保に取り組んだ。		
		8		地区部会が小学校と連携して、敬老会などの地域行事への参加を呼びかけ、活動を通じて福祉教育の普及・啓発に取り組んだ。		
		2・3 4・9		地区部会が、町内自治会と連携・協力し、町内自治会館などにおいて、いきいきサロン（4/6か所 47回）を実施し、住民同士が気軽に集える居場所づくりに取り組んだ。 また、一部の町内自治会においてラジオ体操や花壇づくりなどを実施した。		

稲毛区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況（令和3年度）個票

【取組みテーマ】 1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
稲毛地区部会エリア						
	⑧ 健康づくりや介護予防の普及・啓発	5	新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、感染予防を第一にしたうえで活動を再開・拡大してゆく。 特に昨年度に関りを持つことが困難だった高齢者の健康面に留意して取り組むとともに、複数の事業で関りを持っているエリア内小学校とも協調した検討をしてゆく。	地区部会がスポーツ振興会や町内自治会やあんしんケアセンターと連携・協力し、いきいきサロン（4/6か所 47回）や自治会における早朝ラジオ体操を実施して、高齢者に対する健康づくりや介護予防に取り組んだ。	・地域の高齢化に伴い、新たな担い手の育成・確保に取り組む必要がある。 ・コロナ禍で多くの活動が休止してしまい、ボランティアのモチベーションをどのように維持していくか。	・町内自治会、民児協、あんしんケアセンター等の関係団体と連携して、活動の精査を行い、地域に必要な活動に取り組んでいきたい。 ・これまでどおり、手指消毒やマスクの着用、ソーシャルディスタンス等の感染対策を取りながら、状況に応じた形で開催していきたい。 ・町内自治会との意見交換・情報共有を積極的に行い、地域の活性化を図りたい。
	⑨ 地域の情報の収集と発信	10		地区部会が町内自治会、民児協と連携協力して常任理事会等の会議に参加し情報共有を行うとともに、地域住民に対して、地区部会だより（1回発行）や町内自治会の広報紙などにより、地域活動の情報発信に取り組んだ。		
	⑩ 身近な地域の相談相手の確保	10		地区部会が町内自治会や民児協、あんしんケアセンター、行政と連携し、活動を通じて地域住民と顔見知りの関係を築き、身近な相談相手となる関係づくりに努めた。		
	⑪ いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	6		一部の町内自治会において、千葉市や消防と連携協力し、地域住民を対象とした防災訓練を実施するとともに、避難所運営委員会が稲丘小学校で避難所開設訓練を実施するなど、住民一人ひとりの防災意識の向上に取り組んだ。		
	⑫ 地域住民を地域で守る取り組み	6		町内自治会が地域内の小・中学校（稲丘小、稲毛小、小中台南小、稲毛中）のPTAと連携し、毎年更新するエリア内の危険箇所のマップを作成し、地域住民へ情報提供を行った。		

稲毛区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況（令和3年度）個票

【取組みテーマ】 1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の実績	令和3年度の実績	令和3年度の実績	令和3年度の実績
千草台中学校地区部会エリア						
【人口・世帯数】 17,007人／4,676世帯	② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	新型コロナウイルス感染症の影響により地域交流・多世代交流を目的としたイベント等が中止となったが、地区部会が町内自治会や民生委員等の関係団体と今後の実施方法等について検討を行った。 地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会などが連携・協力し、グラウンドゴルフなど地域活動に取り組んだ。 地区部会が区健康課やあんしんケアセンター、シニアリーダー、スポーツ振興会等と連携・協力し、高齢者に対していきいきサロン（3/4か所 16回）やシニアリーダー体操、グラウンドゴルフやポッチャを実施するなど、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組んだ。 各町内自治会で独自に防災訓練を行い、災害時の支援体制づくりに取り組んだ。	新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、感染予防を第一にしたうえで活動を再開・拡大してゆく。 特に昨年度に関わりを持つことが困難だった高齢者の健康面に留意して取り組む。	・若い世代が地域活動に対しての関心が無い ・新たな担い手確保に向けた働きかけを行う必要がある。	・これまでどおり、手指消毒やマスクの着用、ソーシャルディスタンス等の感染対策を取りながら、状況に応じた形で開催していきたい。
【町内自治会数】 8町内自治会						
【高齢化率】 34.1%						
【地域の特徴】 2,000世帯から成る千草台団地を中心に、戸建て、マンション等がある全8自治会で構成されている。エリア内には千葉県総合スポーツセンター、千葉都市モノレールも走り、また京葉道路と国道で分断されているのも特徴的である。最近では萩台町の旧水田地帯に新築戸建の開発が進んでいる。前記の千草台団地の高齢化率は区内で3番目に高い47.6%である。						
	③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力	9・10				
	⑧ 健康づくりや介護予防の普及・啓発	5				
	⑪ いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	6				

稲毛区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況（令和3年度）個票

【取組みテーマ】 1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
草野地区部会エリア 【人口・世帯数】 21,438人／9,786世帯 【町内自治会数】 22町内自治会 【高齢化率】 28.2% 【地域の特徴】 京葉道路の一部、穴川インターチェンジの一部をエリアに含み、概ねエリアの中央を走る国道16号線を境に東西へまたがっている昔は山だらけだったという地域には古くからの戸建て、アパート群の中に新設のマンションが建設され、新旧住民が混在している。 エリア内で一番世帯数の多いあやめ台団地については、昭和41年の入居開始から56年が経過、約半世紀を経た今、稲毛区内で5番目の高齢化率(45.4%)、住民の半数近くが高齢者となっている。高齢者（高齢化・孤立死等）と子育て（低所得・家庭崩壊等）の2つが顕著な問題である。	② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、感染予防を第一にしたうえで活動を再開・拡大してゆく。 特に昨年度に関わりを持つことが困難だった高齢者の健康面に留意して取り組む。	一部の町内自治会がスポーツ振興会や青少年育成委員会、子ども会と連携・協力し、夕涼み会、ラジオ体操、防災訓練などを継続して企画実施し、幅広い世代が参加交流できる場づくりに取り組んだ。 町内自治会や民児協、URなどが連携・協力し、町内自治会の会合等で見守りに対する啓発活動を行うなど、地域住民による見守り活動に取り組んだ。 また、いきいきサロン参加者への呼びかけや民生委員によるあんしんカードの配布等を行うなど、高齢者への見守りに取り組んだ。	・担い手の高齢化や新型コロナウイルス感染症の影響により、士気が低下し地域活動に対して消極的になっている。 ・認知症高齢者や様々なハンディキャップを抱えた方が増加し、問題・課題が複雑になってきている。 ・若い世代が地域活動に対しての関心が無いため、新たな担い手確保に向けた働きかけを行う必要がある。	・個人の特技を登録制にして、支え合いやサロン活動の担い手として地域活動に活用していきたい。
④ 地域住民の参加による見守り・支え合い	1・7	地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力し、高齢者等に対していきいきサロン（8/12か所 16回）や子育て中の親子を対象とした子育てサロン（1/2か所 8回）を継続して実施するなど、身近な居場所づくりに取り組んだ。				
⑦ 公共施設や空き店舗などを活用した身近な居場所づくり	2・3 4・9	地区部会が町内自治会や民児協、区健康課やあんしんケアセンターなどと連携・協力し、高齢者等に対していきいきサロン（8/12か所 16回）や散歩クラブ（3/3か所 34回）を継続して実施するとともに、一部のエリアで健康測定会や認知症サポーター養成講座などを実施して健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組んだ。				
⑧ 健康づくりや介護予防の普及・啓発	5	一部の町内自治会（自主防災会）が地域住民に対して防災・避難訓練や回覧で新規の希望者を募り要支援者の名簿作成を行い、住民一人ひとりの災害時に備えた意識の向上に取り組んだ。 また、避難所運営委員会が区地域振興課と協力して、避難所開設訓練を実施するなど、防災意識の向上に努めた。				
⑪ いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	6					

稲毛区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況（令和3年度）個票

【取組みテーマ】 1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の実績	令和3年度の実績	令和3年度の実績	令和3年度の実績
緑が丘地区部会エリア						
【人口・世帯数】 16,783人／7,991世帯	① あいさつから始まる地域との関わり	9	町内自治会や老人会による地域の防犯パトロールや、セーフティウォッチャーによる宮野木小の登下校時の声掛けなど、地域内のあいさつ運動に取り組んだ。	令和3年度の実績	令和3年度の実績	令和3年度の実績
【町内自治会数】 27町内自治会						
【高齢化率】 33.3%						
【地域の特徴】 柏台、長沼町の一部、宮野木町の一部、園生町の一部、あやめ台の一部をエリアとしている。あやめ台団地内の一街区、二街区はあやめ台小学区、三街区は柏台小学区と、団地内で学区が分かっている。町がつく場所には古くからの住民と、最近立ち始めた戸建て等に転入してくる新しい方が融合している。	③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力	9・10	新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、感染予防を第一にしたうえで活動を再開・拡大してゆく。 特に昨年度に関わりを持つことが困難だった高齢者の健康面に留意して取り組む。	地区部会をはじめ町内自治会や民児協、青少年育成委員会、スポーツ振興会と相互に連携・協力して、緑ンピック等のイベントや、民児協と子どもルームが行う交流会、防犯活動などの地域活動に取り組んだ。 また、福祉活動推進員を増員するなど、これからの地域福祉を担う人材の確保に努めた。	・地域活動を計画に沿って推進していたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い活動内容を大幅に縮小せざるを得ず、特に高齢者の健康面で不安を訴える声が聞かれた。	・感染予防を第一にしたうえで活動を再開・拡大していきたい。
	④ 地域住民の参加による見守り・支え合い	1・7	一部の町内自治会において、単身・高齢者世帯に対しゴミ出し・見守り支援を行うなど、住民同士の支え合い活動に取り組んだ。			

稲毛区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況（令和3年度）個票

【取組みテーマ】 1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
301（作草部・天台）地区部会エリア				新型コロナウイルスの感染拡大により、例年行われていた地域行事や地区部会と小学校との共同事業は中止になったが、次年度に向けて、行事の実施方法等について関係者間で協議を行った。		
【人口・世帯数】 13,622人／6,680世帯	② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	令和3年度の取組みの方向性	地区部会が町内自治会・民児協と連携・協力して行う、「301地区支え合いの会」において、高齢者等を対象にゴミ出しや買物の手伝いの他、多様なニーズに対応するなど、住民同士の支え合い活動に取り組んだ。 また、継続して2町内自治会において、「無事です」ステッカーを活用した安否確認や、行事の参加者へ声かけによる見守り活動に取り組んだ。	・新型コロナウイルス感染症の影響により、集まることができず、それに伴いコミュニケーション不足が生じ、情報交換・共有ができない。	・行事や会議など、可能な限り参加できる場を持ち、新型コロナウイルス感染症の影響で希薄になっていた繋がりを取り戻していきたい。
【町内自治会数】 15町内自治会						
【高齢化率】 26.2%						
【地域の特徴】 中央区、若葉区との境に接しているため、地域内にある都賀小学校へは稲毛区、中央区から、千草台東小学校へは若葉区、中央区、稲毛区の児童が通学している。また、都賀中へは稲毛区、若葉区、中央区の生徒が通学している。自治会が結成されていない主なマンションは5カ所、350世帯ある。						
	④ 地域住民の参加による見守り・支え合い	1・7	新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、感染予防を第一にしたうえで活動を再開・拡大してゆく。 特に昨年度に関わりを持つことが困難だった高齢者の健康面に留意して取り組む。	地区部会や町内自治会、民児協、各種活動団体・関係機関が会議等に参加し、情報共有を行うとともに、広報紙（2回発行）などを通じて地域住民に対する地域活動等の情報発信に取り組んだ。		
	⑨ 地域の情報の収集と発信	10		地区部会や町内自治会、民児協、各種活動団体・関係機関が会議等に参加し、情報共有を行うとともに、広報紙（2回発行）などを通じて地域住民に対する地域活動等の情報発信に取り組んだ。		
	⑪ いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	6		地区部会や町内自治会自主防災会などが連携・協力し、防災連絡会を実施し、地域住民に対し防災に関する意識の向上に取り組んだ他、6自治会において防災訓練を行った。 また、地域住民を対象として、災害時や緊急時の備えとして、地区部会が主催の救急法講座を開催した。		

稲毛区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況（令和3年度）個票

【取組みテーマ】 1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の実績	令和3年度の実績	令和3年度の実績	令和3年度の実績
緑・黒砂地区部会エリア						
【人口・世帯数】 9,095人／4,894世帯	① あいさつから始まる地域との関わり	9	町内自治会や学校（PTA）が連携し、一定期間に、通学路や学校周辺であいさつ運動を行うとともに、見守り隊によるあいさつ（声掛け）や、月1回、学校からのお知らせを自治会回覧で配布するなど、子どもから大人までが顔なじみになるよう、継続的にあいさつ運動へ取り組んだ。	令和3年度の実績	令和3年度の実績	令和3年度の実績
【町内自治会数】 7町内自治会						
【高齢化率】 22.6%						
【地域の特徴】 JR線を境に、南に走る国道357号線までの緑町、黒砂、黒砂台1丁目～2丁目をエリアとし、中心を京成線が東西に走っている。文教施設があり、または隣接していることもあり、日中の学生数、またエリアにも学生が点在し居住しているのも特徴である。						
	② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	新型コロナウイルス感染症の影響により地域交流・多世代交流を目的とした「納涼祭」や「社協まつり」等の行事は中止。地区部会が町内自治会や民生委員等の関係団体と問題・課題の検証を行い、今後の実施方法等について検討を行った。 また、子育て中の親子の交流を目的とした、子育てサロン（1/1か所 4回）を実施した他、子育てサークルの交流会や情報交換会等の活動に対しバックアップを行った。			
	⑧ 健康づくりや介護予防の普及・啓発	5	地区部会が主催の高齢者を対象としたいきいきサロン（1/3か所3回）やパーソナルカラー講座（心の健康講座）、地域内の公園（3か所）でラジオ体操を開催することにより、心身の健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組んだ。			
	⑫ 地域住民を地域で守る取り組み	6	民生委員活動を通じて、高齢者等に対し声かけによる安否確認を行った。 また、一部の町内自治会が、週2回の防犯パトロールや「無事ですタオル」を配布するなど、見守り活動に継続して取り組むとともに、「防犯ステッカー」を防犯活動協力者の自転車に掲示するなどして、地域内の防犯活動に取り組んだ。			

稲毛区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況（令和3年度）個票

【取組みテーマ】 1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
小中台西地区部会エリア						
【人口・世帯数】	① あいさつから始まる地域との関わり	9		地区部会が近隣の小学校（小中台小・小中台南小・園生小・柏台小）と連携して、あいさつをテーマにした標語作品を募集し、小中台公民館において、優秀作品の掲示並びに表彰を行うとともに、あいさつ運動のステッカーを町内自治会へ配布するなど、あいさつ運動の普及・啓発に取り組んだ。 また、町内自治会やセーフティウォッチャーへと連携して、防犯パトロールを兼ねたあいさつ・声かけ運動や登下校時のあいさつ運動に取り組んだ。		
21,323人/9,947世帯						
【町内自治会数】						
27町内自治会						
【高齢化率】	② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、感染予防を第一にしたうえで活動を再開・拡大してゆく。 特に昨年度に関わりを持つことが困難だった高齢者の健康面に留意して取り組む。 また、活動従事者同士の会合などをオンライン化する試みも検討してゆく。	地域交流・多世代交流を目的とした「小中台東西社協まつり」やその他のイベントが新型コロナウイルス感染症の影響により中止となる中、地区部会が町内自治会や民生委員等の関係団体と問題・課題の検証を行い、今後の実施方法等について検討を行った。	・新型コロナウイルス感染症の影響により、会場の確保が難しいため活動内容の検討や新たな会場の確保に取り組む必要がある。 ・利用者はサロン等の再開を望んでいるが、ボランティアの中で再開に関して意見が分かれている。 ・オンラインを利用した活動を展開していきたいが、できる・できないの差がある。	・これまでどおり、手指消毒やマスクの着用、ソーシャルディスタンス等の感染対策を取りながら、状況に応じた形で開催していきたい。 ・年度内に地域内で見守り活動に関する勉強会（意見交換会）を開催したい。
23.3%						
【地域の特徴】	④ 地域住民の参加による見守り・支え合い	1・7		7町内自治会が一人暮らし高齢者に対して防犯パトロールや電話等による安否確認の見守りに継続的に取り組んだ他、地区部会が町内自治会や民児協と連携・協力し、いきいきサロン（7/12か所 18回）の活動を介して高齢者等の見守りに取り組んだ。 また、一部の自治会で平常時のほか、災害時など緊急時の見守りとの2パターンを想定した見守り活動に取り組んだ。		
小中台1丁目から9丁目までがエリアであり、昔からの旧戸建て住宅の旧住民と、新設の大型マンションに転入して暮らす新住民とが混在している。						

若葉区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)総括表

◆取組みテーマ別取組状況

取組みテーマ	重点取組項目数	主な取組内容
1 見守りの仕組みづくり	7	・3地区部会エリアで重点取組項目として実施。訪問、あんしんカード配付、広報紙による地域住民への啓蒙、理解促進等に取り組んだ。 ・重点取組項目外では単位自治会による取組もあり。上記取組に加え、声かけ、目配り、気配り、パトロール、ラジオ体操等事業欠席者への訪問や電話連絡等を実施。
2 高齢者を支える仕組みづくり	6	・ふれあいいきいきサロンを重点取組9地区部会エリアを含む13地区部会エリア(全49サロン)でいずれも月1回程度実施。様々な工夫を凝らし地域の高齢者の仲間づくりや交流の場を提供。 ・サロン未実施自治会や未参加者への働きかけ、サロン実施自治会相互での情報交換を行う。
3 障害者を支える仕組みづくり	0	重点取り組み対象の地区部会は0件だが、各地区部会に設置の障害者福祉委員会が中心となり、施設及び入園者並びに職員訪問、車椅子貸出、障害者のつどいの会での料理教室、手芸教室、バス旅行、障害福祉サービス事業所との連携による各種イベントの開催など各種事業に取り組んだ。
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり	11	・5地区部会エリアで重点取組項目として実施。ふれあい子育てサロン(区全体で10地区部会エリア18事業)の実施。男性育児参加を促す企画、地域の保育園や若葉区健康課とも連携し地域ぐるみの子育て支援に取り組んだ。
5 健康づくり	4	・5地区部会エリアで重点取組項目として実施。歩こう会、グラウンドゴルフ、社協だよりへの介護予防関連記事連載による情報提供、握力測定、ポッチャ、健康体操、ラジオ体操、公園清掃等を通じ、健康づくりに取り組んだ。 ・健康づくりの一助となるふれあいいきいきサロンを13地区部会エリアにて実施の他、ふれあい散歩クラブ・歩こう会を6地区部会エリアで実施した。
6 防犯・防災に対する取組み	7	・防犯では2地区部会エリアで重点取組項目として実施。防犯パトロール、セーフティウォッチャー等の見守り活動、チラシ回覧にて注意喚起を促した。 ・防災については4地区部会エリアで重点取組項目として実施。防災マップ作成準備、町内自治会に対し自主防災組織設置の働きかけ、防災訓練、防災講習会等の開催、町内自治会と地区部会による災害時要支援者情報の共有化検討等に取り組んだ。
7 担い手の拡大とボランティアの促進	4	・3地区部会エリアで重点取組項目として実施。ボランティア講座(7地区)の実施をはじめ、地区部会広報紙や各種事業案内チラシの中でボランティアを募集した。また地域活動実施者に声かけし、ふれあいいきいきサロンなど地区部会活動をテーマとした研修を実施、地区部会活動をムービー化しての周知、イベント参加者への勧誘、市ことぶき大宮校学生へのボランティア研修等に取り組む、人材確保につながった。
8 福祉教育・啓発	2	・3地区部会エリアで重点取組項目として実施。ふれあい祭を通じた子供たちとのふれあい、夏季及び冬季休業時に学校と地域との連携による工作教室や昔遊びの実施、高校、地域住民並びに地区部会の連携によるふれあい子育てサロンの実施、各種講座を実施した。 ・ふれあいいきいきサロンをはじめとした各種地区部会事業の中での世代間交流、全14地区部会エリアで発行の広報紙による地域福祉活動の周知啓発に取り組んだ。
9 地域のつながりづくり	13	・3地区部会エリアで重点取組項目として実施。歩こう会、ラジオ体操、セーフティウォッチャーによる登下校時の見守り、挨拶、声かけ、芋煮会、バス旅行、風揚げ、グラウンドゴルフ、バザー等の各事業を通じた人同士のつながりづくりをはじめ、隣接地区部会協働による講座実施、介護や認知症等のテーマ設定のもと多職種による地域ケア会議を実施した。
10 相談支援体制と情報提供の充実	3	・8地区部会エリアで重点取組項目として実施。福祉のまちづくりに向けた町内自治会同士の情報交換会実施検討、地域ケア会議での地域課題の共有と各参加者の役割確認、サロンでのあんしんケアセンターとの連携による相談窓口の設置や介護保険等の情報提供に取り組んだ。 ・全14地区部会エリアで広報紙を発行。地域福祉に関する多様な情報提供を実施した。
今年度の振り返り	57	令和3年度はコロナウイルス感染拡大の影響で活動の中止や見合わせをするケースもあったが、その中で感染予防対策を講じて可能な活動は継続され、刊行物や物品等の配布による交流や啓発の実施、SNS等を活用したりリモートによる活動等、様々な工夫やアイデアを盛り込んだ地域活動の事例がみられた。

今後の課題と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・長期化する新型コロナウイルス感染症への対応を検討していく ・若葉区全体としての活動の一体化を推進していく ・地域活動に対する住民の理解や活動に見える化を進めていく ・高齢化に伴う地域活動の担い手不足や介護等の問題に取り組んでいく
----------	--

◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

開催日			主な議題等
令和3年度	第1回	6月 30日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度若葉区支え合いのまち推進協議会正副委員長の選任について ・令和4年度若葉区支え合いのまち推進協議会の運営、開催スケジュールについて ・その他、コロナ禍での地域活動の意見交換
	第2回	12月12日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・取組状況(令和3年度)調査について ・第5期計画「具体的な取組」「重点取組項目」の作成に向けて

◆区の地域福祉に関する好事例等(1)

坂月地区部会の取組み

人が集まることが難しい状況のため、
 ①75歳以上で独居の方に10月末から11月初旬にマスクを届けた。
 ②坂月小学校の児童と一緒に「花植え」は、児童のみの活動となったが、通常の支援を行った。

桜木地区部会の取組み

<いきいきサロン運営上の工夫>
 長引くコロナ禍の中で、どうすれば安心して楽しく過ごせるかを工夫する動きが見られた。
 ・屋外スポーツ中心に活動。マスク着用。
 ・近隣の憩いの森にて青空サロンを開催。
 ・屋内でできる体操・運動を取り入れた。
 ・安価で豪華なお楽しみ品を用意して、コロナ禍でも楽しく過ごせるよう工夫した。
 ・近隣の公園にてグラウンドゴルフを実施。
 ・屋内でマジックや大正琴等、研鑽の成果を披露。

白井地区部会の取組み(1)

『集まらないで出来る活動を！』
 1.ボランティア委員会
 ①タオルでボランティア:家庭に眠っている未使用タオルを施設に贈る活動期間中に660枚のタオルが集まり、白井地区内の11の施設に贈呈、社協と地域施設の交流を図った。
 ②シトラスリボンプロジェクト:コロナウイルスに感染した人やその家族、医療従事者の皆さんへの偏見、差別を無くし誰もが暮らしやすい地域を目指そうという活動(2,740セット/(リボン3個と説明書)作成配布)。白井公民館、白井地区自治会、白井地区の活動団体に配付。社協稲毛区事務所の方にリボンの作り方を教示し、組織間の交流が出来た。
 2.児童母子福祉委員会 子育てサロンの代替事業
 わくわくバック:コロナ禍で集まれないので、親子を対象に家庭で楽しめる工作キットを作成し、公民館のロビーで配布した(30セット限定、年6回(2か月毎))30セットは2週間程度で配布完了(好評)。アンケート結果:子孫と一緒に楽しむことが出来た。

◆区の地域福祉に関する好事例等(2)

白井地区部会の取組み(2)

3. 多部田町自治会

リモートラジオ体操:ラジオ体操会場の参加者と自宅参加者が同じ時刻に体操。終了時に会場の連絡者が自宅参加者に連絡し、励まし合って継続している(1年半継続、自宅参加者は会場に来て顔合わせを行った)。

更科地区部会の取組み

・コロナ禍が続く中、令和4年3月26日(土)上泉公民館にていきいきサロン「なのはな」が新たに活動を始めることとなった。決してコロナ不安がなくなったわけではないにもかかわらず、地域の方々の提案で活動が始まったことに驚きを感じた。コロナに立ち向かうたくましさを感じた。

御成台・千城台西北地区部会の取組み

・当地区部会の活動は他地区部会と特に変わった活動はしていないが、他地区と同様で、役員の方々の協力のおかげでずっと続けられている。
・当地区部会では7-8年前からポッチャを活動の中に取り入れているが、「遊び」や「競う」ことは身体を活性化すると実感している。高齢者、子ども、障がい者を問わず新たな遊び・競いの要素を取り入れて参加者、役員含め楽しんでいきたい。

千城台東南・金親地区部会の取組み

「福祉の心」障害者委員会では「ひまわりの会」の集まり(会議)ができなかったことから、会員・委員の方に『食』をテーマに思い出や伝えたいことを書いてもらい“冊子”を作り届けた。皆様からは大変好評をいただいた。

都賀地区部会の取組み

1. 子育てサロン「ひなた」は、コロナ禍での活動中止が余儀なくされ、フェイスブックやインスタグラムの動画による『ひなたチャンネル』を配信し、参加者との交流をキープ。また、市社協主催「コロナ禍におけるSNSを使った子育てサロンの発信方法について」の事例発表、さらには鹿児島県社協主催のオンライン会議(研修)において事例発表を行った。

2. かねてより地区部会活動の「みえる化」が懸案事項であったが、折しもコロナ禍によりすべての活動の休止を余儀なくされ、活動の代替えとしてミニ福祉通信「みんな仲間」を令和2年1月から隔月発行し、今年度も継続している。住民に寄り添う地区部会活動の趣旨から、大切な福祉関連情報を広域的に回覧で住民に提供した。

結・みつわ台地区部会の取組み

・地域内のママさんからの要望で、「なかよしサロン」を月2回、開設しているが、参加者は限定され、1回の開催あたり1~2組である。感染防止に留意しながらの開設が続いている。

若葉区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況
(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組の方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組の方向性について
坂月地区部会エリア						
【人口・世帯数】 4,037人、1,850世帯	④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	9	現状維持とする。	・令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、“歩こう会”、“グラウンドゴルフ大会”を自粛としたため、実施には至らなかった。 R3年度達成状況:C		令和4年度以降の若葉区の統一した取組みの方向性 ①人のつながり、地域のつながりを重視した事業展開 ②地域活動が見える方法の強化 ③地域資源の発掘と展開 ※上記の3点の「取組みの方向性」を若葉区の統一した指標とし、今後「具体的な取組み」「重点取組項目」の選定を進め、令和6年度の間見直しへと繋げていく。
【町内自治会数】 5町内自治会						
【高齢化率】 22.7%						
【地域の特徴】 戸建住宅が少しずつ増え、新住民も増えてきているが、多くの生徒は、千城台西小学校へ通学しているため、エリア内にある坂月小学校(市内で最少人数)に通学する生徒は少ない。	⑭ 防犯・防災意識を高め実践する。	6	令和3年度作成予定。	・令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、地域活動全般を自粛としたためマップの作成には至らなかった。 R3年度達成状況:C		
	⑯ 地域福祉に関する情報の発信	10	広報紙は発行する方向に考えている。	・令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、広報紙の発行には至らなかった。 R3年度達成状況:C		
貝塚地区部会エリア						
【人口・世帯数】 6,113人、3,163世帯	① 地域ぐるみで声掛け・あいさつ運動の実施	9	高齢者のサロン等の集会はコロナ禍の中で見通せないが、小学生への見守り活動は拡充すること。	・都小学校と北貝塚小学校区内のセーフティウォッチャーは継続出来た。 ・コロナウイルス感染防止の観点からサロンの開催が実施出来ず、高齢者への声かけや見守りの機会が減少した。 R3年度達成状況:B		同上
【町内自治会数】 9町内自治会						
【高齢化率】 19.6%	④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	9	大きな集え活動は見通せないで、無理であればどのようなことができるか検討したい。	・コロナウイルス感染防止の観点から芋煮会・健康セミナー・ボランティア講座等は実施には至らなかった。 R3年度達成の目安:C		
【地域の特徴】 代々続く旧家の多いエリアと、造成地へ戸建てが立ち、そこへ住む転入住民、賃貸住宅の多いエリアなどが混在し、古くから住宅のあるエリアでは2世代、3世代同居の家も多い。	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	2.4	コロナ禍がどのように展開するのか？集えをするためにはどのような催しとするか、まず検討する。	・いきいきサロン(65歳以上対象・年間5回予定)、お話し会(小学校6年生以下対象・年間2回開催予定)共にコロナウイルス感染防止の観点から実施に至らなかった。 R3年度達成の目安:C		
	⑨ わたしたちのまちの福祉を考える会(仮称)の設置	10	各町内自治会の考えが異なるため、同じ方向の情報、話題を検討する。	・令和2年度の目標に挙げた「全町内・自治会で話し合う会」の設置に至らなかったが、社協地区部会で三役会を開催する際は、各町内・自治会長に出席頂き連携を図った。 R3年度達成の目安:C		
	⑬ 防犯活動の実施	6	個々の人が取り組める防犯、防災への意識を高める。コロナ感染を防ぎながら取り組めるものを検討したい。	・地区部会全体で統一した活動には至らなかったが、各町内・自治会で防犯対策をしており、青パトによる巡回等を行っている。また都小学校区内は、こども110番のポスターの掲示協力をしている。 R3年度達成状況:B		
	⑭ 防災・減災活動の実施	6	具体的な訓練を実施できる形を作っていきたい。	・各町内・自治会で防災組織は整っているが、防災訓練等はコロナウイルス感染防止の観点から実施出来なかった。 R3年度達成状況:C		

若葉区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況
(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
4こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
10相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組の方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組の方向性について
桜木地区部会エリア						
【人口・世帯数】 15,212人、7,037世帯	② 子育てしやすい環境づくり	4	新型コロナの不安が残る中、無理のないサロン運営。	・子育てサロン「ととけっこー」を開催。(7回/年) 新型コロナ感染拡大防止のため、定員5組・事前申込とした。 実施日=4月、5月、6月、7月、10月、11月、3月の第4日曜日 10:30~12:00 延べ参加者数59人 延べ運営ボランティア数27人 R3年度達成状況:B		令和4年度以降の若葉区の統一した取組みの方向性 ①人のつながり、地域のつながりを重視した事業展開 ②地域活動が見える方法の強化 ③地域資源の発掘と展開 ※上記の3点の「取組みの方向性」を若葉区の統一した指標とし、今後「具体的な取組み」「重点取組項目」の選定を進め、令和6年度の間見直しへと繋げていく。
【町内自治会数】 20町内自治会						
【高齢化率】 24.6%						
【地域の特徴】 幹線道路が複数本通っており、地域を分断している。 住宅地が多く、古くからの住民に加え、新住民が増えてきている。						
	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	2.4	新型コロナの不安が残る中、無理のないサロン運営。	・いきいきサロン7か所のうち4か所が活動した。活動した各サロンはそれぞれ新型コロナ感染予防の工夫を行った。 R3年度達成状況:B		
	⑦ 地域でできる介護予防・健康づくり	5	新型コロナの不安が残る中で、無理のない事業企画。中止もやむを得ずとする。	・5月の歩こう会は新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止した。 ・11/13に地区部会主催グラウンドゴルフ大会を開催。 参加者23名。 R3年度達成状況:B		
	⑪ 見守り活動の仕組みづくり	1	・新規見守り活動の定着。 ・年末慰問金の配布活動。(当該家庭を訪問)	・桜木町第四町内会にて見守り活動を実施した。 ・12月に対象家庭を訪問し、年末慰問金の配布を実施した。 ※対象:80歳以上独居者256名、寝たきり高齢者3名、心身障害児10名。 R3年度達成状況:B		
小倉地区部会エリア						
【人口・世帯数】 13,172人、6,054世帯	② 子育てしやすい環境づくり	4	スタッフの人数が少なく、回数が1回に終わっているため、年2回開催に向けて、社協全体の活動として捉えていければと考える。	・「子育てサロン」は、コロナウイルス感染防止のため、開催を中止とした。 ※なお、小倉小学校開催(主催)「昔遊び」に協力。あやとり、お手玉、折り紙、おはじき、けん玉等の指導を行った。 R3年度達成状況:C		同上
【町内自治会数】 12町内自治会						
【高齢化率】 28.2%						
【地域の特徴】 約1,600世帯が属する小倉中央自治会(小倉台1丁目~小倉台7丁目)がエリアの中心にある。千葉都市モノレール小倉台駅を中心に、南北には戸建て主に住宅からなる住宅街と一部集合住宅(市営・県営)、幹線道路沿いには商店街が広がる。	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	2.4	参加者を増やすことと内容を充実させること。	・「いきいきサロン」年度中8回開催(4回はコロナウイルス感染防止のため中止)。 計69名参加 1回平均8.6名 ・サロン終了後、運営委員会を開催し、問題点を議論、検討を行った。 R3年度達成状況:B		
	⑪ 見守り活動の仕組みづくり	1	民生委員の健康調査実施後に75歳以上高齢者に配布を継続したい。	・コロナ禍により民生委員の高齢者実態調査も中止となり、「安心カード」の配布は断念せざるを得なかった。 R3年度達成状況:C		

若葉区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況
(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組の方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組の方向性について
白井地区部会エリア						
【人口・世帯数】 7,023人、3,413世帯	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	2.4	コロナ禍でできるサロンを検討・実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・白井地区部会のいきいきサロンは9か所を実施。 ・コロナ禍の為、休止の自治会あり。5か所を実施。 <工夫した取組例>「回覧サロン」 集まらないので、参加メンバー家順の一覧表を作り、近況を書き、お知らせを回覧する仕組み。誕生日の方には記念カード(皆の寄せ書き)を贈呈。	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度以降の若葉区の統一した取組みの方向性 ①人のつながり、地域のつながりを重視した事業展開 ②地域活動が見える方法の強化 ③地域資源の発掘と展開 ※上記の3点の「取組みの方向性」を若葉区の統一した指標とし、今後「具体的な取組み」「重点取組項目」の選定を進め、令和6年度の中間見直しへと繋げていく。
【町内自治会数】 18町内自治会						
【高齢化率】 42.7%						
【地域の特徴】 対象エリアが非常に広く、大きく3つの地域(西部・東部・中部)に分けられ、それぞれ異なる歴史・成り立ちを持ち、昔からの歴史のある地域と新興住宅地が混在している。						
	⑧ 活動の中核となれる人材の発掘	7	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動を通じて人材を発掘する。 ・住民参加のイベントを増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6つの専門委員会に所属する「白井地区部会協力員」枠を設ける。白井地区部会に所属していた方を対象として検討する。 ・住民参加のイベント(講座・講習会等)でボランティアとして協力者も募ることを検討する。 		
	⑫ 活動団体同士の連携・交流	9	地域の課題が明確になったので引き続きケア会議を実施する。	①高齢者見守り活動実施4自治会(予定自治会含む)の意見交換会計画が、コロナ禍の為見送り。 ②ふれあい食事会連絡会 第2いずみ苑近隣4自治会でふれあい食事会再開に向け連絡会を実施。次回は、施設長の連絡待ち。 ③地域ケア会議の開催(R3.11.8実施) NW委員会が関連部所(ケアセンター、高齢障害支援課等)も集め災害時の対応事例を元に問題点を抽出する。		
	⑭ 防災・減災活動の実施	6	災害の被災体験をもとに地域防災のありかたを検討する。(地域ケア会議のテーマとする)	<ul style="list-style-type: none"> ・NW委員会の地域ケア会議(R3. 11. 8)で実施。 令和元年9月9日台風15号の襲来により千葉市は最大風速57.5m/s。倒木、4日間の停電が発生。このときの体験をもとに意見交換を行う。 結果を、①災害時に困ったこと②活動の好事例③発案としてまとめ情報を共有する。 		

若葉区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況
(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組の方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組の方向性について
更科地区部会エリア						
【人口・世帯数】 2,683人、1,237世帯	① 地域ぐるみで声掛け・あいさつ運動の実施	9	まずはコロナウイルスの感染防止から生じた課題を確認し、今後の取組みを考えていく。	・民生委員による高齢者実態調査が延期、中止となったことからわかるように、声かけや訪問等にも自粛せざるを得なかった。 R3年度達成状況:C		令和4年度以降の若葉区の統一した取組みの方向性 ①人のつながり、地域のつながりを重視した事業展開 ②地域活動が見える方法の強化 ③地域資源の発掘と展開 ※上記の3点の「取組みの方向性」を若葉区の統一した指標とし、今後「具体的な取組み」「重点取組項目」の選定を進め、令和6年度の中間見直しへと繋げていく。
【町内自治会数】 13町内自治会	④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	9	コロナウイルスの感染防止で露呈した社会福祉活動の課題を明らかにし、取組を推進していく。	・敬老会の実施については市より自粛要請を受け中止。同じく、親子凧揚げ大会も見送り、中止とした。 R3年度達成状況:C		
【高齢化率】 38.9%	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	2.4	当面はコロナ感染症拡大を速やかに防止する政治の対策を待ちたい。	・年間を通してコロナ禍のため「いきいきサロン」も責任者(役員)の判断で中止が続いた。 R3年度達成状況:C		
【地域の特徴】 対象エリアは非常に広いが、住基人口(2,683人)、世帯数(1,237世帯)は区内で一番少ない。多くの地域が農村地域であり、人の出入りは多くなく、高齢化率は高いが、現役農家世帯が多く、元気な高齢者が多い。	⑮ 災害時に避難できる体制づくり	6	・活動主体が自治会であるため、18連協で話し合いが進んでいる可能性はあるが、活動内容や実績を十分に把握できない実情がある。 ・新たに体制をつくるには難しい面が多く、今後、協議、検討が必要である。	この期間内に具体的に話し合われたことが確認できない。すでに18連協では検討は終わり、体制ができあがっているのかもしれない。 R3年度達成状況:C		
御成台・千城台西北地区部会エリア						
【人口・世帯数】 10,272人、4,775世帯	② 子育てしやすい環境づくり	4	当面は同じ形態の活動は難しい。母親同士の情報交換、癒しの場を異なる形態でどのように作っていくか考えていきたい。	・当年度は活動自粛した。 ・コロナ感染防止の観点から、屋外で開催することについて協議を重ねた。次年度、屋内屋外両方で進める方向性を決めることができた。 ・この活動はお母さん同士の息抜き、情報交換の場であるので、やはり基本は対面開催にこだわりたい。 ・次年度はコンセプトを「赤ちゃんと一緒にヨガを楽しむ」 R3年度達成状況:B		同上
【町内自治会数】 18町内自治会	⑦ 地域のできる介護予防・健康づくり	5	人は歩くことが健康長寿のためにもっともよい。高齢者でも体に負担をかけずに歩けるポールウォーキングを広めていきたい。	・この項目の活動は従来にも増して充実してきた。 ・コロナ禍による活動自粛で体力が落ちてきたと感じる高齢者が多くなってきた。そんな方のために考案されたポールウォーキングを当地区部会で広めていくこととした。 ・当年度は社協だよりや地区部会活動の中で紹介を繰り返し、12月に実際にポールを使ったウォーキング体験会を実施。次年度(令和4年度)につながる活動を続けた。 R3年度達成状況:S		
【高齢化率】 34.0%	⑫ 活動団体同士の連携・交流	9	近隣自治会や同業の地区部会との連携は穏やかに模索を継続。	・コロナ禍のもと他団体との情報交換や協議ができる状況になかった。従って活動は低調に終わる。 ・穏やかに連携を探る努力は行っていきたい。 R3年度達成状況:C		
【地域の特徴】 モノレール沿線を中心に、ショッピングセンターや住宅地が広がるエリアで、公共施設等が多く設置されている。						

若葉区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況
(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組の方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組の方向性について
千城台東南・金親地区部会エリア	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	2.4	コロナ禍の中、いきいきサロン、ふれあい給食を利用している方々の気持ちをくみ取り、いかにして再開できるようにするか検討。	1.サロン活動…状況を見ながら感染防止対策を十分とって実施した。 ・ふれあいサロン東町、南町 7/6、11/2、12/7、1/11 参加者合計33名 ・ふれあいサロン南町(会場:子ども食堂借用) 11/7、12/5、1/19 参加者合計26名	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度以降の若葉区の統一した取組みの方向性 ①人のつながり、地域のつながりを重視した事業展開 ②地域活動が見える方法の強化 ③地域資源の発掘と展開 ※上記の3点の「取組みの方向性」を若葉区の統一した指標とし、今後「具体的な取組み」「重点取組項目」の選定を進め、令和6年度の間見直しへと繋げていく。
2~5.ささえあい組織「たんぼぼ会」…感染防止対策を十分とり、普段通りの活動を実施。付添211件、ゴミ出し578件、他55件 合計844件						
6.ふれ合い食事サービス…感染防止対策を十分とり、11月、12月、1月 合計120食を提供。 R3年度達成状況:A						
【人口・世帯数】 10,969人、5,243世帯	⑫ 活動団体同士の連携・交流	9	コロナ禍の収束が見込めない中、会員間の情報、ふれあい、支援をいかに活かしていくかが課題。	・令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、中止とした。 * 御成台、西北地区部会との合同講演会 * 高齢者の交流、グラウンドゴルフ、料理教室、バス旅行 R3年度達成状況:C	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度以降の若葉区の統一した取組みの方向性 ①人のつながり、地域のつながりを重視した事業展開 ②地域活動が見える方法の強化 ③地域資源の発掘と展開 ※上記の3点の「取組みの方向性」を若葉区の統一した指標とし、今後「具体的な取組み」「重点取組項目」の選定を進め、令和6年度の間見直しへと繋げていく。
【町内自治会数】 17町内自治会						
【高齢化率】 36.4%						
【地域の特徴】 モノレール沿線を中心に、ショッピングセンターや住宅地が広がるエリアで、公共施設等が多く設置されている。	⑬ 福祉こころを育む活動の実施	8	令和2年度はコロナ禍のため一部の活動を除き中止したが、期間全体を通して見れば概ね計画通りに実施できた。コロナの収束状況を注視しながら再開できるところからはじめていきたい。	・令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、中止とし、また千城台南小学校閉校により事業終了となった。 【コロナ禍による中止】 ①東町自治会による「ふれあい祭」。 ②「コミュニティ祭」(コーヒー店出店)。 ③「夏休みなかよし教室」、「冬休みなかよし教室」、「昔あそび」の子どもと地域の交流。 【閉校による終了】 ①南町自治会による「ふれあい祭」 ②「サロン憩」植草短大生との高齢者との交流。 ③「サロン南町」児童との交流。 R3年度達成状況:C	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度以降の若葉区の統一した取組みの方向性 ①人のつながり、地域のつながりを重視した事業展開 ②地域活動が見える方法の強化 ③地域資源の発掘と展開 ※上記の3点の「取組みの方向性」を若葉区の統一した指標とし、今後「具体的な取組み」「重点取組項目」の選定を進め、令和6年度の間見直しへと繋げていく。
【町内自治会数】 17町内自治会						
【高齢化率】 36.4%						

若葉区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況
(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組の方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組の方向性について
26地区部会エリア						
【人口・世帯数】 7,788人、3,522世帯	③ 公園やサークル活動を利用した交流機会の創出	9	新型コロナウイルス感染症が収束した時点で検討したい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操 公園でのラジオ体操を3自治会で実施したが、5自治会は住民の高齢化等で参加者が減少したことから、未実施。 ・グラウンドゴルフ大会 感染防止対策を十分とり、大宮中学校の校庭で実施。住民の健康づくりと住民同士の交流に取り組んだ。 R3年度達成状況：B		令和4年度以降の若葉区の統一した取組みの方向性 ①人のつながり、地域のつながりを重視した事業展開 ②地域活動が見える方法の強化 ③地域資源の発掘と展開 ※上記の3点の「取組みの方向性」を若葉区の統一した指標とし、今後「具体的な取組み」「重点取組項目」の選定を進め、令和6年度の間見直しへと繋げていく。
【町内自治会数】 8町内自治会						
【高齢化率】 44.6%						
【地域の特徴】 徒歩圏内に鉄道の駅はなく、公共交通機関はバスのみ。 当該エリアの中心である大宮台地は昭和36年～42年にかけて、千葉県住宅供給公社により開発された大規模団地(当時戸建住宅2,040戸)である。隣接はしないもののいずみ台ローズタウンを内包する。	⑦ 地域のできる介護予防・健康づくり	5	新型コロナウイルス感染症が収束した時点で検討したい。	<ul style="list-style-type: none"> ・感染防止対策を十分とりながら、早起きラジオ体操・元気で歩こう会・安心カード・安否確認電話連絡・高齢者見守りネットワーク・一人で避難できない人の介助・公園清掃除草・ゴミ出し支援・買物支援を実施した。 R3年度達成状況：A		
	⑬ 防犯活動の実施	6	新型コロナウイルス感染症が収束した時点で検討したい。	<ul style="list-style-type: none"> ・感染防止対策を十分とりながら、地域の安全を守るため、各自治会でボランティア活動により防犯パトロールを実施した。パトロールの際、出来るだけ「見守り」活動をするよう心掛けた。 R3年度達成状況：B		
若松地区部会エリア						
【人口・世帯数】 19,749人、8,859世帯	② 子育てしやすい環境づくり	1	「参加者増加へ向けた周知の方法、内容の充実を図る」ことを継続する。	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、「子育てサロン」を自粛としたため、実施には至らなかった。 R3年度達成状況：C		同上
【町内自治会数】 13町内自治会	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	1	この感染症が落ち着くまでは計画を行うのも心配。	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、「いきいきふれあいサロン」を自粛としたため、実施には至らなかった。 R3年度達成状況：C		
【高齢化率】 26.9%	⑱ 福祉のこころを育む活動の実施	7	コロナが終息し、また学校も考え方、方向づけにより左右すると思うが、事業に携わる全ての方にとって貴重な経験となるこの事業の再開を目指したい。	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、実施には至らなかった。 R3年度達成状況：C		
【地域の特徴】 地区部会対象エリアがとて広く、住基人口(19,749人)、高齢者数(5,314人)、世帯数(8,859世帯)は区内エリアで二番目に多い。若松台2・3丁目の高齢化率(44.5%)が非常に高い。						
加曽利地区部会エリア						
【人口・世帯数】 6,641人、3,160世帯	⑫ 活動団体同士の連携・交流	4	自治会、民生・児童委員、あんしんケアセンター等が情報交換や意見交換を定期的に行う仕組みづくりを検討していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染症のため、各団体との情報交換や意見交換を定期的に行う仕組みづくりを検討していくことができなかった。 R3年度達成状況：C		同上
【町内自治会数】 7町内自治会	④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	9	総論的な話も時には必要であるが、これに加えて、身近な福祉活動を行ってゆくには、企業の力添えも必要だと考えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染症のため、社会貢献を積極的に行いたい企業と相互交流を実施できなかった。 R3年度達成状況：C		
【高齢化率】 30.3%	⑧ 活動の中核となれる人材の発掘	7	地域で定年を迎えた方や元気な高齢者に呼びかけ、これまで培ってきた知識や技術などを生かし、地区部会活動に参加していただく。	<ul style="list-style-type: none"> ・地区部会や自治会の協力を得て、役員2名(会長・事務局)の新規役員等になっていただいた。 R3年度達成状況：S		
【地域の特徴】 エリア内には小学校が設置されていなく、1町のみ(加曽利町)のエリアである。古くから農業を営む世帯の地域、戸建住宅が多い地域、最近新たに作られた新興住宅地がある。						

若葉区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況
(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組の方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組の方向性について			
都賀地区部会エリア									
【人口・世帯数】 13,731人、7,059世帯	② 子育てしやすい環境づくり	4	幼児が相手の活動であり、コロナ収束後も慎重に対応したい。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス予防対策のため全ての活動を中止した。 ・活動中止のため、フェイスブックに加え新たにInstagramでの動画『ひなたチャンネル』の配信を行った。 ・市社協主催「コロナ禍におけるSNSを使った子育てサロンの発信方法について」の事例発表を行った。 ・鹿児島県社協主催のオンライン会議(研修)において事例発表を行った。 R3年度達成状況:A					
【町内自治会数】 10町内自治会									
【高齢化率】 28.2%									
【地域の特徴】 都賀駅、モノレール沿線を中心に、戸建住宅の多い地域と、賃貸住宅集合住宅が多い地域がある。 都賀の台1丁目から4丁目までの高齢化率の平均は約48.4%と、限界集落(50%:2人に1人が高齢者のまち)に近い状況まで高齢化が進んでいる。									
⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり							1	コロナの収束を待って、活動趣旨などの再啓蒙などを行ってから再開。「協力したい。参加して皆との仲間意識を共有したい。」など、皆で楽しく支えるサロンを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス予防対策のため全ての活動を中止した。 ①いきいきサロン「健康づくりの会」 ②コミュニティカフェ ③親睦・研修旅行 R3年度達成状況:C
⑪ 見守り活動の仕組みづくり							1	引き続きミニ福祉チラシ「みんな仲間」の中で、ご近所福祉活動の一環としての協力方、啓蒙していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニ福祉通信「みんな仲間」令和4年1月号で『お一人さまの生活不安対処について(各種サービス一覧表)を全域に回覧した。 ・地区部会ではテーマとして「ご近所福祉による見守り」が要としている。都賀の台では「支え合いの会」が主導し、自治会の広報誌などで断続的に啓蒙している。 R3年度達成状況:B
⑫ 活動団体同士の連携・交流							9	引き続きミニ福祉チラシ「みんな仲間」の中で、活動団体同士の連携・交流の重要性について啓蒙してまいりたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニ福祉通信「みんな仲間」発行のため、あんしんケアセンター都賀と連携を密にした。 ※同様の目的で社協若葉区事務所との連携も維持した。 R3年度達成状況:B
⑯ 地域福祉に関する情報の発信	10	引き続き隔月発行に努めたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス予防対策のため全ての活動が中止となり、役員・会員相互の交流が途絶える中で、地区部会活動の見える化を図る方策として、地区部会活動の代替活動に一環としてミニ福祉通信「みんな仲間」を令和2年1月から隔月発行し、今年度も継続している。 ※大切な福祉関連情報を広域的に住民へ提供することで、共に考える機会になればとの思いで継続している。 ※都賀の台の一部地区では内容により各家庭に配布された。 R3年度達成状況:A						
⑳ 地域での福祉教室等の開催と活動支援	8	引き続き有意義な福祉情報を発信し、教室活動以上の成果を期したい。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス予防対策のため講習会や研修会など中止となり、ミニ福祉通信「みんな仲間」を発行し、これらの福祉教育に代わる啓蒙、啓発対策とした。福祉に関する全域への広範な情報提供は有益かつ、有効であり今後も継続することとしている。 R3年度達成状況:B						

若葉区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況
(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組の方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組の方向性について
結・みつわ台地区部会エリア						
【人口・世帯数】 24,296人、10,795世帯	④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	9	先が見通せないコロナ禍の現状では、休眠状態である。	・休眠状態が続き、先の見通しもできない状況が続いている。 R3年度達成状況:C		令和4年度以降の若葉区の統一した取組みの方向性 ①人のつながり、地域のつながりを重視した事業展開 ②地域活動が見える方法の強化 ③地域資源の発掘と展開 ※上記の3点の「取組みの方向性」を若葉区の統一した指標とし、今後「具体的な取組み」「重点取組項目」の選定を進め、令和6年度の間見直しへと繋げていく。
【町内自治会数】 35町内自治会						
【高齢化率】 24.8%						
【地域の特徴】 高齢化率が10%台の町丁(殿台町、東寺山町、みつわ台1丁目、源町、原町の一部)もいくつかあり、比較的高齢化率が低い。35の町内自治会数は区内最多(加えて5の管理組合)である。	⑧ 活動の中核となれる人材の発掘	7	自粛期間が継続しており、積極的な活動不可状態が続く。	・休眠状態が続き、先の見通しもできない状況が続いている。 R3年度達成状況:C		
	⑫ 活動団体同士の連携・交流	9	コロナ禍で先行きが見通せていない。	・コロナ禍で先行きが見通せていない。 R3年度達成状況:C		
千城小地区部会エリア						
【人口・世帯数】 2,788人、1,356世帯	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	1	ふれあい・いきいきサロン開催時は、3密を避ける。	・いきいきサロンは、3密を避け小人数で1か所(12回)実施した。 R3年度達成状況:B		同上
【町内自治会数】 10町内自治会						
【高齢化率】 43.8%	⑦ 地域のできる介護予防・健康づくり	5	開催時は、3密を避ける。	・コロナ禍にあり、年末切り餅贈呈活動のみ実施した。 R3年度達成状況:B		
【地域の特徴】 エリア内には1町(大宮町)しか含まれていない。小学校は設置されているが、児童数は区内で最も少ない。古くから農業を営む世帯の地域があり元気な高齢者が多く、また新たに作られた新興住宅地がある。	⑭ 防災・減災活動の実施	6	コロナへの呼びかけと共に、今後も実施したい。	・防災パトロール8自治会中3自治会で実施(月1回)。3密を避け実施可能なため、今後未実施自治会に実施の働きかけを継続する。 R3年度達成状況:A		

緑区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)総括表

◆取組みテーマ別取組状況

取組みテーマ	重点取組項目数	主な取組内容
1 見守りの仕組みづくり	4	緑区では、地域住民主体による見守り活動が13地域(椎名1、誉田7、土気4、おゆみ野1)で行われている。 新型コロナウイルスの感染予防のため、訪問しての見守りを自粛し外からの見守りのみとする団体が一部で見受けられるものの、活動は継続して行われた。
2 高齢者を支える仕組みづくり	3	区内地区部会4つのうち、いきいきサロンは、重点取組地区3地区で延べ186回実施(4地区で、延べ221回実施。前年度比77回増)。ふれあい食事サービスは、新型コロナウイルスの感染予防のため全ての地区で休止した。ふれあい散歩クラブは、2地区で延べ63回実施(前年度比23回増)した。新型コロナウイルスの感染状況により休止する月もあったが、前年度に比べ実施回数は増加した。
3 障害者を支える仕組みづくり	3	誉田地区では、障害者施設でのボランティア活動は休止したが、慰問品の贈呈を実施した。椎名地区では、計画していた特別学級との交流は中止となった。 おゆみ野地区では、障害者の家族との交流を図る「おしゃべり会」を開催。また、障害者(児)から募集したメッセージカードを七夕やクリスマスの時期にコミュニティセンターに飾った。
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり	4	区内地区部会4つのうち、子育てサロンは、重点取組地区1地区で延べ3回実施(3地区で延べ24回。前年度比23回増)。 椎名地区では、小学校・PTA・民児協・地域住民・地区部会等が連携し、漢字の学習支援・食育支援授業・地域伝統行事・昔あそび等の伝承文化の継承を行った。
5 健康づくり	1	新型コロナウイルスの感染予防のため、健康づくりに関わる専門職の招へいを中止せざるを得ないこともあったが、各地区で実施している「いきいきサロン」では健康体操等を取り入れ、高齢者の健康づくりに取り組んだ。
6 防犯・防災に対する取組み	0	避難所運営委員会が避難所開設訓練を実施している。また、町内自治会が防災訓練や防犯パトロールを実施している。
7 担い手の拡大とボランティアの促進	3	椎名地区では、身近なボランティア意識を高めることを目的に、ゴミステーションにペットボトルキャップ回収袋を設置し集めている。 土気地区では、福祉施設と地域との連携による外出支援を実施している2地区に推進役、支援役として協力を行い活動状況の把握に努めた。
8 福祉教育・啓発	4	誉田地区では、障害者施設でのボランティア活動は休止したが、慰問品の贈呈を実施した。おゆみ野地区では、障害者の家族との交流を図る「おしゃべり会」を開催。また、障害者(児)から募集したメッセージカードを七夕やクリスマスの時期にコミュニティセンターに飾った。椎名地区では、小学校・地域住民等が連携し、漢字の学習支援・食育支援授業・地域伝統行事等の伝承文化の継承を行った。
9 地域のつながりづくり	2	椎名地区では、新型コロナウイルスの感染予防のため、不特定多数が参加する行事は中止となった。 土気地区では、福祉施設と地域との連携による外出支援を実施している2地区に推進役、支援役として協力を行い活動状況の把握に努めた。
10 相談支援体制と情報提供の充実	11	4地区部会とも広報紙を発行し、地区部会や地域の活動について情報提供を実施した。 また、高齢者の集う場、子育て世代の集う場、障害者やその家族が集う場の提供を通じては、身近な相談役として相談に応じ、必要に応じて専門機関への紹介等を行った。
今年度の振り返り	35	新型コロナウイルスの感染予防のため、不特定多数が参加する大規模な地域行事は休止となることが多いが、感染予防対策がとれる地域行事は徐々に再開している傾向が見受けられるものの、新型コロナウイルス感染症の先行きが見通せない中、取組の拡充を図ることが困難となっている。
今後の課題と方針		新型コロナウイルス感染症が収束するまでは、感染症予防に配慮し、活動内容を検討する必要がある。また、各地区の状況に応じて課題が異なるが、実施している活動内容を住民に浸透させるための周知や担い手を確保するための住民意識の向上、各地域で活動する団体間の連携等が課題としてあげられる。

◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

開催日		主な議題等
令和3年度	第1回	8月3日(火) (書面開催)
	第2回	月 日()
		第5期緑区支え合いのまち推進計画(原案)の検討について

◆区の地域福祉に関する好事例等

<p>あんしんケアセンター土気が、地域貢献をしたい事業者(葬祭業者、東雲堂悠リビング土気)と千葉市いきいき体操の会場を探していた地域住民とのマッチングを行い、事業者が式場の空き時間を会場として無償提供し、地域住民が「ともびきクラブ」という体操教室を立ち上げ、令和3年度6月から、月5回程度、友引の日に実施している。</p>

緑区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
誉田地区部会エリア 【人口・世帯数】 33,676人・16,383世帯 【町内自治会数】 34町内自治会 【高齢化率】 26.1% 【地域の特徴】 緑区の東西に広く位置する地区。北部は農村地域のため人口も少ないが誉田駅近くは宅地開発が進み若い世代も多い。	④ 障害者(児)が集う場の開設・拡充・情報提供	3・8・10	コロナの感染予防対策を取り実施できる活動を無理のない範囲で実施する。	7/11 打合せ(13名参加) 施設への訪問、見学、施設行事への参加を計画。委員会後に施設に対応等確認の結果、コロナ禍であり、ご遠慮くださいとの事であり実施を見送ることに決定。 10/11 打合せ(11名参加) 今年度の慰問品贈呈先、慰問品、訪問日について検討。 2/7 5施設への慰問品贈呈を行う。 コロナ感染予防を考慮し少人数で訪問。 ・障がい者(児)「集う場の開設」に向けての検討については、各施設との考えや希望を検討した結果、次年度以降の課題とする。	・今年度は誉田地区部会から平山町、鎌取町、辺田町が分離したことに伴い、組織の見直しを行い、ボランティア委員会と障がい者福祉委員会が併合して障がい者福祉委員会となった。 誉田地区部会エリア外の施設の扱いについて関係各所との調整が必要。 ・障がい者(児)が「集う場の開設」については緑区地域福祉計画の計画見直しの様子を見て検討する。	・ボランティア活動に関する講座、学習会の開催 ・障がい者、障がい者施設等に関する講座、学習会の開催 ・障がい者施設の見学、慰問の実施 ・障がい者施設の作業手伝い ・障がい者施設の行事手伝い及び参加 ・障がい者施設への慰問品の贈呈
				②⑥ 見守り活動の推進	1	・見守り活動推進委員会を年5回開催(内4回は書面開催)し、34町内自治会に見守り活動実施調査を行い、調査結果について協議をした。 ・今年度、新しく活動を始める町内自治会はなかった。

緑区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
椎名地区部会エリア 【人口・世帯数】 5,032人・2,532世帯 【町内自治会数】 17町内自治会 【高齢化率】 23.9% 【地域の特徴】 田畑が多くある農村地域と古い住宅団地、新興住宅地が混在する町。全体の高齢化率は23.9%。局地的には30%を超えて高齢化が急速に進んでいる地域もある。	① 情報の収集と共有化	10	コロナの感染予防対策を取り実施できる活動を無理のない範囲で実施する。	「椎名だより」26、27、28号を発行した。 配布先:1,210世帯、椎名小、公民館	情報提供を通じて、地域活動への住民の参加を促進する必要がある。	「椎名だより」29、30号を発行予定。 配布先:1,210世帯、椎名小、公民館
	② 子ども達の集いの場の提供・情報提供	4・10		・漢字指導 ・羯鼓舞 ・しいのみ祭で伝承行事活動 ・食育体験(5年生対象。田植え・稲刈り、体験発表)	ボランティア活動への参加意識は十分ではない。	・漢字指導 ・羯鼓舞 ・しいのみ祭で伝承行事活動 ・食育体験(5年生対象。田植え・稲刈り、体験発表)
	③ 高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供	2・10		いきいきサロン、ふれあい食事会 コロナ禍感染拡大防止のため中止	事業継続のため、新たな運営スタッフ・指導者の育成	いきいきサロン、ふれあい食事会 コロナ禍感染拡大防止のため中止
	④ 障害者(児)が集う場の開設・拡充・情報提供	3・8・10		ヒバリ学級の活動支援 コロナ禍感染拡大防止のため中止	社協の協力体制の強化と継続	ヒバリ学級の活動支援 コロナ禍感染拡大防止のため中止
	⑥ 地域と学校との交流	4・8		椎名小学校4年生を対象に、福祉出前授業を実施した。 社協、民児協についての理解を図るとともに、助け合いの心と実践力の育成を図った。	社協の協力体制の強化と継続	椎名小学校4年生を対象に、福祉出前授業を実施予定。 SDGsの出前授業を7月に実施した。
	⑦ 地域の行事への積極的参加の呼びかけ	9		あんしんケアセンター鎌取、緑区健康課と連携した巡回健康相談会(健康相談、健康診断、体操、悩み事相談)は、コロナ禍感染拡大防止のため中止。 地域の諸行事もコロナ禍感染拡大防止のため中止となった。	地域住民の意識の啓発	あんしんケアセンター鎌取、緑区健康課と連携した巡回健康相談会(健康相談、健康診断、体操、悩み事相談)は、コロナ禍感染拡大防止のため中止。 連協、スポレク、民児協と連携し、住民に対し、行事への参加を呼び掛ける。
	⑳ 見守り活動の推進	1		ひとり暮らし高齢者等の内、見守りを希望する方に対して訪問による見守りを行っている。 コロナ禍感染拡大防止のため、訪問の見守りは自粛したが、外からの見守りは継続して実施した。 定期的に見守り協力員の意見交換を行った。	ボランティア参加意識が無	高齢者、障害者、見守りを希望する方の声かけ、挨拶、見回りを行う。
	㉑ ボランティアの確保	7		地域住民の協力を柱として生活全般について支援する意識を高めていくため、ペットボトルキャップの回収活動を4町内会で実施。	ボランティア参加意識が無	地域住民の協力を柱として生活全般について支援する意識を高めていくため、ペットボトルキャップの回収活動を6町内会で実施。

緑区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性	
土気地区部会エリア 【人口・世帯数】 44,284人・21,364世帯 【町内自治会数】 46町内自治会 【高齢化率】 30.3% 【地域の特徴】 4中学校区からなる地区であるため高齢化の進み方も地域にばらつきがある。できる限り新旧住民が協調できる事業の進め方をしていく。	③ 高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供	2・10	コロナの感染予防対策を取り実施できる活動を無理のない範囲で実施する。	・いきいきサロン—18箇所×12の予定で159回の実施、会員延1,106人、支援者延598人参加 ・感染症の発生状況により活動にばらつきがあり実施率に比し、参加率の回復が遅れている。 ・ふれあい食事会—5箇所×12の予定で55回実施、会員延235人、支援者延78人参加 ・実施回数は回復したが、会員の参加率が低い。 ・ふれあい食事会—2箇所×9の予定、会食に代わる新しい形態を検討するが賛同得られず未実施 ・会員とのつながりを確保するために、電話連絡や食事会だよりにより状況の説明等に努める。	・感染症に対する様々な思いと各活動のガイドラインを踏まえた取組みに努める。 ・連続的な不参加者の状況確認に努めるとともに、対処の仕方を検討する。 ・マンネリ化している活動を魅力ある活動に改善するための情報交換やファイル化に努める。 ・高齢化した会員と支援者の活力づくりと世代交代を目指して新規募集法を工夫する。 ・未設置地区の参加希望者を受け入れる体制づくり及び新設に向けた働き掛けを工夫する。	・いきいきサロン—18箇所×12+5月より「小食土」に新設、ガイドラインに沿った活動に努める。 ・休止の代案としての取組み、ファイル化した好評な内容の活用等により会員の参加率を高める。 ・散歩クラブ—(4箇所月1+1箇所月2)×12と第2サロンの発展としての散歩クラブの新設を図る。 ・散歩しながらできる取組みを工夫し、活動への関心を高めて会員の参加率の向上を図る。 ・ふれあい食事会—10月から会食の再開の予定、2箇所月1回の実施から新体制づくりを図る。 ・調理ボランティアの人員不足を補うとともに、会員の要望を取り入れた運営を図る。	
			④ 助け合い活動の推進	7	・大木戸台「シニア支援の会」、大椎台「助け合いの会」の定例会や活動に在住推進員を中心に推進役、支援役として参加する。 ・はなみずき台「おおかぶ会」も含めた3団体の活動内容や運営の仕方を紹介し、他地区の開設に向けて働き掛ける。 ・コロナ禍で会議や事業を自粛したため、働き掛けが余り出来なく進展していない。	・諸環境に地域差があり、取組み差が出ている。共通した困り事を中心にしながらも地域に応じた働き掛けにより助け合い活動を広めていく。 ・好事例の紹介により発意を期待していたが、より積極的な取組みとして推進員による働き掛けやアンケート調査も検討していくこととする。	・既存3団体は確実に実績を上げている。推進役、支援役として引続いて協力、支援に努める。 ・「シニア支援の会」の動機や歩みを好事例として他地区の働き掛けに活用していく。 ・自治会役員が年々交代し問題意識を持続させ、高めていくことが難しい。取組みの発案者を待つだけでなく働き掛け方を工夫していく。
			⑤ 外出困難者への支援	9・10	・福祉有償運送の休止に伴い、利用者は困窮している。車利用は容易には組織化できないので既存の団体に受け入れてもらうようにする。 ・大椎台「助け合いの会」、大木戸台「シニア支援の会」の推進役、支援役として協力する。 ・両会とも介護施設の車を利用しているが、新たに事業所の協力が得られる。 ・情宣活動が各種会議や事業の自粛により余り進展していない。	・買い物支援や通院支援の単独での組織化は多くの制約があるので、3団体を取り上げているように支え合い活動の一環として位置付けていく。 ・福祉有償運送の休止に加えてバス路線の廃止も取りざたされているので、対応を見直して支え合い活動の拡大を図る。 ・民間の移動販売や配送サービス、介護タクシーや福祉タクシーを利用しても補えない課題を明らかにして助け合い活動を推進する。	・3団体の活動の支援役として取り組んでいるが、地域の状況は様々なので引続いて主催事業としてではなく支援事業として取り組むこととする。 ・3団体は外出困難者への対応を助け合い活動の中に位置付けているが同様の対応とする。 ・各種会議や活動で情宣活動に努めるが、発案者待ちでもある。推進員による働き掛けを見直し、取組みの改善を図るようにする。 ・買い物支援の代案として移動販売や配送サービスの状況把握にも努める。
			⑥ 見守り活動の推進	1	・大椎台、大木戸台、あすみが丘第一「あすみ見守り隊」に推進役、支援役として参加、運営補助金でも支援する。 ・大椎台—対象者4名→3名、協力者20名→15名、1名を2.3人で担当して毎日実施 ・大木戸台—対象者2名(両方)+3名(ゴミ)、協力者5名、ゴミ出しも手伝い毎週2回実施 ・あすみ第一—対象者11名→9名、協力者18名→21名、5ブロックに分けて月1.2回実施 ・開設に向けた働き掛けが余り出来なかった。	・見守りとゴミ出しの同時推進も効果的である。各地区で取り組んでいる防犯パトロールなどと連携した活動のあり方も検討することとする。 ・孤立化の防止だけでなく、日常生活上の困り事を少しでも解決して安心づくりと交流づくりにも努める。 ・支援役としての推進員は開設区域在住者が中心である。他の推進員は未開設地区の支援役として開設につながる情報収集に努めるようにする。	・地域の状況は様々なので支援事業として地域における発案者や協力者を支援する活動として取り組むこととする。 ・対象者は減少しているが該当者は年々増加しているはずである。増員及び新規開設を目指して情宣活動と推進員による働き掛けをする。 ・見守りとゴミ出しは、孤立化の防止や困り事の手助けになるのでセットにした取組みに努める。

緑区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
おゆみ野地区部会エリア 【人口・世帯数】 47,085人・22,863世帯 【町内自治会数】 64町内自治会 【高齢化率】 15.2% 【地域の特徴】 街びらきして30年。まだ住宅開発が続いている地区だが、30年前に開発された地域は高齢化が目立ってきている。見守り活動等は一部自治会が取り組んでいる。	② 子ども達の集いの場の提供・情報提供	4・10	コロナの感染予防対策を取り実施できる活動を無理のない範囲で実施する。	1)子育てサロン:親子の遊び場や居場所の提供 3回 R3.5.18親子の交流 7名 R3.6.23小田先生の「親子であそぼう!」13名 R3.7.15 親子の交流 8名 場所:おゆみ野公民館・鎌取コミュニティセンター 2)9月以降の子育てサロンと研修会は新型コロナウイルス感染拡大のため中止 3)その他情報交換等のための委員会開催 8回 4)おゆみ野四季の道駅伝大会中止 5)さくらさくウォークラリー中止	新型コロナウイルス感染拡大防止対策を十分図りつつ、実施可能な事業及び方法を検討する必要がある。	1)子育てサロンの実施:年10回 開催時間:午前10時～ ・鎌取コミュニティセンター R4.5.17/R4.9.13/R5.1.17 ・おゆみ野公民館 R4.7.14/R4.11.17/R5.2.16 ・緑保健センター R4.6.1/R4.10.26/R4.12.14/R5.3.15 2)講演会・講習会・研修会の企画・参加:年1回 3)緑保健福祉センター及び地域の子育て関連 団体への支援協力と連携 4) その他情報交換等のための委員会開催
			③ 高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供	2・10	1)ふれあい・いきいきサロン:高齢者とのふれあい交流の場の提供 1回 R4.1.13千葉県警察署署員による「交通安全・防犯についての講話」17名 2)小規模いきいきサロンの開催(5か所) (おゆみ野公民館、エステンティおゆみ野、4丁目、なつめ、サンクレイドル) 3)その他情報交換等のための委員会開催 8回 4)さわやか散歩:新型コロナウイルス禍の中、「三密」を避け行事名を「さわやか散歩」と名称変更し計画したが、緊急事態宣言等の発令により開催中止。R3.5.24/R3.9.27/R3.11.29 R4.2.14雨天中止。 5)ランチの集い及び研修会は、新型コロナウイルス感染拡大のため中止。	新型コロナウイルス感染拡大防止対策を十分図りつつ、実施可能な事業及び方法を検討する必要がある。
	④ 障害者(児)が集う場の開設・拡充・情報提供	3・8・10	1)おしゃべり会:障がい児者・保護者の交流会 3回 R3/6/16 フリートーク 10名 R3/11/17 フリートーク 12名 R4/2/16 フリートーク 11名 2)イベント企画:過年度お楽しみ会参加者対象の企画、 ①鎌取コミュニティセンターに七夕飾り設置 R3/6/23～7/7短冊作成募集 短冊73名 ②鎌取コミュニティセンターにクリスマスツリー設置 R3/12/4～25キャンドルカード作成募集63名 ※クリスマスツリー写真をクリスマスカードに加工し参加者に配付 70名、泉谷中学校特別支援学級、わくわくぎふと鎌取、スリーセブン、 3) その他情報交換等のための委員会開催 5回 4) お楽しみ会は中止	新型コロナウイルス感染拡大防止対策を十分図りつつ、実施可能な事業及び方法を検討する必要がある。	1)新しい生活様式に合った地域での活動:年2回 2)おしゃべり会:障がい児者・保護者の交流会 年4回、開催時間:午前10時～、 おゆみ野公民館 R4.6.15/R4.9.21/R4.11.16/R5.2.15 3)種講習会・研究会への参加 4)施設への訪問 5)その他情報交換等のための委員会開催	
	⑤ 子育ての中の親や子どもが集う場の開設・拡充	4・10	(再掲) 1)子育てサロン:親子の遊び場や居場所の提供 3回 R3.5.18親子の交流 7名 R3.6.23小田先生の「親子であそぼう!」13名 R3.7.15 親子の交流 8名 場所:おゆみ野公民館・鎌取コミュニティセンター 2)9月以降の子育てサロンと研修会は新型コロナウイルス感染拡大のため中止	新型コロナウイルス感染拡大防止対策を十分図りつつ、実施可能な事業及び方法を検討する必要がある。	(再掲) 1)子育てサロンの実施:年10回 開催時間:午前10時～ ・鎌取コミュニティセンター R4.5.17/R4.9.13/R5.1.17 ・おゆみ野公民館 R4.7.14/R4.11.17/R5.2.16 ・緑保健センター R4.6.1/R4.10.26/R4.12.14/R5.3.15 2)講演会・講習会・研修会の企画・参加:年1回 3)緑保健福祉センター及び地域の子育て関連 団体への支援協力と連携	

緑区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の取組みの方向性	令和3年度の実績	令和3年度の取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の取組みの方向性
※おゆみ野地区部会エリア 続き	㉔ 助け合い活動の推進	7		1)ボランティア講習会 R4.1.28シニアサイン講座 まん延防止等重点措置の延長と罹患者の増大により中止 2)高齢者福祉委員会への協力(再掲) R4.1.13ふれあい・いきいきサロンに参加協力 3)その他情報交換等のための委員会開催 7回 4)登録ボランティアに対する地区部会活動のコーディネートを実施 登録ボランティア人数:R4.3現在 21名	新型コロナウイルス感染拡大防止対策を十分図りつつ、実施可能な事業及び方法を検討する必要がある。	1)ボランティア講習会:年1回(10月) 2)高齢者福祉委員会への協力 3)地域・学校行事等への協力 4)登録ボランティアに対する地区部会活動のコーディネート (行事案内、懇談会の開催、時節挨拶状の送付、名簿管理等)
	㉖ 見守り活動の推進	1		常日頃から地区民生・児童委員・各学区の育成委員会と連携を密にし、高齢者及び小中学校等地域住民の見守りをするとともに、福祉推進員の協力のもと問題等の把握を迅速に行う体制の整備に努めている。	新型コロナウイルス感染拡大防止対策を十分図りつつ、実施可能な事業及び方法を検討する必要がある。	常日頃から地区民生・児童委員・各学区の育成委員会と連携を密にし、高齢者及び小中学校等地域住民の見守りをするとともに、福祉推進員の協力のもと問題等の把握を迅速に行う体制の整備に努める。
	㉗ 健康づくり支援	5		新型コロナウイルスまん延防止等重点措置発令と罹患者の増大などにより、地域の集会やイベントの開催機会を得られなかったことなどから、関係機関の講師招へいができなかった。	新型コロナウイルス感染拡大防止対策を十分図りつつ、実施可能な事業及び方法を検討する必要がある。	各委員会の活動の中で、保健福祉センター及びあんしんケアセンター並びに地域医療関係等の協力を得て、講演や訪問などを具体的に計画する。

美浜区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)総括表

◆取組みテーマ別取組状況

取組みテーマ	重点取組項目数	主な取組内容
1 見守りの仕組みづくり	9	稲毛海岸地区部会エリアでは、以前、地区部会が作成した「あんしんカード(3年毎更新)」を民生委員の協力を得ながら活用しており、緊急時の対応に役立つものとなっている。 幸町2丁目地区部会エリアでは、幸町2丁目地区部会が実施する支え合い活動「幸町2丁目地区 支え合いの会」が、令和2年6月の発足以降、地域住民からのニーズに対応してきており頼られる存在となっている。 幕張西地区部会エリアの「見守り活動」では、15自治会のうち13自治会で見守り活動を実施した。
2 高齢者を支える仕組みづくり	12	高洲高浜地区部会エリアでは、地区部会主催のいきいきサロンをコロナ禍においても緊急事態宣言発出中以外、コロナ感染症拡大防止対策を取りながら開催(11サロン中8サロン)し、交流の場の開設・顔の見えるご近所づきあいの構築の一助を担った。 幕張西地区部会エリアでは、新たに開業したイオンタウン内のウエルシア薬局のカフェスペースを活用し、いきいきサロン(いきいきマルシェ)が開設され、買い物ついで等で気軽に立ち寄れる交流の場ができた。
3 障害者を支える仕組みづくり	6	打瀬地区部会エリアでは、認知症の不安を抱えている家族の相談の場として空き店舗を活用した「コミュニティスペース絆」を設け民生委員とも連携して相談支援活動を行っている。打瀬地区部会でも認知症カフェ「そよかぜの会」を開設。また障害のある方とその家族が談話・情報交換ができる場として「ほっとスペース」を設けている。
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり	6	打瀬地区部会エリアでは、地区部会主催の子育てサロンをコロナ禍においても緊急事態宣言発出中以外、開催し、子どもと子育て中の母親を支援した。
5 健康づくり	2	磯辺地区部会エリアでは、これまで実施してきたスポーツ振興会が主催する磯辺地区全体を対象とした運動会(バドミントン・卓球・野球等)がコロナ感染症拡大防止対策のため中止となった。磯辺地区内の地域ルームや町内自治会集会所においてコロナ感染症拡大防止対策を取りながら百歳体操を実施した。
6 防犯・防災に対する取組み	0	—
7 担い手の拡大とボランティアの促進	4	磯辺地区部会エリアでは、33地区連協 28自治会中10自治会が「支え合い活動」を実施している。コロナ禍においても、ゴミ出し・買物代行・草取り等を住民ニーズに応じて実施している。
8 福祉教育・啓発	3	幸町一丁目地区部会エリアでは、新たな担い手の発掘と住民にできるだけ外出の機会を提供することを目的に「ボランティア講座」を複数回開催している。当該講座は高齢者対象だけではなく、児童母子など幅広い方にも参加してもらえよう、理学療法士による健康に関する講座(健康教室)を開催した。
9 地域のつながりづくり	9	稲毛海岸地区部会エリアでは、地区部会主催のいきいきサロンを概ね再開した。住民同士の交流の場となっており、サロン従事者・参加者が顔見知りとなり買物時等にも声をかけることができるような関係ができてきている。 真砂地区部会エリアでは、地元 千葉西警察署より詐欺犯罪の実情と対策の講話を頂くなど、地域住民の安全・安心な生活維持のため、警察とのつながりを深めた。
10 相談支援体制と情報提供の充実	1	真砂地区部会エリアでは、地域運営委員会ホームページや広報紙・チラシ等の紙媒体を活用して地区内関係団体の情報が発信されている。また町内自治会を通じて、真砂地区部会が発行する地区部会だより「真砂ふれあいだより」を配布し地域住民に広く情報提供をすることができた。
令和3年度の振り返り	52	地域住民が策定した地域福祉計画の「共助」を中心とした活動を、コロナ禍にありながらも住民自らが把握した地域課題を解決させるため、コロナ感染症拡大防止対策を取りながら福祉活動を推進させてきた。活動にあたっては、あんしんケアセンター・社協区事務所・区いきいきプラザ・行政機関も協力し、活動再開にあたり相談支援・活動支援に努めた。

今後の課題と方針	美浜区特有の地域課題(集合住宅での高齢者独居世帯、エレベーターが設置されていない中層集合住宅の住民のひきこもり・外出困難・買物困難、新旧住民間の融合、子育て世帯と高齢者世帯との交流、支え合い活動等地域福祉活動の担い手不足、活動拠点の確保等)を解決させるため、第5期美浜区支え合いのまち地域福祉計画の基本方針に則り、具体的な取組みを検討し、コロナ感染症拡大防止に留意しながら重点的に活動を行っていききたい。
----------	--

◆美浜区支え合いのまち推進協議会の開催状況

開催日		主な議題等
令和3年度	第1回 8月25日(水)～ 9月17日(金) (書面開催)	【書面形式開催】 (1)美浜区支え合いのまち推進協 委員長・副委員長の選出について (2)「美浜区支え合いのまち推進計画の進捗状況(H30年度～R2年度)」について (3)「第5期美浜区支え合いのまち推進計画(令和4～8年度)」の原案について
	第2回 11月25日(木)	【対面形式開催】 (1)令和3年度 第1回美浜区支え合いのまち推進協議会(書面開催)にかかる議案の報告について (2)美浜区支え合いのまち推進計画(第5期 美浜区地域福祉計画)の策定について

◆美浜区の地域福祉に関する好事例等

打瀬地区部会 「健康フェスティバル」の開催

★打瀬地区部会では、令和4年3月に打瀬地区部会と打瀬公民館の共催、地元東都大学の協力で千葉市社協美浜区事務所・美浜いきいきプラザのプロデュースにより、打瀬地区の住民を対象に身体・健康測定と健康相談を行う『健康フェスティバル』を打瀬公民館にて開催しました。

主催の打瀬地区部会からはスタッフとして地域住民、東都大学幕張ヒューマンケア学部看護学科の教員と学生がボランティアとして、美浜いきいきプラザからは看護師等の専門職職員が参加し、定員以上の応募があり盛況のうちに終えることができました。

今後は、年一回 定期的に開催し継続させていくこととなりました。
このイベントは、地域住民の健康に関する意識の向上・健康増進を目的として開催するだけでなく、コロナウィルス感染症拡大防止の観点から休止・自粛していた地区部会活動(サロン活動)を「アフターコロナ」「ウィズコロナ」の時期に見合った活動再開に向けた企画提案の1つとして実施しました。

開催にあたり地区内の各種団体を連携させたことでより多くの地域資源を活用して開催させることができ今後の様々な活動において連携・協力できるような基礎を作ることもできました。



美浜区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】

- 1 見守りの仕組みづくり
- 3 障害者を支える仕組みづくり
- 5 健康づくり
- 7 担い手の拡大とボランティアの促進
- 9 地域のつながりづくり

- 2 高齢者を支える仕組みづくり
- 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり
- 6 防犯・防災に対する取組み
- 8 福祉教育・啓発
- 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	令和2年度までの重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度を取組の方向性	令和3年度の状況	令和3年度を取組において困難だった点・今後の課題	令和4年度の状況
稲毛海岸地区部会エリア 令和4年3月31日時点 【人口・世帯数】 10,281人 4,382世帯 【町内自治会数】 15町内自治会 【高齢化率】 17.2% 【地域の特徴】 地区の北側は国道14号が東西に走り、東側は黒砂水路を挟んで幸町に、西側は真砂に接し、南側は高洲となる。埋め立て前は海岸線であった。集合住宅が多く立ち並ぶ地域であったが、近年は高層マンションや一戸建て住宅街も建設されている。	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	2,3,4,9	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	地区部会のいきいきサロンについては概ね再開。住民交流の場となり社協活動の周知・普及にもつながっている。サロン参加者、従事者が顔見知りとなり買い物時も声をかける関係が出来ている。 また、顔見知りで集まるランドゴルフはコロナ禍でも実施を続けている(好きな事に対しては集まりが良い)。 ふれあい食事サービスについて、食事を作るボランティアの方が年齢等のため多く辞めたこと、コロナの状況が落ち着かないことから自分たちで食事を作って会食形式での実施から施設利用型で配食での実施を検討。しかし価格や配食数等の交渉の結果、実施には至らなかった。	地域によってはサロンの再開を検討し電話で以前の参加者に参加打診をしたところ、コロナの感染がまだ落ち着かないため参加しにくいとの意見が多くあり再開に至らなかった。 コロナの感染数拡大のため、サロンの会場に人数制限があり 会場を変更して外で開催する事もあった。	いきいきサロンや子育てサロンは再開中。 ふれあい食事サービスについては施設利用型で10月以降に再開を検討。「会食」か「配食」にするかは今後協議。
			③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネットの構築」	1	4自治会で見守り活動実施中。 以前に、全戸配布した「あんしんカード」(稲毛海岸地区部会作成)が更新(3年毎)しながら使われており、緊急時の対応に役立つものとなっている。	コロナ禍のため人が集まる会議の開催が難しい面もあり見守りを実施していない自治会へ活動を伝える機会を作れなかった。連協にも協力してもらいもう少しうまく見守り活動のアナウンスをしていきたい。

稲毛海岸地区部会エリア

美浜区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

- 【取組みテーマ】
 1 見守りの仕組みづくり
 3 障害者を支える仕組みづくり
 5 健康づくり
 7 担い手の拡大とボランティアの促進
 9 地域のつながりづくり

- 2 高齢者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり
 6 防犯・防災に対する取組み
 8 福祉教育・啓発
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	令和2年度までの重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度取組の方向性	令和3年度の状況	令和3年度取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の状況	
幸町2丁目地区部会エリア 令和4年3月31日時点 【人口・世帯数】 10,548人 6,027世帯(新港を除く) 【町内自治会数】 13町内自治会 【高齢化率】 33.9% 【地域の特徴】 東西に伸びる千葉中央港地区の土地造成・港湾地区計画により埋め立て・造成された地域。北側は旧海岸線沿いで稲毛区に接し、地区内はUR都市機構が整備した千葉幸町団地が大部分を占め、国道沿いには中高層マンションのほか、スーパー、飲食店舗、自動車関連店舗などが立地する。西端は黒砂水路を挟んで高洲・稲毛海岸地区となり、南側は京葉線を挟んで自動車関連事業所や食品コンビニナートなどが集積する。	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	2,3,4,9	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	交流の場となるいきいきサロンはコロナの影響により活動を中止。各サロンの従事者が集まり再開に向けた会議を実施。感染リスクを減少する方法として開催場所の変更(屋外での実施)やサロンの内容等新しい形態でのサロンの開催について話し合いを行った。	コロナ禍のため、交流の場となるサロンの再開については感染リスクについて慎重な意見も多く、活動再開が見送られた。	6月より一部のサロンを再開。	
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1		2年目となる「幸町2丁目地区 支え合いの会」の組織・活動等の存在が地区部会だより等の広報により地域住民に認知されるようになり、コロナ禍でも継続的に実施されてきた。特定の依頼者から何度も依頼がくることもあり、依頼件数は増加傾向にある。 当該活動により地域ニーズの把握や見守り活動(安否確認)の機能も果たされており、これまで行ってきた幸町2丁目地区 支え合いの会(幸町2丁目地区部会)・UR幸町団地生活支援アドバイザー・あんしんケアセンター幸町・602地区民児協・28地区自治連協等との連携・協働での「安心カード」の活用と併用して充実させていくことができた。	「安心カード」の新規普及は、コロナ禍でもあったことから大きな広がりはありませんでした。 「幸町2丁目地区 支え合いの会」に対する需要(ニーズ)が増える一方、活動者(協力者・サポーター)が減ってきており、担い手の新規発掘や活動者の養成が必要となっている。	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	
	⑩ 要支援・要介護高齢者のケア体制の整備【新規】	2		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため認知症徘徊模擬訓練は中止とした。	「認知症徘徊模擬訓練」は隔年実施となっており、令和2年度からはコロナウイルス感染症拡大防止のため中止となり実施できておらずコロナ禍の収束後、速やかな再開が可能か危惧される。		
		2,5		「しょうじゅ美浜」のサ高住において、認知症の方だけに限定することなく地域住民の方たちが立ち寄れる交流の場として「認知症カフェ(サロン)」を開設していたが、令和2年度からコロナウイルス感染症拡大防止の観点から会場(施設内)に入ることができなくなり、開催することが出来なくなった。通常の「ふれあい いきいきサロン」についても、感染症拡大防止点やスタッフの不在等により、開催できず活動再開のための検討にとどまった。	高齢者施設内を会場として開催される「認知症カフェ」はコロナ禍では感染症対策のため活動を再開するにはハードルが高い。実施方法等を含めどのようにすれば、感染対策を取りながら開催できるか検討していくことになる。	6月よりいきいきサロンを再開。コロナ感染拡大防止に配慮したサロン内容に見直し、脳トレ・シニア体操等を取り入れることで、安否確認・地域住民同士の交流・認知症の予防等を行っている。	
			幸町2丁目連携会議(12月と3月に対面で実施)において、幸町中央診療所が参加。あんしんケアセンター幸町・近隣医療機関等と連携しながら地域住民の健康増進・フレイル予防・ケア体制整備に向けて、関係機関との情報共有に努めた。	コロナ感染症拡大防止のため書面開催での実施になる会もあり、きめ細やかな意思疎通・情報共有にまでは至らなかった。		今年度は、9月に第1回目の幸町2丁目連携会議が「地域課題の共有と連携」をテーマに対面で実施された。	

美浜区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

- 【取組みテーマ】
 1 見守りの仕組みづくり
 3 障害者を支える仕組みづくり
 5 健康づくり
 7 担い手の拡大とボランティアの促進
 9 地域のつながりづくり

- 2 高齢者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり
 6 防犯・防災に対する取組み
 8 福祉教育・啓発
 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	令和2年度までの重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度取組の方向性	令和3年度の状況	令和3年度取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の状況
幸町一丁目地区部会エリア 令和4年3月31日時点 【人口・世帯数】 7,140人 3,426世帯(新港を除く) 【町内自治会数】 19町内自治会 【高齢化率】 30.8% 【地域の特徴】 東西に伸びる千葉中央港地区の土地造成・港湾地区計画により埋め立て・造成された地域。北側は旧海岸線沿いで、中央区登戸に接する。地区内は高層低層の集合住宅が大部分を占め、一部戸建て住宅があるほか、国道沿いには大型事業所も立地する。西端は道路を挟んでJR千葉みなと駅や千葉市役所などが立地する中央区千葉港地区となり、南側は京葉線を挟んで自動車関連事業所や食品コンビナートなどが集積する。	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	2,3,4,9	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	ふれあいサロンなどは、新型コロナウイルス感染症の影響により、活動場所が使用禁止になることがあったが、会場が使用できる状況になれば感染拡大防止対策を取りながら実施している。	新型コロナウイルス感染症拡大により、まだ住民やボランティアにも不安感が強い。また事業を進めるにしても、活動場所の利用制限がかかることもあるため、状況を見ながら進めていく必要がある。	・4月からいきいきサロン・アネモネ・手話の会を再開し、ふれあい食事会も5月から再開した。6月はバス旅行を実施した。 ・あんしんケアセンターとの顔の見える関係の構築に努めている。(広報誌小窓に記事掲載・社協各活動に職員が参加し顔見知りになる) ・閉じこもり・不安の解消に向けて、見守り電話の導入を検討している。また、コロナで閉じこもらないよう屋外活動各種と、屋内でのポッチャ競技を秋以降実施する予定。 ・法改正が予定されている成年後見制度にかかる勉強会を開催する予定。
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネットの構築」	1		ふれあい食事会については、新型コロナウイルス感染症の影響により活動を休止した(令和2年度はテイクアウト方式で一時実施)。		
	② 支え合い意識の醸成	8		平成30年度より「新たな担い手の発掘」と「住民にできるだけ外出の機会を提供」することを目的にボランティア講座を開催している。令和3年度は理学療法士による健康教室を1回開催した。		

幸町一丁目地区部会エリア

美浜区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】

- 1 見守りの仕組みづくり
- 3 障害者を支える仕組みづくり
- 5 健康づくり
- 7 担い手の拡大とボランティアの促進
- 9 地域のつながりづくり

- 2 高齢者を支える仕組みづくり
- 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり
- 6 防犯・防災に対する取組み
- 8 福祉教育・啓発
- 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	令和2年度までの重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度 of 取組の方向性	令和3年度 of 状況	令和3年度 of 取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度 of 状況
高洲・高浜地区部会エリア 令和4年3月31日時点 【人口・世帯数】 38,319人 19,684世帯 【町内自治会数】 29町内自治会 【高齢化率】 32.1% 【地域の特徴】 区のほぼ中央に位置し、JR京葉線稲毛海岸駅があり、駅前には大型商業施設があるほか、行政施設としてコミュニティセンター・図書館、金融機関などの機能が集積し、その周りをUR都市機構の集合住宅団地や民間マンションなどの住宅地区が取り囲んでいる。北は稲毛海岸(町名)、南側は高浜に接しており、東側は黒砂水路を挟んで幸町、西側は草野水路を挟んで真砂・磯辺に接している。 高浜地区は、海岸線に接しており、海辺には日本一の長さを誇る人工海浜や稲毛海浜公園が整備されている。隣接する高洲地区と連なった集合住宅団地の地区を形成するほか、西側に隣接する磯辺地区ほどではないが5丁目・6丁目にはまとまった戸建て住宅地区も存在する。	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	2,3,4,9	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	コロナ禍においても、サロンの開催内容等を工夫し、交流の場となるいきいきサロンについては11サロン中8サロンを実施、散歩クラブについては活動場所が屋外であり感染リスクが低いと考えられることから2クラブ全ての実施となり、顔の見えるご近所づきあいの構築の一助を担った。	こどもカフェが休止中で世代間交流が出来なかった。市補助金の予算が削られ、コロナ禍で子供が学校から出られないこともあり再開は困難の状況となっている。	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1		これまで明生苑との勉強会を定期的に行い施設職員の方に認知症の事について話を伺ったりする交流があったが、コロナ禍により連携を保ちつつ勉強会の再開を検討することとなった。 また、令和3年度は認知症を含め様々な老後のリスクをゲーム感覚で学べるハッピーエンディングカード講座(終活)を当該地区部会と高洲コミュニティセンターの共催での準備を行ったが天候不良とコロナ感染拡大の影響により中止となった。	コロナ感染拡大防止のため外部の方が施設内に入って行くことが困難な状況となっている。したがって外部(地域住民等)との交流や勉強会・会議等が開催できない状態になっている。	昨年度に企画し中止となっていたハッピーエンディングカード講座を実施。参加者の中で希望者には個々の老後のリスクについてまとめたものを書面にて郵送。老後のリスク管理を考える等終活の一助となっている。
	⑦ ボランティア人材の育成	7		令和元年11月に介護相談室隣接のコンビニ(ケアローン)がオープンし、地域の交流の場として活用できるよう各団体が連携して催事を企画し広報等を行っている。 ケアローン内の地域交流スペースを見守り活動の中心的拠点として有効活用できるよう引き続き検討を行っている。	コロナ禍のため会議等の開催が困難な状況となっている。地域住民同士が会えないことから疎遠となり声が掛けにくくなるという負の循環に陥ってしまっている。 ケアローンについて、まだまだ地域に周知されていない面もある。アクセスが多少悪くても行きたいと思わせる高齢者の要望に合わせた計画(イベント)等が必要かと思われる。	UR(生活支援アドバイザー)・社協美浜いきいきプラザと地域住民による脳年齢測定イベントを実施。 今年度は、地域福祉団体と連携、強化して勉強会やイベントを検討していきたいと考えている。
			コロナ禍のためボランティア講座等イベントが実施できなかったため、ボランティアの発掘・養成、担い手の必要性の周知が困難であった。	コロナ禍で地域住民が集まる機会を作ることが困難であったが、今後は地域住民・自治会向けの勉強会・ボランティア講座等を地域福祉団体とも連携して開催に向けて検討していきたいと考えている。 若い世代も参加出来るイベント等の実施により世代間の交流から担い手への養成へとつなげていきたい。	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	

高洲・高浜地区部会エリア

美浜区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】

- 1 見守りの仕組みづくり
- 3 障害者を支える仕組みづくり
- 5 健康づくり
- 7 担い手の拡大とボランティアの促進
- 9 地域のつながりづくり

- 2 高齢者を支える仕組みづくり
- 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり
- 6 防犯・防災に対する取組み
- 8 福祉教育・啓発
- 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	令和2年度までの重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度の方針の方向性	令和3年度の状況	令和3年度の方針において困難だった点・今後の課題	令和4年度の状況
真砂地区部会エリア 令和4年3月31日時点 【人口・世帯数】 25,342人、12,625世帯 【町内自治会数】 32町内自治会 【高齢化率】 32.0% 【地域の特徴】 北は国道14号に接し、花見川区及び稲毛区、一部は稲毛海岸に隣接し、花見川を挟んで西は若葉、草野水路を挟んで東は高洲地区に接する。南はJR京葉線の線路を挟んで磯辺に接する。 区の東西の中央に位置した拠点地区であり、JR京葉線検見川駅付近から北側一帯に行政機関・商業施設などが集積されている。美浜区役所のほか美浜保健福祉センター・文化ホール複合施設、美浜消防署、真砂中央公園があるほか、千葉西警察署や西県税事務所などの県の機関も地区内に立地、駅周辺エリアには大型の商業施設や高層マンションが集まっている。	⑩ 地域での助け合い活動の推進	7.9	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	・助け合い活動は継続的に実施していた。	・たすけあいの活動拠点を維持する経費が増えているが、個人情報が入ったファイル等の保管場所としても使用しているため拠点を維持する必要がある。 ・コロナの感染予防に係る経費(消毒関係の消耗品やマスク等の購入)もかさんでいるため経費を捻出する必要がある。	・助け合い活動の利用者は亡くなったり、施設に入ったりで減少しているが、新規の依頼者が増えるので依頼数の変化はあまりない。 ・また、地区部会のチラシや口コミで依頼が入っている。
	⑬ 誰もが身近に得ることができ、分かりやすい情報の発信	10		・地区部会の広報誌や地域運営委員会のホームページで情報発信している。 ・自治会を通じてPR活動を行っていた。 ・ドコモのスマホ教室を試験的にボランティア役員向けに行った。	・たすけあい活動のボランティアは、活動スタート当初と比較減っている。また若い世代のボランティアはいない(が良い策が見当たらない)。 ・真砂地区は詐欺被害がとて多いため対策が必要である。	・文化ホールで音楽と芸能のイベントを行い、人を集めた際に地区部会活動のPRをしたいと考えている。 ・ドコモのスマホ教室を一般向けに行う予定である。
	⑯ 地域と連携した支援の推進【新規】	2.9		・警察から詐欺についての実情と対策の話をしてもらった。		・警察から詐欺についての実情と対策の話をしてもらい、今年は重点化しようと思っている。 ・JFA夢フィールドで警察署と地域の方々が集まって詐欺被害に関するイベントの準備会議を行った。PR効果が高いことを行うようになっている。

真砂地区部会エリア

美浜区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】

- 1 見守りの仕組みづくり
- 3 障害者を支える仕組みづくり
- 5 健康づくり
- 7 担い手の拡大とボランティアの促進
- 9 地域のつながりづくり

- 2 高齢者を支える仕組みづくり
- 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり
- 6 防犯・防災に対する取組み
- 8 福祉教育・啓発
- 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	令和2年度までの重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度 of 取組の方向性	令和3年度 of 状況	令和3年度 of 取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度 of 状況					
幕張西地区部会エリア	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネットの構築」	1	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	<ul style="list-style-type: none"> ・幕張西地区部会エリア内において15自治会のうち、13自治会が見守り活動を実施した。 ・年1回の見守りCoo定例会を開催し、各町内自治会の情報共有を図った。 ・見守り活動から発展した支え合い活動を実施させている自治会も出始めてきており、支え合い活動の立ち上げについても、今後社協・あんしんケアセンター・生活支援コーディネーター等と連携を図りながら進めていく予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り活動の未実施自治会への働きかけを引続き行っていく必要がある。 ・見守り活動がスタートした自治会やコーディネーター・協力員等の支援として、情報交換の機会を充実させる必要がある。 ・コロナ禍で外出を控え地域行事には出てこれなくなってしまう方には、お誘いの声掛けをする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、徐々に活動を再開していきたい。 ・感染症対策や実施方法の変更を講じながら7月末に第30地区連の夏祭りを3年ぶりに開催しとても好評だった。 ・ただし今年も敬老会の開催は難しいのでお祝いの品を届ける形になる。 ・3密を避けた行事として映画会を実施した。 					
令和4年3月31日時点							⑦ 町内自治会・集合住宅の集会所など地域資源を活用した交流の場づくり	2,3,4,9	<ul style="list-style-type: none"> ・幕張西に新たに開業したイオンタウン内のウエルシアのカフェスペースにサロンができた。買い物ついで等で立ち寄る場所に開設ができた。 ・ガイドラインを遵守し感染対策を取った体操の実施や新しいサロンの形態について検討し実施した。 		
【人口・世帯数】										15町内自治会	<ul style="list-style-type: none"> ・地区部会主催で1回のボランティア講座を開催し、地区部会活動や地域のボランティア活動についての理解を深めた。現状の地区部会役員・活動者(スタッフ)に対し、社会福祉協議会主催の研修会の参加案内を行いモチベーションの維持を図った。
11,896人、4,855世帯											
【町内自治会数】	20.7%	⑫ ボランティア人材の育成	7								
【高齢化率】											
【地域の特徴】											
区の北西端に位置した国道14号と東関東自動車道との間に広がる住宅地域。 浜田川を挟んで東側は花見川区幕張町、国道14号を挟んで北側は花見川区幕張本郷、西側は習志野市、南側は浜田に接している。 国道沿いにはゴルフ練習施設のほか、商業店舗が立ち並んでいるほかは、戸建て住宅地域が広がっている。 国道14号より海側はかつての海岸線であるが、幕張西地区よりも埋め立ての時期が早かった地域については花見川区幕張町に編入されている。											

幕張西地区部会エリア

美浜区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】

- 1 見守りの仕組みづくり
- 3 障害者を支える仕組みづくり
- 5 健康づくり
- 7 担い手の拡大とボランティアの促進
- 9 地域のつながりづくり

- 2 高齢者を支える仕組みづくり
- 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり
- 6 防犯・防災に対する取組み
- 8 福祉教育・啓発
- 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	令和2年度までの重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度 of 取組の方向性	令和3年度 of 状況	令和3年度 of 取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度 of 状況
磯辺地区部会エリア 令和4年3月31日時点 【人口・世帯数】 18,994人、8,302世帯 【町内自治会数】 29町内自治会 【高齢化率】 35.2% 【地域の特徴】 JR京葉線検見川浜駅及び京葉線の線路の手前まで、西は花見川を挟んで打瀬に接し、東は草野水路を挟んで高浜に接する。 駅の南側周辺には中高層マンションや団地が建ちならび、UR都市機構の磯辺第一団地等の大規模な団地がある。その外側には、定住性の高い戸建の住宅地が海に向かって広がっており、中高層の団地・マンションなどが立ち並ぶ。海岸の手前には県立磯辺高校、県立千葉西高校があり、県救急医療センター、海浜病院などの公的機関が存在する。	⑩ 地域での助け合い活動の推進	7,9	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	・28自治会中10自治会が支え合い活動を実施。コロナ禍でもゴミ出しや買い物代行、草取りを実施している。 ・見守り活動は5自治会で実施し、地区部会から5千円ずつ支援している。検討中で未実施の自治会に対してはパンフレットを渡すなどして、実施に向けて啓発を行った。	・新型コロナウイルス感染症の影響で、支え合い活動未実施の町内自治会に直接説明に伺うことが出来なかった。 ・あんしんケアセンターの協力を得ながら体力測定会も実施しフレイル予防につなげたいが、たくさんの方が集まると密になるため見送った。	・磯辺地区全体を対象とした運動会やソフトボール大会をコロナ感染対策を講じて実施する予定。 ・盆踊りは中止した。 ・敬老会は9町内自治会が実施する。 ・地区部会と地区連協の共催で支え合い活動実践者の話を未実地地区の方に聞いてもらう機会を作りたいと考えている。 ・フレイル予防については健康体操などを通じて積極的に進めていきたい。 ・高齢者実態調査から支え合い活動のニーズ把握が出来ると考えている。 ・コロナの収束の兆しが見え、地域ルールの飲食が可能となれば、出入り自由な居場所の設置を考えている。 ・5月より地域ルームで100歳体操が再開された。
	⑫ 健康づくりイベント等への参加促進	5		・スポーツ振興会が主催する磯辺地区全体を対象とした運動会は新型コロナウイルス感染症の影響で中止した。 ・地域ルームや町内自治会集会所においてコロナウイルス感染拡大状況を鑑みながら百歳体操を実施している。		
	⑪ 支え合い意識の醸成	8		・新型コロナウイルス感染症の影響で、人が集まることが難しく、支え合い意識を醸成する機会をもつことが難しかった。		

磯辺地区部会エリア

美浜区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】

- 1 見守りの仕組みづくり
- 3 障害者を支える仕組みづくり
- 5 健康づくり
- 7 担い手の拡大とボランティアの促進
- 9 地域のつながりづくり

- 2 高齢者を支える仕組みづくり
- 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり
- 6 防犯・防災に対する取組み
- 8 福祉教育・啓発
- 10 相談支援体制と情報提供の充実

地区部会エリア	令和2年度までの重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度取組の方向性	令和3年度の状況	令和3年度取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度の状況
打瀬地区部会エリア	令和4年3月31日時点	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	・民児協では、高齢者実態調査の中止を余儀なくされ、安心カードの普及までには至らず、住民への周知までに留まった。	・緊急通報システムについては、抵抗感が強い利用者が増えない。	・民生委員による高齢者実態調査が実施され、安心カードの登録者は増えている。
				・子育てサロンは、緊急事態宣言期間以外、人数制限しながらも実施した。	・新型コロナウイルス感染症の影響で、住民が集う盆踊りやもちつきが中止になった。	・民生委員を騙った詐欺が増えているため、65歳以上の方全員に注意喚起の書面を配布する。
				・育成委員会として夜間パトロールは実施した。	・地域福祉計画を進めるにあたり、区連協で計画が主要テーマとなっていない。	・不登校児の居場所づくりがボランティア組織で始まっている。
				・街区ごとでの見守り活動の必要性について住民への啓発活動としての周知拡大までには至らなかった。	・防災委員会や各街区の管理組合で情報を集めているものの、個人情報、かつ、開示に本人同意が必要なため、横の連携は困難な状態。	・住民の移動支援の取組としてグリーンスローモビリティの実証実験が秋以降に実施される。
【人口・世帯数】	⑦ 町内自治会・集合住宅の集会所など地域資源を活用した交流の場づくり	2,3,4,9	24,936人、9,220世帯	・31の団体会で自治会連合会のリモート会議を実施し、市、県、県警等の情報共有をおこなっている他、防災防犯交通の各分野の専門領域にて、必要な情報の共有を図っている。	・千葉県供給公社は、支えあいの街の推進や地域コミュニティへの参画に対して、組織として関心が薄く、対応に苦慮している。	・街区の見守り活動を進めることを検討している。
【町内自治会数】			24町内自治会	・空き店舗を活用したコミュニティスペース絆が認知症の不安を抱えている家族の相談の場として機能している。		・3年連続で例年行われている行事は中止となっている。
【高齢化率】			10.8%	・絆において月4回、民生委員が常駐しなんでも相談にのっている。	・新型コロナウイルス感染症の影響で盆踊りや餅つきは中止した。	
【地域の特徴】			東側は花見川、西側・南側は幕張海浜公園、北側はJR京葉線の線路に囲まれた幕張新都心地区の高層マンション地区。 他の幕張新都心地区と同様に県企業庁により計画的に整備され、沿道中庭式の中層住宅を中心に、石畳風の道路舗装やデザインされた信号機などヨーロッパ風の街並み景観で統一されている。 中心部には図書館と公民館の複合施設である「ベイトウンコア」があり、各種活動の中心となっているほか、プロムナードやバレンタイン通り沿いの住戸を中心に1階には幕張ベイトウン商店街振興組合の店舗が軒を連ねている。 平成24年にはシーサイドデッキが完成し、海沿いの幕張海浜公園・幕張の浜エリアへの動線が確保され、海がより近い存在となった。	⑩ 要支援・要介護高齢者のケア体制の整備【新規】	2	・打瀬地区部会が認知症の家族会「そよ風」を新型コロナウイルス感染症の対策に留意しながら5回実施した。
				・また、シルバーウッド社が手掛ける「バーチャルリアリティ」技術を用いた「VR認知症体験会」を開催し、認知症を正しく理解することと、認知症に関する意見交換を行った。		
				・さらに東都大学に協力を仰ぎ、第1回「健康フェスティバル」を開催した。		

打瀬地区部会エリア